

# 官 東 號 外

大正十一年三月一日 水曜日

印 刷 局

## 第四十五回 帝國議會衆議院議事速記錄第二十號

大正十一年二月二十八日(火曜日)午後一時十九分開議  
議事日程 第十九號 大正十一年二月二十八日

午後一時開議

### 質問

- 一 關東州ノ支那人壓迫ニ關スル質問(清水留三郎君外一名提出)
- 二 陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ニ對スル質問(野村嘉六君提出)
- 三 普通教育並中等教育ニ關スル質問(野溝傳一郎君提出)
- 一 銃砲火薬類取締法中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第四 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第五 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 破產法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第八 和議法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第九 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第十一 大正九年法律第十二號中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第十二 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十三 所得稅法中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第十四 相續稅法中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會
- 第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出)  
(貴族院送付) 第一讀會

第十六 印紙稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十七 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十八 臺灣銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十九 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十一 貨幣法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十三 裁判所ノ設立ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二十四 大正二年法律第九號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十六 大正十年勅令第三百七十五號(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付) 第一讀會

第二十七 大正十年勅令第三百七十六號(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付) 第一讀會

第二十八 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二十九 和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三十 決議案(安達謙藏君外五名提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十一 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十二 決議案(安達謙藏君外五名提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十三 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十四 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十五 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十六 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十七 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十八 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第三十九 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第四十 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第四十一 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第四十二 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第四十三 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

第四十四 決議案(佐々木安五郎君提出)  
(原田書記官朗讀) 第一讀會

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

農業組合法案

提出者 土井 権大君

(以上二月二十七日提出)

國庫支辨ニ依ル雇員傭人ニ退職手當支給ニ關スル建議案

提出者 中村 清造君

有馬 秀雄君

江崎幸太郎君 青柳郁次郎君

八木 逸郎君 山田 永俊君

岩崎宗茂助君 宜保 成晴君

松下 祚二君 三浦得一郎君

中馬 與九君 香川 保忠君

南千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 鈴木 隆君 前田 米藏君

土屋 與君 中島 守利君

長谷場 敦君 秋本 喜七君

森 守利君 鳩山 一郎君

内山安兵衛君

吉野小一郎君

秋本 喜七君

大崎松田間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 森 格君 小鹽八郎右衛門君

中島 守利君 土屋 與君

天春 文衛君

木曾川外二川架橋速成ニ關スル建議案

提出者 加藤久米四郎君 三輪市太郎君

(以上二月二十七日提出)

衆議院議員野村嘉六君提出陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員野溝傳一郎君提出普通教育並中等教育ニ關スル質問ニ對スル答辯書

陪審法案

明治四十年法律第四十九號中改正法律案

右成規ニ據リ提出候也

(以上二月二十八日提出)

大正十一年二月二日

提出者 清水留三郎

賛成者 平出喜三郎

外二十九名

關東州ノ支那壓迫ニ關スル質問主意書

李子明ニ故ナク退去處分ヲ命シタル如キ金建反對ノ

支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セシメタル如キハ支那

人ノ對日感情ヲシテ益悪化セシムモノニ非スヤ政府

ノ所見如何

二三十里堡ノ支那人耕作地ヲ無償取上ケ之ヲ和田某ト

ト共ニ支那人ノ反感ヲ招キシコト妙カラスト思考ス政

ニ下付シタル如キハ官紀紊亂綱紀頽廢ノ一事實タル

府ノ所見如何

右及質問候也

大正十一年二月二十八日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿

人壓迫ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員清水留三郎君外一名提出關東州ノ

支那人壓迫ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一大連取引所ニ於テ賣買取引ニ用フル建値ヲ金ニ變

更セラル、ヤ大連華商公議會副會頭李子明ハ百方

其ノ實行ヲ阻止セムトシ之カ爲自己ノ地位ヲ利用シ

テ金建取引ヲ爲サントスル支那人ヲ脅迫シテ其ノ營

業ヲ妨害シ又日本輸入綿絲布不買同異ヲ計畫シ

或ハ滿鐵沿線各地商務會ニ不穩文書ヲ發送シテ熾

其ノ後同志ニ使嗾セラレテ義ノ誓約ヲ破り再ヒ華商

ニ排日排貨ヲ煽動スル等其ノ行動過激ニ涉ルモノアリ

タルヲ以テ大連民政署長ハ彼ニ對シ再三警告ヲ與ヘ

財界ヲ攪亂スルノ惧アリタルヲ以テ民政署長ハ客年

五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ其ノ不心得ヲ戒メ且

此際一時州外ニ旅行スルコト得策ナルヘキ旨ヲ忠告

シタルニ彼ハ署長ノ厚意ヲ謝シテ翌日營口ニ旅行シ

タルコトアルモ退去處分ヲ命シタルコトナシ又支那人ヲ

威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルカ如キコト更ニナシ

二三十里堡水田ハ元來官有地ニシテ從來之ヲ農民ニ

貸下ケ小作料ヲ徵收シ來リタルモノナルカ大正九年

右貸下期間滿了シ一方官ニ於テ金州ニ農事試驗場

ヲ移轉スル爲其ノ豫定地ヲ買收スルノ必要アリタル

ニ由リ該貸下土地ト和田某所有ニ係ル右豫定地ト

ヲ交換シタルニ和田某ト農民トノ間ニ前記水田ノ小

作料ニ付一時爭議アリタルモ其後圓満ニ解決ヲ告ケ

其ノ間毫モ官紀紊亂綱紀頽廢ノ事實ナシ

右及答辯候也

大正十一年二月二十八日

内閣總理大臣子爵高橋是清

陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ニ對スル質問

主意書

理大臣ノ海軍大臣事務管理ハ事實ニ於テ否認スル

ニ均シ況ヤ軍備國防ハ國力ト相俟タルヘカラス即チ

ニ由リ該貸下土地ト和田某所有ニ係ル右豫定地ト

ハ現ニ文官大臣ニテ海軍大臣事務ヲ管理セリ

今日ノ趨勢ハ國家ノ財政其ノ他諸般ノ政務ト倍不

可分ノ關係ヲ滋フス是レヲ歐米各國ニ見ルモ文明國

ハ殆ト陸海軍大臣ニ文官制度ヲ採用セリ而シテ日本

ハ現ニ文官大臣ニテ海軍大臣事務ヲ管理セリ

内閣官制第七條事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ

天皇ノ旨ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セラル、ノ件ヲ除ク

外陸軍大臣海軍大臣ヨリ報告ヲ受クルノミニテ其ノ責ヲ盡スコト

シトアリテ内閣總理大臣ハ單ニ報告ヲ受クルニ止マレ

リ一面憲法第五十五條ニハ國務各大臣ハ天皇ヲ輔

弼シ其ノ責ニ任ストアリ輔弼ノ責任アル各大臣カ陸

海軍大臣ヨリ報告ヲ受クルノミニテ其ノ責ヲ盡スコト

ヲ得ヘキヤ殊ニ軍機軍令ニ關スルコトハ國務中ノ重

大事ナリト信ス此ノ點ニ對シ政府ハ同官制ヲ改正シ

憲法第五十五條ノ國務大臣輔弼ノ責任ヲ充分ニ盡

サシムル意ナキヤ

右及質問候也

大正十一年二月十八日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿

人壓迫ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員野村嘉六君提出陸海軍大臣任命ニ

關スル官制改正ニ對スル質問答辯書

官制改正ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

大正十一年二月十五日

提出者 野溝傳一郎 賛成者 安藤 正純

外二十九人

設ニ一定ノ制限アルハ所謂義務教育統一ノ眞義ニシテ地方ノ自由裁量ヲ許シタルハ卽畫一打破ノ本旨ノ在ル所ナリ

普通教育並中等教育ニ關スル質問主意書

一政府ハ刻下ノ急務タル小學校教育費問題解決ノ爲本院ノ建議ヲ容レテ地方教育行政調査會ヲ設ケ之

カ對策ヲ講セシメシモ既ニ半歲ノ餘ヲ閱シテ猶未タ成

案ノ以テ此ノ急ニ應スルモノナク僅ニ得タル假決議ナルモノハ物論ノ囂囂ヲ招キテ其ノ何レニ歸スルヤフ知

ラス市町村ハ今ヤ次年度計畫ニ關シテ多大ノ困惑ニ陥リツツアリ政府ハ何故ニ速ニ之を解決ノ方途ニ出

大正十一年二月二十八日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

文部大臣 中橋徳五郎

一今二十八日貴族院ニ於テ本院送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

家畜傳染病豫防法案(政府提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲

一昨二十七日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

未成年者飲酒禁止法案 理事 望月 政友君(理事大石大君補闕)

一今二十八日當任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第一部選出豫算委員大矢馬太郎君(菊池長右衛門君補闕)

第五部選出懲罰委員高見之通君(永屋茂君補闕)

第七部選出決算委員齊藤巳三郎君(川副綱隆君補闕)

第八部選出懲罰委員山移定政君(森山儀文治君補闕)

第九部選出懲罰委員近藤達兒君(渡邊昭君補闕)

一今二十八日六大城市行政監督ニ關スル法律案委員

野田文一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ阿由葉勝作君ヲ議長ニ於テ選定セリ

○議長(奥繁三郎君) 會議ヲ開キマス、議事ノ進行ニ關シテ板野友造君ヨリ發言ヲ求メラレマシタ、此際之ヲ許シマス、板野君

○議長(奥繁三郎君) 坪田君何デスカ

○坪田十郎君 委員會ヲ開キタイト思ヒマス、六大城市行政監督ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キマシテ、府縣制

シ第一及第二ノ質問ニ對シテハ意見陳述ノ申出アリマス、之ヲ許可致シマス、陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正

マス

○議長(奥繁三郎君) 坪田君ヨリ委員會開會ノ請求ガ

○議長(奥繁三郎君) 會議ヲ開キマス、議事ノ進行ニ關

スル上ニ大關係ガアルカラ、此財源ニ付テ速ニ私ノ質問ニ

アル筈デアルソレデアルカラ「私ガ此處デ殊更ニ政府ニ追

テ、政府ガ其約束ヲ履ムカドウカト云フト、大正十一年度ノ都市計

畫事業ニ付テハ、各都市トモ豫算ヲ市會ヘ提出シテ居ル、

若シ政府ガ約束ヲ履マナイトスレバ、各都市共相當ノ考カ

スル上ニ大關係ガアルカラ、此財源ニ付テ速ニ私ノ質問ニ

アルノデモ何デモナイガ、大正十一年度ノ事業ヲスル上ニ

テ、政府ガ其約束ヲ履ムカドウカト云フト、大正十一年度ノ財源トシテ、之ヲ取ラスヤウニスルト云フコトヲ約束シテ

リマセバ、私ハ此處デ別ニ急ギ立テルト云フ意味デハア

陸海軍大臣任命ニ關スル官制改正ニ對スル質問ノ答辯ニ對スル野村嘉六君ノ意見（野村嘉六君提出）

○野村嘉六君 私ハ陸海軍大臣任用ニ關スル官制改正ノ點ニ付テ當局ニ質問ヲスルノデアリマス、今一ツハ帷帳上奏ノ關係ニ於テ質問ヲ致シタインデアリマス、陸軍省官制第二十六條、海軍省官制第十七條、此條文ニ依リマスルト云フト、陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ孰レモ現役ノ陸海軍大中將ニ限ラレテ居ルノデアリマス、併シ山本内閣ノ當時此範圍ガ擴張サレマシテ、豫後備マテ其有資格者ト爲シタノアリマス、私ハ進ンデ之ヲ普通ノ文官ニ改ムル必要ハナイカ、文官ヲ以テ陸海軍大臣ニスル意思ガナイカト云フ質問ガ第一ノ趣意デアリマス、私ハ斯ウ質問ヲスルノハ二ツノ理由ガアルノデアリマス第一ハ文官ヲ以テ陸海軍大臣ニシテモ事實上差支ナイ、此點アル、今一ツハ軍人ヲ以テ陸海軍臣ニシナケレバナラヌト云コトハ、或ル情弊ニ因ハレタル所ノ結果アル、更ニ第三ト致シマシテハ、各國ノ權衡上、各國ニ對スル關係上、文官ヲ以テスルノハ我國ノ利益ナリ、此三點ニ基イテ當局ノ意見ヲ質ス次第ニアリマス、事實ニ於テ差支ナイト云フ事ハドノ點ヲ以テ言フカト云コト、申スマデモアリマセヌ、昨年十月時ノ海軍大臣加藤友三郎氏ガ、華府會議ノ全權委員ノ一人トシテ派遣サレタノデアル、其間海軍大臣トシテ事務ヲ執ルベキ人ハ無カタノデアル、所グ原總理大臣ハ當時内閣官制第九條「各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其事務ヲ管理スヘシ」ト云フ内閣官制ノ第九條ニ基キマシテ、サウシテ海軍大臣ノ事務ヲ管理サレタノデアリマス、其後内田臨時總理大臣、現高橋總理大臣、此三大臣ニ及シテ居ルノデアリマス、大臣ノ事務管理ト云コトハ申スマデモアリマセヌ、詰大臣ノ仕事ソレ自體ヲ攝シ處理スルノデアリマス、唯大臣ト云フ特殊ノ辭令ハ受ケマセヌケレドモ、其内容、職責タル事務ニ付テハ、全部執行スル責任ガアルノデアリマス、而シテ原、内田、高橋此三總理大臣、即チ海軍大臣事務ヲ管理シタル人ハ、孰レモ文官出デアルト云コトハ、今更此處ニ申上ゲル必要ハナインデアル、或ハ時期ガ短イト云フ議論ガアルカ知レマセヌケレドモ、免モ角モ此三大臣ガ海軍ノ事務ヲ處理シテ、今日未ダ支障ノアルト云フ事ハ間カヌノデアル、之ガ爲ニ不便ヲ感ジタト云コトハ聞カヌノデアル、然ラバ此文官大臣ニ依テ、海軍大臣ノ事務ガ完全ニ圓滿ニ施行サレテ居ルト云フ事ハ、此點ニ依テ證明サレルノデアリマス、若シ又差支ガアル、圓滿ニ行カズ事務ノ躊躇ヲ來シ、或ハ海軍大臣トシテ不當ヲアッタナラバ、必ズヤ何カ其間

ニ於テ問題ガ起ルニ相違ナイノデアル、併シソレヲ押包ンデノ點ニ付テ當局ニ質問ヲスルノデアリマス、今一ツハ帷帳上奏ノ關係ニ於テ質問ヲ致シタインデアリマス、陸軍省官制第二十六條、海軍省官制第十七條、此條文ニ依リマスルト云フト、陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ孰レモ現役ノ陸海軍大中將ニ限ラレテ居ルノデアリマス、併シ山本内閣ノ當時此範圍ガ擴張サレマシテ、豫後備マテ其有資格者ト爲シタノアリマス、私ハ進ンデ之ヲ普通ノ文官ニ改ムル必要ハナイカ、文官ヲ以テ陸海軍大臣ニスル意思ガナイカト云フ質問ガ第一ノ趣意デアリマス、私ハ斯ウ質問ヲスルノハ二ツノ理由ガアルノデアリマス第一ハ文官ヲ以テ陸海軍大臣ニシテモ事實上差支ナイ、此點アル、今一ツハ軍人ヲ以テ陸海軍臣ニシナケレバナラヌト云コトハ、或ル情弊ニ因ハレタル所ノ結果アル、更ニ第三ト致シマシテハ、各國ノ權衡上、各國ニ對スル關係上、文官ヲ以テスルノハ我國ノ利益ナリ、此三點ニ基イテ當局ノ意見ヲ質ス次第ニアリマス、事實ニ於テ差支ナイト云フ事ハドノ點ヲ以テ言フカト云コト、申スマデモアリマセヌ、昨年十月時ノ海軍大臣加藤友三郎氏ガ、華府會議ノ全權委員ノ一人トシテ派遣サレタノデアル、其間海軍大臣トシテ事務ヲ執ルベキ人ハ無カタノデアル、所グ原總理大臣ハ當時内閣官制第九條「各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其事務ヲ管理スヘシ」ト云フ内閣官制ノ第九條ニ基キマシテ、サウシテ海軍大臣ノ事務ヲ管理サレタノデアリマス、其後内田臨時總理大臣、現高橋總理大臣、此三大臣ニ及シテ居ルノデアリマス、大臣ノ事務管理ト云コトハ申スマデモアリマセヌ、詰大臣ノ仕事ソレ自體ヲ攝シ處理スルノデアリマス、唯大臣ト云フ特殊ノ辭令ハ受ケマセヌケレドモ、其内容、職責タル事務ニ付テハ、全部執行スル責任ガアルノデアリマス、而シテ原、内田、高橋此三總理大臣、即チ海軍大臣事務ヲ管理シタル人ハ、孰レモ文官出デアルト云コトハ、今更此處ニ申上ゲル必要ハナインデアル、或ハ時期ガ短イト云フ議論ガアルカ知レマセヌケレドモ、免モ角モ此三大臣ガ海軍ノ事務ヲ處理シテ、今日未ダ支障ノアルト云フ事ハ間カヌノデアル、之ガ爲ニ不便ヲ感ジタト云コトハ聞カヌノデアル、然ラバ此文官大臣ニ依テ、海軍大臣ノ事務ガ完全ニ圓滿ニ施行サレテ居ルト云フ事ハ、此點ニ依テ證明サレルノデアリマス、若シ又差支ガアル、圓滿ニ行カズ事務ノ躊躇ヲ來シ、或ハ海軍大臣トシテ不當ヲアッタナラバ、必ズヤ何カ其間

ニ於テ問題ガ起ルニ相違ナイノデアル、此陸海軍大臣ノ特別地位ニ居ラレルヤウナ諸君デハナインデアル、故ニ私ハ此奏ノ關係ニ於テ質問ヲ致シタインデアリマス、惟フニ又陸海軍範圍ガ擴張サレマシテ、豫後備マテ其有資格者ト爲シタノアリマス、私ハ進ンデ之ヲ普通ノ文官ニ改ムル必要ハナイカ、文官ヲ以テ陸海軍大臣ニスル意思ガナイカト云フ質問ガ第一ノ趣意デアリマス、私ハ斯ウ質問ヲスルノハ二ツノ理由ガアルノデアリマス第一ハ文官ヲ以テ陸海軍大臣ニシテモ事實上差支ナイ、此點アル、今一ツハ軍人ヲ以テ陸海軍臣ニシナケレバナラヌト云コトハ、或ル情弊ニ因ハレタル所ノ結果アル、更ニ第三ト致シマシテハ、各國ノ權衡上、各國ニ對スル關係上、文官ヲ以テスルノハ我國ノ利益ナリ、此三點ニ基イテ當局ノ意見ヲ質ス次第ニアリマス、事實ニ於テ差支ナイト云フ事ハドノ點ヲ以テ言フカト云コト、申スマデモアリマセヌ、昨年十月時ノ海軍大臣加藤友三郎氏ガ、華府會議ノ全權委員ノ一人トシテ派遣サレタノデアル、其間海軍大臣トシテ事務ヲ執ルベキ人ハ無カタノデアル、所グ原總理大臣ハ當時内閣官制第九條「各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其事務ヲ管理スヘシ」ト云フ内閣官制ノ第九條ニ基キマシテ、サウシテ海軍大臣ノ事務ヲ管理サレタノデアリマス、其後内田臨時總理大臣、現高橋總理大臣、此三大臣ニ及シテ居ルノデアリマス、大臣ノ事務管理ト云コトハ申スマデモアリマセヌ、詰大臣ノ仕事ソレ自體ヲ攝シ處理スルノデアリマス、唯大臣ト云フ特殊ノ辭令ハ受ケマセヌケレドモ、其内容、職責タル事務ニ付テハ、全部執行スル責任ガアルノデアリマス、而シテ原、内田、高橋此三總理大臣、即チ海軍大臣事務ヲ管理シタル人ハ、孰レモ文官出デアルト云コトハ、今更此處ニ申上ゲル必要ハナインデアル、或ハ時期ガ短イト云フ議論ガアルカ知レマセヌケレドモ、免モ角モ此三大臣ガ海軍ノ事務ヲ處理シテ、今日未ダ支障ノアルト云フ事ハ間カヌノデアル、之ガ爲ニ不便ヲ感ジタト云コトハ聞カヌノデアル、然ラバ此文官大臣ニ依テ、海軍大臣ノ事務ガ完全ニ圓滿ニ施行サレテ居ルト云フ事ハ、此點ニ依テ證明サレルノデアリマス、若シ又差支ガアル、圓滿ニ行カズ事務ノ躊躇ヲ來シ、或ハ海軍大臣トシテ不當ヲアッタナラバ、必ズヤ何カ其間

ニ於テ問題ガ起ルニ相違ナイノデアル、此陸海軍大臣ノ特別地位ニ居ラレルヤウナ諸君デハナインデアル、故ニ私ハ此奏ノ關係ニ於テ質問ヲ致シタインデアリマス、惟フニ又陸海軍範圍ガ擴張サレマシテ、豫後備マテ其有資格者ト爲シタノアリマス、私ハ進ンデ之ヲ普通ノ文官ニ改ムル必要ハナイカ、文官ヲ以テ陸海軍大臣ニスル意思ガナイカト云フ質問ガ第一ノ趣意デアリマス、私ハ斯ウ質問ヲスルノハ二ツノ理由ガアルノデアリマス第一ハ文官ヲ以テ陸海軍大臣ニシテモ事實上差支ナイ、此點アル、今一ツハ軍人ヲ以テ陸海軍臣ニシナケレバナラヌト云コトハ、或ル情弊ニ因ハレタル所ノ結果アル、更ニ第三ト致シマシテハ、各國ノ權衡上、各國ニ對スル關係上、文官ヲ以テスルノハ我國ノ利益ナリ、此三點ニ基イテ當局ノ意見ヲ質ス次第ニアリマス、事實ニ於テ差支ナイト云フ事ハドノ點ヲ以テ言フカト云コト、申スマデモアリマセヌ、昨年十月時ノ海軍大臣加藤友三郎氏ガ、華府會議ノ全權委員ノ一人トシテ派遣サレタノデアル、其間海軍大臣トシテ事務ヲ執ルベキ人ハ無カタノデアル、所グ原總理大臣ハ當時内閣官制第九條「各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命ヲ承ケ其事務ヲ管理スヘシ」ト云フ内閣官制ノ第九條ニ基キマシテ、サウシテ海軍大臣ノ事務ヲ管理サレタノデアリマス、其後内田臨時總理大臣、現高橋總理大臣、此三大臣ニ及シテ居ルノデアリマス、大臣ノ事務管理ト云コトハ申スマデモアリマセヌ、詰大臣ノ仕事ソレ自體ヲ攝シ處理スルノデアリマス、唯大臣ト云フ特殊ノ辭令ハ受ケマセヌケレドモ、其内容、職責タル事務ニ付テハ、全部執行スル責任ガアルノデアリマス、而シテ原、内田、高橋此三總理大臣、即チ海軍大臣事務ヲ管理シタル人ハ、孰レモ文官出デアルト云コトハ、今更此處ニ申上ゲル必要ハナインデアル、或ハ時期ガ短イト云フ議論ガアルカ知レマセヌケレドモ、免モ角モ此三大臣ガ海軍ノ事務ヲ處理シテ、今日未ダ支障ノアルト云フ事ハ間カヌノデアル、之ガ爲ニ不便ヲ感ジタト云コトハ聞カヌノデアル、然ラバ此文官大臣ニ依テ、海軍大臣ノ事務ガ完全ニ圓滿ニ施行サレテ居ルト云フ事ハ、此點ニ依テ證明サレルノデアリマス、若シ又差支ガアル、圓滿ニ行カズ事務ノ躊躇ヲ來シ、或ハ海軍大臣トシテ不當ヲアッタナラバ、必ズヤ何カ其間

定ノ改正デアル、内閣官制ノ第七條ニ斯ウ云フ規定ガアル  
ヘ事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之

ヲ内閣三下附セラル、ノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ

内閣總理大臣ニ報告スベシ世ニ謂フ所ノ帷幄上奏權デ

アル、私ハ此點ニ對シテ先日政友會ノ大岡君ガ此議會ニ

於テ、帷幄上奏權ヲ廢サナケレバナラヌト云フ議論ト意見

ヲ徹底的ニ述べラレタノデアルガ、大岡君ハ斯ク申サレテ居

ル宣戰講和ハ大權ノ發動ニ仰ゲキコト勿論ノ義デアル

マス、併ナガラ憲政ノ治下ニ帷幄ノ上奏ト云フモノ、アルコ

トハ、甚ダ不可思議ト謂ハナケレバナリマセヌ私ハ此點ニ

對シテ確ニ大岡君ト同意見デアルノデアル、更ニ又進ンデ

況ヤ總理大臣モ之ニ干與スルコトガ出來ヌト云フヤウナコ

トニ至リマシテハ、愈ニ以テ不可思議トセナケレバナラヌノデ

アリマス」徹底的ニ帷幄上奏ノ不可ナリト云フコトヲ大岡

君が述ヘラレテ居ルノデアル、私モ此意見ニ對シテハ全然贊

成デアル、帷幄上奏ト云フ特殊ノ關係ガアルカラシテ、茲ニ

軍閥ガ根據ヲ造リ巢ラクウノデアル、申ス迄モアリマセヌ、憲

法ノ第五十五條ニハ「國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責

ニ任ス」トアル、帷幄上奏ニ上ルベキ問題ハ何デアルトスウ

申シマスト云フト、主ナルモノハ國防用兵デアル、此國防用

兵ト云フモノハ、國家ノ國務ノ中ノ最セ重大ナル問題デア

ルノデアリマス、此重大ナル國務ヲ帷幄上奏ノ名ノ下ニ於

明ニ依リマシテモ、約十二三項アルノデアル、其中ノ主ナル  
項目ヲ申シマスト云フト、即チ第一作戦計畫ニ關スル所ノ事  
項デアル、第一ニハ外國ニ軍隊ヲ派遣スル事項デアル、其他  
澤山アリマス、帷幄上奏ニ依テ是等が決定シテ、此結果ヲ  
總理大臣ニ報告シテ然ルベク行政上ノ手續ヲ履メト申シ  
テモ、此天皇ヲ輔弼スル所ノ大責任ノアル國務大臣ハ、ドウ  
シテ之ガ實行ガ出来ルデアリマセウカ（拍手）作戦計畫ヲス  
ルニハ、勿論國防上ノ關係ヲ顧慮セナケレバナラヌノデアル、  
國防上ノ關係ヲ顧慮スルニハ、ドウシテモ總テノ政務ト互ニ  
交叉シテ總理大臣ノ考慮贊襄ノ關係ニ置カナケレバナラヌ  
ノデアル、又外國ニ軍隊ヲ派遣スル點ニ付テモ同様デアル、  
既ニ決定シテ御親裁ヲ經テ時ノ總理大臣ニ報告シテ、此  
事後ノ手續ハ貴官ニ於テ然ルベク——若シモ斯ノ如キ事ガ  
アッタナラバドウシテ時ノ總理大臣ガ輔弼ノ任ヲ盡スコトガ  
出来ルデアリマセウカ（拍手）全ク帷幄上奏ナルモノハ憲法  
ノ上ニ一ツノ憲法ヲ置イテ、而モ責任ヲ憲法上ニ有セナイ  
所ノ機關ナリト私ハ信ズルノデアル（拍手）憲法上ニ責任ヲ  
有セナイヤウナル機關デアッタナラバ、立憲國ノ大ナル部分ヲ  
破壞スルモノナリト斷言サレテモ辯解ノ辭ハ無イト私ハ信  
ズルノデアル（拍手）私ハ國防用兵ハ必ず國務デアル、斯ウ  
断言スルノデアル、而シテ各大臣ハ總テノ政務ニ對シテ——  
國務ニ對シテ輔弼ノ責任ガアル、而モ此責任ノ本タルヤ、昨  
日今日ニ始テ居ルノデナイン、此點ニ對シテ一言申シテ置  
キマス、孝德天皇ノ詔ニ斯ウ云フ「夫レ天地ニ君タル萬民ヲ宰スル者獨制スハカラス要ハ臣翼ヲ須ツ」即チ臣  
ノ翼ヲ須ソト云フノデアル、天皇ハ獨制ハ出来ヌ、臣翼ヲ  
須ツテサウシテ万事ノ國務ヲ行フト云フ此思召ハ、孝德天  
皇ノ時代ニ既ニ詔ニ依テ明カデアリマス、之ガ立憲政體ニ  
ナリマシテ、所謂輔弼ノ責任ニ歸著スルノデアル、此大ナル  
大臣ノ輔弼ノ外ニ、帷幄上奏ナル制度ヲ設ケテ、サウシテ誰  
も、私シ辯解ノ途ガ無イト斯ウ思フデアル（拍手）准ニ帷幄  
上奏ハ軍閥ノ隠レテ以テ一ツノ城廓ト爲シ、國家ノ利益ト  
ノ責任ヲ負フト云フ、茲ニ明確ナル關係ガ明ニナ  
ニハ、陛下ニ對シテ匡救獻替ノ責ガアルノデアリマス、此責ハ  
即チ國務大臣自ラ躬ノハ決シテ盡スコトハ出來ヌト云フコトヲ  
報告シテ、サウシテ此國務大臣ノ必要ナル獎順賛襄ノ職務  
ハ盡サレルノデアリマセウカ、匡救獻替ノ義務ハ果サレルデ  
アリマセウカ、如何ナル人ト雖モ私ハ國務大臣トシテ、輔弼  
ノ大責任ト云フコトニナルノデアリマス、出來タ後ノ結果ダケヲ  
兹ニ断言スルノデアル、併シ帷幄上奏ハ單ニ將卒ノ指揮權  
ノミニ止マルコトアッタナラバ、憲法ノ他ノ條文ニ依テ是  
ハ別問題デアル、帷幄上奏ニ關スル事項ハ政府當局ノ辯

○議長（奥繁三郎君）質問第一關東州ノ支那人壓迫ニ  
關スル質問ノ意見陳述、清水留三郎君

項ヲ申シマスト云フト、即チ第一作戦計畫ニ關スル所ノ事

項デアル、第一ニハ外國ニ軍隊ヲ派遣スル事項デアル、其他  
澤山アリマス、帷幄上奏ニ依テ是等が決定シテ、此結果ヲ

○清水留三郎君 諸君、本員ハ關東州ノ支那人壓迫ニ  
對スル清水留三郎君登壇

對スル清水留三郎君ノ意見

關係、ソレ等ノ關係ノ人ミガ官憲ニ反抗シテ支那人ヲ屠  
動シ、而シテ種々ナル物議ヲ醸シテ居ル現在ノ如き狀態、更  
ニ政府ノ後援ヲ賴ミトシテ居リマス所ノ彼ノ朝鮮銀行ノ如  
キハ、徒ニ無謀ナル所ノ貸付ヲ爲シテ財界ヲ攪亂シ、サウシ  
テ醜怪ナル行動ヲ爲シテ居ル、私ハ銀建全建ノ此兩派ノ裏  
面ニ於ケル醜怪ナル行動ニ付テハ、此所ニ之ヲ論ズルモ屑  
シトシナイノアアル、唯政策論ト致シマシテ、政府ノ當局が  
大連ト云フ、一小都會ノミニ波々トシテ居リマシ  
テ、國家ノ上ヨリ何等考慮シテ居ラヌノアアル、大連ニ於ク  
ル所ノ現在ノ取引所、所謂此取引所ノ如キモノハ却テ今  
日ニ於テハ有害アル、私ハ豆トカ豆粕ノ取引ニ於テハ須  
ラク之ハ現物取引ダケヲ埠頭ノ取引ニ許シ、而シテ定期取  
引ハ寧ロ此内地ニ移シテ、或ハ神戸ナリ、大阪ナリ、東京ナ  
リノ取引所ニ合併シテモ宜シカラウト思フノアアル、唯政府  
ハ單純ニ大連ト云フ一小都會ノ所謂財閥ノ爲ニ誤ラレテ、  
サウシテ此所謂大連ト云フ風ノ一小都會ノミ眠中ニ置イ  
テ、國家ノ大體ノ上カラ何等御考慮ヲ拂シテ居ラザルコト  
ヲ私共ハ非常ニ遺憾ニ感ズルノアリマスル（拍手）而シテ  
私ガ茲ニ質問ヲ出シテ居リマス問題ハ二ツデアル、第一ノ  
問題ハ此質問書ニモ吉イテアリマス李子明、所謂大連公  
諸會ノ副會長ヲシテ居リマスル李子明ニ退去處分ヲ命ジ  
タルコト或ハ金建反対ノ支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セ  
シメタル如キハ、支那人ノ對日感情ヲシテ益惡化セシムル  
モノデハナイカト云フ第一ノ質問アル（拍手）之ニ對スル  
政府ノ答辯ニ依リマスト、李子明ニ退去處分ニ對シ、政府  
ノ言フ所ハ民政署長ハ客年五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ  
其不心得ヲ戒メ、且ツ此際一時州外ニ旅行スルコトノ得  
策ナルベキ旨ヲ忠告シタルニ、彼ハ署長ノ好意ヲ謝シテ翌日  
營口ニ旅行シタルコトアルモ、退去處分ヲ命ジタルコトナシ、  
是ハ言フニ落テ語ルニ落ナタ、所謂退去處分ヲ命ジタル  
コトナシト云フガ、私共ノ大連ニ於テ聞イタ所ニ依ルト、一  
種ノ退去處分ト云フノアアル、又假令政府ノ言フ通り退去  
處分ニアラズトモ、之ヲ強制的ニ而モ警察官ヲ以テ李子明  
ニ對シ、オ前ハ旅行シナカレバイケナイ、大連ニ居ラハイケテ  
イ、即日旅行セヨト言テ警察官ヲシテ嚴談セシメタト云フ  
コトハ、是ハ私ハ假令表面ハ退去處分ヲ命ジタルコトハ、  
ト何等擇ブ所ハアルマイト思フノアリマス（拍手）更ニ政  
府ハ又支那人ヲ威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルガ如キコ  
トハ更ニシテ云フノ答辯ニアリマスルガ、私共ノ調ヘニ依リ  
マスルト、李子明以外ニ幾多ノ實例ガアル、例ヘテ見ルト、大  
連ニ於ケル日支合辦龍口銀行ノ取締役ヲシテ居リマスル、  
有力ナル大連ノ輸入商張松山ト云フ人が、此銀建ヨリマス  
建ニナ、テ取引ヲスル場合ニ、此取引ヲスルコトハ不利益金

アルト言テ取引ヲ拒否スルヤ、大連ニ於ケル所ノ民政署ノ  
刑事ノ連中ハ、此張松山ヲシテ取引セシムベク、張松山ガ  
家ニ居ルト云フト、遂ニ刑事ハ其閨房ニ迄侵入シ、サウシテ  
シトシナイノアアル、唯政策論ト致シマシテ、政府ノ當局が  
大連ト云フ、一小都會ノミニ波々トシテ居リマシ  
テ、國家ノ上ヨリ何等考慮シテ居ラヌノアアル、大連ニ於ク  
ル所ノ現在ノ取引所、所謂此取引所ノ如キモノハ却テ今  
日ニ於テハ有害アル、私ハ豆トカ豆粕ノ取引ニ於テハ須  
ラク之ハ現物取引ダケヲ埠頭ノ取引ニ許シ、而シテ定期取  
引ハ寧ロ此内地ニ移シテ、或ハ神戸ナリ、大阪ナリ、東京ナ  
リノ取引所ニ合併シテモ宜シカラウト思フノアアル、唯政府  
ハ單純ニ大連ニ於ク風ノ一小都會ノミ眠中ニ置イ  
テ、國家ノ大體ノ上カラ何等御考慮ヲ拂シテ居ラザルコト  
ヲ私共ハ非常ニ遺憾ニ感ズルノアリマスル（拍手）而シテ  
私ガ茲ニ質問ヲ出シテ居リマス問題ハ二ツデアル、第一ノ  
問題ハ此質問書ニモ吉イテアリマス李子明ニ退去處分ヲ命ジ  
タルコト或ハ金建反対ノ支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セシムル  
モノデハナイカト云フ第一ノ質問アル（拍手）之ニ對スル  
政府ノ答辯ニ依リマスト、李子明ニ退去處分ニ對シ、政府  
ノ言フ所ハ民政署長ハ客年五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ  
其不心得ヲ戒メ、且ツ此際一時州外ニ旅行スルコトノ得  
策ナルベキ旨ヲ忠告シタルニ、彼ハ署長ノ好意ヲ謝シテ翌日  
營口ニ旅行シタルコトアルモ、退去處分ヲ命ジタルコトナシ、  
是ハ言フニ落テ語ルニ落ナタ、所謂退去處分ヲ命ジタル  
コトナシト云フガ、私共ノ大連ニ於テ聞イタ所ニ依ルト、一  
種ノ退去處分ト云フノアアル、又假令政府ノ言フ通り退去  
處分ニアラズトモ、之ヲ強制的ニ而モ警察官ヲ以テ李子明  
ニ對シ、オ前ハ旅行シナカレバイケナイ、大連ニ居ラハイケテ  
イ、即日旅行セヨト言テ警察官ヲシテ嚴談セシメタト云フ  
コトハ、是ハ私ハ假令表面ハ退去處分ヲ命ジタルコトハ、  
ト何等擇ブ所ハアルマイト思フノアリマス（拍手）更ニ政  
府ハ又支那人ヲ威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルガ如キコ  
トハ更ニシテ云フノ答辯ニアリマスルガ、私共ノ調ヘニ依リ  
マスルト、李子明以外ニ幾多ノ實例ガアル、例ヘテ見ルト、大  
連ニ於ケル日支合辦龍口銀行ノ取締役ヲシテ居リマスル、  
有力ナル大連ノ輸入商張松山ト云フ人が、此銀建ヨリマス  
建ニナ、テ取引ヲスル場合ニ、此取引ヲスルコトハ不利益金

アルト言テ取引ヲ拒否スルヤ、大連ニ於ケル所ノ民政署ノ  
刑事ノ連中ハ、此張松山ヲシテ取引セシムベク、張松山ガ  
家ニ居ルト云フト、遂ニ刑事ハ其閨房ニ迄侵入シ、サウシテ  
シトシナイノアアル、唯政策論ト致シマシテ、政府ノ當局が  
大連ト云フ、一小都會ノミニ波々トシテ居リマシ  
テ、國家ノ上ヨリ何等考慮シテ居ラヌノアアル、大連ニ於ク  
ル所ノ現在ノ取引所、所謂此取引所ノ如キモノハ却テ今  
日ニ於テハ有害アル、私ハ豆トカ豆粕ノ取引ニ於テハ須  
ラク之ハ現物取引ダケヲ埠頭ノ取引ニ許シ、而シテ定期取  
引ハ寧ロ此内地ニ移シテ、或ハ神戸ナリ、大阪ナリ、東京ナ  
リノ取引所ニ合併シテモ宜シカラウト思フノアアル、唯政府  
ハ單純ニ大連ニ於ク風ノ一小都會ノミ眠中ニ置イ  
テ、國家ノ大體ノ上カラ何等御考慮ヲ拂シテ居ラザルコト  
ヲ私共ハ非常ニ遺憾ニ感ズルノアリマスル（拍手）而シテ  
私ガ茲ニ質問ヲ出シテ居リマス問題ハ二ツデアル、第一ノ  
問題ハ此質問書ニモ吉イテアリマス李子明ニ退去處分ヲ命ジ  
タルコト或ハ金建反対ノ支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セシムル  
モノデハナイカト云フ第一ノ質問アル（拍手）之ニ對スル  
政府ノ答辯ニ依リマスト、李子明ニ退去處分ニ對シ、政府  
ノ言フ所ハ民政署長ハ客年五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ  
其不心得ヲ戒メ、且ツ此際一時州外ニ旅行スルコトノ得  
策ナルベキ旨ヲ忠告シタルニ、彼ハ署長ノ好意ヲ謝シテ翌日  
營口ニ旅行シタルコトアルモ、退去處分ヲ命ジタルコトナシ、  
是ハ言フニ落テ語ルニ落ナタ、所謂退去處分ヲ命ジタル  
コトナシト云フガ、私共ノ大連ニ於テ聞イタ所ニ依ルト、一  
種ノ退去處分ト云フノアアル、又假令政府ノ言フ通り退去  
處分ニアラズトモ、之ヲ強制的ニ而モ警察官ヲ以テ李子明  
ニ對シ、オ前ハ旅行シナカレバイケナイ、大連ニ居ラハイケテ  
イ、即日旅行セヨト言テ警察官ヲシテ嚴談セシメタト云フ  
コトハ、是ハ私ハ假令表面ハ退去處分ヲ命ジタルコトハ、  
ト何等擇ブ所ハアルマイト思フノアリマス（拍手）更ニ政  
府ハ又支那人ヲ威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルガ如キコ  
トハ更ニシテ云フノ答辯ニアリマスルガ、私共ノ調ヘニ依リ  
マスルト、李子明以外ニ幾多ノ實例ガアル、例ヘテ見ルト、大  
連ニ於ケル日支合辦龍口銀行ノ取締役ヲシテ居リマスル、  
有力ナル大連ノ輸入商張松山ト云フ人が、此銀建ヨリマス  
建ニナ、テ取引ヲスル場合ニ、此取引ヲスルコトハ不利益金

アルト言テ取引ヲ拒否スルヤ、大連ニ於ケル所ノ民政署ノ  
刑事ノ連中ハ、此張松山ヲシテ取引セシムベク、張松山ガ  
家ニ居ルト云フト、遂ニ刑事ハ其閨房ニ迄侵入シ、サウシテ  
シトシナイノアアル、唯政策論ト致シマシテ、政府ノ當局が  
大連ト云フ、一小都會ノミニ波々トシテ居リマシ  
テ、國家ノ上ヨリ何等考慮シテ居ラヌノアアル、大連ニ於ク  
ル所ノ現在ノ取引所、所謂此取引所ノ如キモノハ却テ今  
日ニ於テハ有害アル、私ハ豆トカ豆粕ノ取引ニ於テハ須  
ラク之ハ現物取引ダケヲ埠頭ノ取引ニ許シ、而シテ定期取  
引ハ寧ロ此内地ニ移シテ、或ハ神戸ナリ、大阪ナリ、東京ナ  
リノ取引所ニ合併シテモ宜シカラウト思フノアアル、唯政府  
ハ單純ニ大連ニ於ク風ノ一小都會ノミ眠中ニ置イ  
テ、國家ノ大體ノ上カラ何等御考慮ヲ拂シテ居ラザルコト  
ヲ私共ハ非常ニ遺憾ニ感ズルノアリマスル（拍手）而シテ  
私ガ茲ニ質問ヲ出シテ居リマス問題ハ二ツデアル、第一ノ  
問題ハ此質問書ニモ吉イテアリマス李子明ニ退去處分ヲ命ジ  
タルコト或ハ金建反対ノ支那人ヲ威嚇シテ取引ヲ強要セシムル  
モノデハナイカト云フ第一ノ質問アル（拍手）之ニ對スル  
政府ノ答辯ニ依リマスト、李子明ニ退去處分ニ對シ、政府  
ノ言フ所ハ民政署長ハ客年五月十四日更ニ彼ヲ招致シテ  
其不心得ヲ戒メ、且ツ此際一時州外ニ旅行スルコトノ得  
策ナルベキ旨ヲ忠告シタルニ、彼ハ署長ノ好意ヲ謝シテ翌日  
營口ニ旅行シタルコトアルモ、退去處分ヲ命ジタルコトナシ、  
是ハ言フニ落テ語ルニ落ナタ、所謂退去處分ヲ命ジタル  
コトナシト云フガ、私共ノ大連ニ於テ聞イタ所ニ依ルト、一  
種ノ退去處分ト云フノアアル、又假令政府ノ言フ通り退去  
處分ニアラズトモ、之ヲ強制的ニ而モ警察官ヲ以テ李子明  
ニ對シ、オ前ハ旅行シナカレバイケナイ、大連ニ居ラハイケテ  
イ、即日旅行セヨト言テ警察官ヲシテ嚴談セシメタト云フ  
コトハ、是ハ私ハ假令表面ハ退去處分ヲ命ジタルコトハ、  
ト何等擇ブ所ハアルマイト思フノアリマス（拍手）更ニ政  
府ハ又支那人ヲ威嚇シテ金建取引ヲ強要シタルガ如キコ  
トハ更ニシテ云フノ答辯ニアリマスルガ、私共ノ調ヘニ依リ  
マスルト、李子明以外ニ幾多ノ實例ガアル、例ヘテ見ルト、大  
連ニ於ケル日支合辦龍口銀行ノ取締役ヲシテ居リマスル、  
有力ナル大連ノ輸入商張松山ト云フ人が、此銀建ヨリマス  
建ニナ、テ取引ヲスル場合ニ、此取引ヲスルコトハ不利益金





ナイトシタナラバ、矢張現在ノ四年カラ進ムガ宜イガ、五年

マデヤラシテ然ル後ニ高等學校ハ入ラセルガ宜カト云フ

事ニ付テハ、十分ナ考慮ヲ拂テ適當ナル解決ヲ茲ニ付ケラ

レル事ガ、非常ニ緊喫ナ事デハナカラウカト思ヒマスカ故ニ、

此質問ヲ發シタ次第アリマス、ドウノ此點ニ付テ當局ハ

唯漫然ト只今御答辯ニナリマシタヤウニ——「中學校第四

學年終了者ヲシテ高等學校ニ入學セシムルノ制度ハ延テ

中學校教育ニ多少ノ影響アルハ勿論ナリト雖モ之ヲ以テ

直ニ中學校教育ヲ破壊スルモノト認メズ當局ハ此制度ノ

實施ヲ圓滿ナラシムルガ爲常ニ周到ナル注意ヲ怠ラス」ト

云フヤウナ漫然タル事デナクシテ、十分深切ナル注意ヲ拂ハ

レテ、此弊害ヲ出來ルダケ除去スルコトニ努メラレンコトヲ

希望致ス次第アリマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 日程第一第三ハ便宜上一括議題

ト爲スニ御異議ナリマセヌカ

〔異議ナン〕〔異議ナシ〕(聲起ル)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程第一銃砲火薬類取締法中改正法律案、日程第三壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス小橋内務次官

## 第一 銃砲火薬類取締法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付) 第一讀會

銃砲火薬類取締法中改正法律案

第一條 銃砲火薬類取締法中左ノ通改正ス

第一銃砲火薬類取締法中改正法律案、日程第三壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス小橋内務次官

ノ限ニ在ラス

第二條 火薬、爆薬ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲ス

コトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政

官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火薬、爆薬ヲ一定

ノ期間試験ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二ヲ削ル

第四條 第二項ヲ左ノ如ク改ム

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上

ノ同種類ノ火薬類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火薬類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第十四條中「第二條第一項第三號ノ規定ニ依リ製造又

ハ變形若ハ修理シ得ル普通火薬類ノ範圍」ヲ新規ノ發

明ニ係ル火薬類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合ヲ

除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變

形又ハ修理シ得ル普通火薬類ノ範圍」ニ改ム

第十六條中「第二條」ヲ削ル

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案(政府

提出) 第一讀會

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案

第一條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販

賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ命令ニ定ムル所ニ依リ行政

官廳ノ許可ヲ受クヘシ

相續又ハ法人ノ合併ニ因リ前項ノ業ヲ繼承スル場合

ハ前項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條 行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯

藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者カ本法若ハ本法ニ基キテ

發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ

虞アリト認ムルトキハ其許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ

停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ壓縮

瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所、貯藏所其ノ

他之ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ壓縮瓦斯

液化瓦斯及其ノ容器蓋之ヲ收藏スルノ疑アル物件

若ハ事業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ検査セシムルコト

ヲ得

行政官廳ハ試験ノ用ニ供スル爲必要ナル数量ニ限り

當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ヲ

無償ニテ收去セシムルコトヲ得

瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運

送瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帶ヲ禁止シ

又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦

斯ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第五條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

二 壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器ノ製造、貯藏、

販賣、授受、使用、運搬其ノ他ノ取扱

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタ

ル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第八條 第三條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ

ハ第三條若ハ第四條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏

ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執

行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛

偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯

藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產

者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ

之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ

營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ

付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯

藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、

家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業ニ關シ

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ

自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ

得ス

第十一條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收

以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ

本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

附 則

○政府委員(小橋一太君) 只上ノ上程ニナフテ居リマス

銃砲火薬類取締法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致

シマス、現行銃砲火薬類取締法ニ依リマスレバ、軍用銃砲

及軍用火薬類ノ製造ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合

輸出ノ目的ヲ以テスル場合、試験製造ノ爲ニスル場合等ノ

外ハ、目下營業トシテ民間ニ於テ之が製造ハ許シテ居リマス

マシテハ、行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ製造シ得ル場合ハ理化學ノ實驗ノ場合ニ限テ居リマスケレドモ、狩獵用ニ用井ル場合、又ハ射的練習用、或ハ發火演習用等ノ特殊ノ用法ニ供シマス場合ニ於キマシテハ、火薬類ノ製造ハ其使用ノ數量及其用途ニ徴シマシテ、之ヲ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ製造シ得ル途ヲ開キマシテモ、取締上更ニ差支ナイノミナラズ、至テ便利デアリマスルガ故ニ、其許可ヲ受ケザル場合ハ是ハ命令ノ規定ニ譲テ、火薬製造ノ途ヲ開クコトニ致シタノデアリマス、其二點ニ付テ本法律案ノ改正ヲ致シマス、次第デアリマスルガ故ニ、何卒慎重御審議ノ上御協賛アランコトヲ願ヒマス、次ニ日程第三ニナッテ居ル壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案ノ提出ノ理由ヲ簡単ニ申止ダ致シマス、化學工業ノ勃興ニ伴ヒマシテ、酸素、水素、「アンモニア」等ノ瓦斯ヲ壓縮、又ハ液化致シマシテ、鋼鐵罐ニ充填致シタルモノヲ鐵ノ鎔接、或ハ融接用、或ハ冷凍用、即チ冷藏用等ニ使用スルモノガ漸次此頃増加致シマシテ、之ガ製造貯藏、運搬等ノ際ニ於キマシテ、瓦斯爆發ノ慘禍ヲ演ジマシテ、人命、財產三障害ヲ與ヘタル事例ガ少クナインデアリマス、而シテ今後益々是等ノ瓦斯ヲ使用スル者ガ增加致シマスル傾向ニ徵シマシテ、今日ニ於テ取締法ヲ制定致シマシテ、危害豫防上必要ナル處置ヲ執ルコトハ洵ニ必要ト認メ、本案ヲ提出致シマシタル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 日程第三ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——作間耕逸君  
 (作間耕逸君登壇)  
 ○作間耕逸君 私ハ瓦斯ノ取締法案ガ提出ニ相成リマシタ此機會ニ於キマシテ、瓦斯等ノ行政監督上ノ方針ニ付テ政府當局ニ御尋致シタイトス、國民ノ都市生活ニ必要アリマスル所ノ事務ノ經營、例ヘバ電燈、電車、瓦斯ノ如キ、之ヲ市町村其他ノ公共團體ニ許可セラレマスル場合ハ別デアリマスル、報償契約ニ基イテ個人又ハ私設ノ營業會社等ニ御許シニ付キマシテハ、唯單ニ保安又ハ衛生警行政監督上ノ取締ニ付キマシテハ、十分ニ御注意ヲ下サル必要ガアラウト思フノデアリマス  
 ○議長(奥繁三郎君) 一寸作間君ニ御注意致シマス、瓦

斯事業法案ハ近日出ルト云フコトデアリマス、只今出テ居ルノハ孰用ノ瓦斯……  
 ○作間耕逸君 瓦斯事業法案ガ近日出ルト云フコトナラバ、私ハ内務次官ニ御尋ヲシテ置キマス  
 ○議長(奥繁三郎君) 其時ニナッタ——是ハ違フノデスカラ……

○作間耕逸君(續) 一寸御尋シテ置キマス、ソレデハ内務次官ニ瓦斯事業法案ガ、此議會ニ於キマシテ近日提案ナサルト云フコトデアリマスナラバ、私ノ質問ハ其時ニ譲テ置キマス、ソレハ近々ノ中ニ……  
 ○議長(奥繁三郎君) 所管ガ違フカモ知レマセヌヨ  
 ○作間耕逸君(續) 宜シウゴザイマス、ソレヲ御提案ニ相成リマスルカ——今御列席ニナッテ居リマスルノハ内務次官ダケデアリマスカラ、内務次官ヲ政府當局トシテ此御尋ヲ致シテ置キマス、サウシテ御提案ナサルト云フコトデアレバ、私ノ質問ハ其場合ニ譲テ置キマスルシ、若シ御提案出來ナイト云フコトデアリマスレバ、私ノ質問ハ此機會ニ於テ繼續致シテ置キタイト思ヒマス、——ソレデハ便宜上其御答ヲ先ニ求メテ置キタイノデアリマス

(政府委員小橋一太君登壇)  
 ○政府委員小橋一太君(續) 在職月數ニモ之ヲ適用ス  
 ○國務大臣中橋德五郎君(登壇) 在勤シテ居ル者ガ僅カ五名デアリマス、四十四年ノ法律第六十一號ハ、朝鮮其他ノ地方ニ在勤致シマスル陸海軍所屬ノ者ノ恩給年限ヲ短縮スル特典ヲヘル法律デアリマス、所ガ文部省ニ於キマシテモ東京帝國大學、京都帝國大學所屬ノ者ガ、彼方ニ演習林ガアリマスノデ、其者モ矢張其六十一號ノ法案ノ恩典ニ均霑シマセヌト云フト公平ヲ得マセヌノデ、今回之ヲ括メテ改正ヲ致シタイト云フノデアリマス、デ單ニ從來陸軍所屬、斯ウ云フ文字ガ——此法案ニ在リマシタ文字ヲ改正致シマシテ、「陸海軍又ハ帝國大學所屬」是ダケニ改正スル簡単ナル案デゴザシテ居リマス、幸ニ適當ナル案ガ兩省ノ間ニ出来マシタラバ、成ベク今期議會中ニ提出致シタイト考ヘテ居リマス  
 ○作間耕逸君 ソレデハ私ノ質問ハ其際ニ譲テ置キマス  
 ○議長(奥繁三郎君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第五 明治四十四年法律第六十一號中正法律案(政府提出) 第一讀會 年法律第六十一號中改正法律案  
 明治四十四年法律第六十一號中左ノ通改正ス  
 「陸海軍所屬」ヲ「陸海軍又ハ帝國大學所屬」ニ改ム  
 正附則  
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 本法ハ本法施行前ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス  
 (國務大臣中橋德五郎君登壇)  
 ○國務大臣(中橋德五郎君) 此法案ハ洵ニ簡單ナ法案デアリマス、四十四年ノ法律第六十一號ハ、朝鮮其他ノ地方ニ在勤致シマスル陸海軍所屬ノ者ノ恩給年限ヲ短縮スル特典ヲヘル法律デアリマス、所ガ文部省ニ於キマシテモ東京帝國大學、京都帝國大學所屬ノ者ガ、彼方ニ演習林ガアリマスノデ、其者モ矢張其六十一號ノ法案ノ恩典ニ均霑シマセヌト云フト公平ヲ得マセヌノデ、今回之ヲ括メテ改正ヲ致シタイト云フノデアリマス、デ單ニ從來陸軍所屬、斯ウ云フ文字ガ——此法案ニ在リマシタ文字ヲ改正致シマシテ、「陸海軍又ハ帝國大學所屬」是ダケニ改正スル簡単ナル案デゴザシテ居リマス、幸ニ適當ナル案ガ兩省ノ間ニ出来マシタラバ、成ベク今期議會中ニ提出致シタイト考ヘテ居リマス  
 ○議長(奥繁三郎君) 日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選  
 ○鈴木錠藏君 委員ノ數ヲ九名トシ議長ニ於テ指名アラシコトヲ望ミマス  
 (「贊成」「贊成」ト呼フ者アリ)  
 ○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第七、第八ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ  
 ○議長(奥繁三郎君) 日程第七破産法案、日程第八和議法案ヲ一括シテ議題ニ致シマス、第一讀會ヲ開キマス——司法次官

## 第七 破産法案(政府提出、貴族院送付)

第一 読會

(小字ハ貴族院ノ修正)  
一八同削除ノ符號)

### 破産法案

#### 第一編 實體規定

##### 第一章 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日本人又ハ日本法人ト同一ノ地位ヲ有ス但シ其ノ本國法ニ依リ日本人又ハ日本法人カ同一ノ地位ヲ有スルトキニ限ル

第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者ノ財產ニシテ日本ニ在ルモノニ付テノミ其ノ效力ヲ有ス

外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財產ニ付テハ其ノ效力ヲ有セス

民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ

債權ハ日本ニ在ルモノト看做ス

第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第五條 相續人又ハ相續財產ニ對スル破産ノ宣告ハ限定期承認又ハ財產分離ヲ妨ケス但シ破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アル迄其ノ手續ヲ中止ス

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル一切ノ財產ハ之ヲ破産財團トス

破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ將來行フコトアルヘキ請求權ハ破産財團ニ屬ス

第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破產管財人ニ專屬ス

第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル單純承認ハ破產財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ相續ノ承認ヲ爲シタルトキト雖破產財團ニ對シテハ限定承認

ノ效力ヲ有ス  
破產管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效力ヲ認ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拋棄アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三月内ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第十條 前二條ノ規定ハ包括遺贈ニ之ヲ準用ス

第十一條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ特定遺贈アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告ノ當時承認又ハ拋棄ヲ爲サリシトキハ破產管財人破産者ニ代リテ

其ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

民法第千八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財產ヲ以テ破產財團トス

被相續人カ相續人ニ對シ又ハ相續人ノ財產ノ上ニ

有シタル權利及相續人カ相續財產ノ上ニ有シタル權利ハ消滅セリシモノト看做ス

第十三條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ留保財產モ亦破產財團ニ屬ス

國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始ノ時ニ於テ前戸主カ有シタル財產ヲ以テ破產財團トス

第十四條 相續人カ相續財產ノ全部又ハ一部ヲ處分シタル後相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人カ反對給付ニ付有スル權利ハ破產財團ニ屬ス

相續人カ既ニ反對給付ヲ受ケタルトキハ之ヲ破產財團ニ返還スルコトヲ要ス但シ其ノ當時相續人カ破產ノ原因タル事實又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラサリシトキハ其ノ現ニ受クル利益ヲ返還スルヲ以テ足ル

前二項ノ規定ハ前戸主カ前條ノ財產ヲ處分シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五章 破産債權

第十六條 破產債權ハ破產手續ニ依ルニ非サレハ之ヲモノノ及破產宣告後差押フルコトヲ得ルニ至リタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 破產財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破產管財人ニ專屬ス

第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル單純承認ハ破產財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ相續ノ承認ヲ爲シタルトキト雖破產財團ニ對シテハ限定承認

息ヲ債權額ヨリ控除スルモノトス  
第十九條 前條ノ規定ハ金額及存續期間ノ確定スル定期金債權ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル利息ヲ生スヘキ元本額ヲ超ユルトキハ其ノ元本額ヲ以テ破產債權ノ額トス

第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキハ破產宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破產債權ノ額トス

第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財產ニ對ナルトキ亦同シ

第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ外國ノ通貨ヲ以テ定メタルモノナルトキハ破產宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破產債權ノ額トス

第二十三條 條件附帯債權ハ其ノ全額又ハ前條ノ規定ニ依ル評價額ヲ以テ破產債權ノ額トス

第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破產宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付各破產財團ニ對シ破產債權者ノ請求權ニ之ヲ準用ス

第二十五條 保證人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破產宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破產債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人若ハ一人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破產者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ヲ有スル者ハ其ノ全額ニ付破產債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ全額ニ付破產債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條第一項前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求償權ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應シテ債權者ノ權利ヲ取得ス

第二十八條 第二十四條、第二十五條及前條第一項對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ニ付之ヲ準用ス

第二十九條 第二十四條、第二十五條及前條第一項第二項ノ規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス

第三十條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無

限ノ責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法

人ノ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ

付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十九條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有

限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ

者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財產ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十一條 相續財產及相續人ニ對シテ破産ノ宣告

アリタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シテ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續財產及前戶主相續人及前戶主又ハ相續財產相續人及前戶主ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三十二條 前二條ノ場合ニ於テ破產ノ宣告ヲ受ケタル相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ相續人ノ固有財產ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ

第三十三條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債權及被相續人ノ債務消滅ノ爲ニ爲シタル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三十四條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三十五條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ債權ノ全額ニ付各破產債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三十六條 相續財產及前戶主ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續財產アルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付破產債權者トシテ

第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十

一條ノ場合ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前戸主ハ將來行フコトアルヘキ求債權ノ全額ニ

付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財產ニ對シテ破產宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破產宣告後ノ利息

三 破產手續參加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

第三十九條 破產財團ニ屬スル財產ニ付一般ノ先取特權ノ他一般ノ優先權アル破產債權ハ他ノ債權ニ先ツ

第四十條 同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ辨濟ス

第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破產宣告ノ時ヨリ遡リテ之ヲ計算ス

第四十二條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十三條 相續財產ニ對シテ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先チ相續財產ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十四條 相續財產及相續人ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破產財團ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ

第四十五條 相續財產及前戸主ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破產財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續債權額ト第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額破產債權額トノ差額ノ請求

第五十一条 破產財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第五十二条 第十七條乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第五章 第五十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第四章 財團債權

第四十七條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ財團債權トスコトヲ得ヘキ請求權但シ破產宣告後ノ原因ニ基ク

一 破產債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用

二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スル

三 破產財團ニ對シテ生シタルモニニ限ル

四 破產財團ニ關シ破產管財人ノ爲シタル行爲ニ

五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破產財團ニ對シテ生シタル請求權

六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニシタル行爲ニ因リ破產財團ニ對シテ生シタル請求權

七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破產管財人カ

八 破產宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ解約ノ申入

九 破產者及ニ扶養セラル者ノ扶助料

第十條 第四十八條 破產管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受キヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第十一條 第四十九條 財團債權ハ破產手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス

第十二條 第五十條 財團債權ハ破產財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス

第十三條 第五十一條 破產財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 第五十二条第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第十五條 第五十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第十六條 第五十四条 第五十五条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第十七條 第五十六条 第五十七条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第十八條 第五十八条 第五十九條 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第十九條 第六十条 第六十一条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十条 第六十二条 第六十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十一条 第六十四条 第六十五条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十二条 第六十六条 第六十七条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十三条 第六十八条 第六十九条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十四条 第七十条 第七十一条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十五条 第七十二条 第七十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十六条 第七十四条 第七十五条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十七条 第七十六条 第七十七条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十八条 第七十八条 第七十九条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第二十九条 第八十条 第八一条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第三十条 第八十二条 第八十三条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第三十一条 第八十四条 第八十五条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第三十二条 第八十六条 第八十七条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

第三十三条 第八十八条 第八十九条 法律行為ニ關スル破產ノ效力

権者ニ對抗スルコトヲ得ス

破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行爲ハ破  
産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財產ニ  
關シ破産者ノ法律行爲ニ因ラスシテ權利ヲ取得スル  
モ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ  
得ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス

第五十五條 不動產又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生  
シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又  
ハ不動產登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記  
ハ之ヲ以テ破產債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登  
記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登  
記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登  
錄又ハ假登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破  
產者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破產債權者ニ對抗ス  
ルコトヲ得

破產宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破產者ニ爲シタル辨  
濟ハ破產財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テノミ之ヲ  
以テ破產債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條 破產宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破  
產者ニ爲シタル債權ニ付破產債權者トシテ其ノ  
權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證  
券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破產宣告  
ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラサリシモノト推定  
シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條 雙務契約ニ付破產者及其ノ相手方カ破  
產宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セサルトキハ  
破產管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ  
破產者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請  
求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破產管財人ニ對シ相當  
ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ  
債務ノ履行ヲ請求スルカヲ確定スヘキ旨ヲ催告スルコ  
トヲ得破產管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲ササルト  
キハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルト  
得ス

キハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破產債權者トシテ其ノ  
權利ヲ行フコトヲ得

破產者ノ受ケタル反對給付カ破產財團中ニ現存スル  
トキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セサルトキハ其  
ノ價額ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ  
得

第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定  
ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非ナレハ契  
約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其  
ノ時期カ破產宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除  
アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ  
履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケ  
ル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相  
場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ  
付之ヲ準用ス

第六十二條 第五十九條第二項ノ規定ハ民法第六  
百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條  
第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破產管財人カ有ス  
ル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 貨貸入カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ  
於テハ借貸ノ前拂又ハ借貸ノ債權ノ處分ハ破產宣  
告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除クノ外  
之ヲ以テ破產債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十四條 破產者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務  
ヲ負擔スルトキハ破產管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ  
破產者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事  
カ破產者自ラ爲スコトヲ要セサルモノナルトキハ第三  
者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十五條 委任者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ  
於テ受任者カ破產宣告ノ通知ヲ受ケス且破產宣告  
ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ  
因リテ生シタル債權ニ付破產債權者トシテ其ノ權利  
ヲ行フコトヲ得

第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破產ノ宣告  
被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破產財團ニ屬  
スル財產ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十條 破產財團ニ屬スル財產ニ對シ國稅徵收  
法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲シタル場合  
ニ於テハ破產ノ宣告ハ其ノ處分ノ續行ヲ妨ゲス

破產財團ニ屬スル財產ニ關シ破產宣告ノ當時行政  
廳ニ繫屬スル事件アルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破  
產手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條 ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 左ニ掲クル行爲ハ破產財團ノ爲之ヲ得  
認スルコトヲ得

第六章 否認權

前項ノ場合ニ於テハ破產者カ其ノ相手方ヨリ受クヘ  
キ報酬ハ破產財團ニ屬ス

第六十六條 委任者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ  
於テ受任者カ破產宣告ノ通知ヲ受ケス且破產宣告  
ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ  
因リテ生シタル債權ニ付破產債權者トシテ其ノ權利  
ヲ行フコトヲ得

第六十七條 左ニ掲クル行爲ハ破產財團ノ爲之ヲ得  
認スルコトヲ得

第六十八條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破產ノ宣告  
被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破產財團ニ屬  
スル財產ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第六十九條 ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

タル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ  
行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリ  
シトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後

ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲

其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利

益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ

破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ

同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲

ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ

知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後

又ハ其ノ前三十日内ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債

務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セ

ス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セ

ルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止

若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害

スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後

又ハ其ノ前六月内ニ爲シタル無償行爲及之ト同

視スヘキ有償行爲

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ

受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又

ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ

之ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振

出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破產

ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラ

サリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタ

ル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後

権利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スル

ニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權

利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經

過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認

スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假

登錄アリタル後本登記ヲ爲シタルトキハ

此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ権利取得ノ效力ヲ生スル登錄ニ付之ヲ

準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行

力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行爲カ執行行爲ニ

基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケス  
第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破產管財人  
之ヲ行フ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破產財團ヲ原狀ニ復セ  
シム

第七十八條 破產者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於  
テ其ノ受ケタル反對給付カ破產財團中ニ現存スルト  
キハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生  
シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財  
團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第七十九條 破產者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於  
手方ハ其ノ價額ノ償還ニ付破產債權者トシテ其ノ權  
利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ價額カ現存スル利益ヨ  
リ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條 破產者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於  
手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ價額  
ヲ償還シタルトキハ相手方ノ債權ハ之ニ因リテ原狀ニ  
復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規  
定ハ相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於  
テ被相續人、相續人、相續財產管理人及遺言執行人  
者カ相續財產ニ關シテ爲シタル行爲並前戻主カ第十  
三條ノ財產ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場  
合ニ於テ受遺者ニ對スル辨濟其ノ他債務ノ消滅ニ關  
スル行爲カ其ノ債權ニ先づ債權ヲ有スル破產債權者  
ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場  
合ニ於テ第八十條ニ規定スル行爲カ否認セラレタル  
トキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル  
行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ價額ニ應シテ殘餘財產ヲ  
分配スルコトヲ要ス

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シ  
テモ亦之ヲ行フコトヲ得

一 轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認  
ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲

第六十九條 第七十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 取戻權

第八十九條 賣主カ賣主ノ目的タル物品ヲ買主ニ發

送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セ  
ス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破產ノ

宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ  
得但シ破產管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物  
品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

第九十條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ  
前項ノ規定ハ第五十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

九十一條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ  
受ケタル間屋カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合  
ニ之ヲ準用ス

第九十二條 破產者カ破產宣告前取戻權ノ目的タル  
財產ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給  
付ノ請求權ノ移轉ヲ請求スルコトヲ得破產管財人カ  
取戻權ノ目的タル財產ヲ讓渡シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ破產管財人カ反對給付ヲ受ケタ  
ルトキハ取戻權者ハ破產管財人カ反對給付トシテ受  
けタル財產ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

第九十二條 破產財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特  
別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目  
的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

第八章 別除權

第九十二條 破產財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特  
別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目  
的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對  
シ否認ノ原因アルトキ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依  
リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 破產宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル  
行ハ支拂停止ノ事實ヲ知リタルコトヲ理由トシテ之  
ヲ否認スルコトヲ得ス

第八十五條 否認權ハ破產宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ  
行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ日ヨリ二  
十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破產  
債權者ノ提起シタル訴訟カ破產宣告ノ當時繫屬ス  
ルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破產手續ノ解止ニ  
至ル迄之ヲ中断ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 取戻權

第八十九條 破產ノ宣告ハ破產者ニ屬セサル財產ヲ  
破產財團ヨリ取戻ス権利ニ影響ヲ及ホサス

第八十八條 破產宣告前破產者ニ財產ヲ讓渡シタル  
者ハ擔保ノ目的ヲ以テシタルコトヲ理由トシテ其ノ財  
產ヲ取戻スコトヲ得ス

第八十九條 賣主カ賣主ノ目的タル物品ヲ買主ニ發

送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セ  
ス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破產ノ

宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ  
得但シ破產管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物  
品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

第九十條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ  
前項ノ規定ハ第五十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

九十一條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ  
受ケタル間屋カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合  
ニ之ヲ準用ス

第九十二條 破產者カ破產宣告前取戻權ノ目的タル  
財產ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給  
付ノ請求權ノ移轉ヲ請求スルコトヲ得破產管財人カ  
取戻權ノ目的タル財產ヲ讓渡シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ破產管財人カ反對給付ヲ受ケタ  
ルトキハ取戻權者ハ破產管財人カ反對給付トシテ受  
けタル財產ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

第九十二條 破產財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特  
別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目  
的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存ヌル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特權ト看做ス此ノ先取特權ハ他ノ特別ノ先取特權ニ後ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外留置權ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ

第九十四條 數人共同シテ財產權ヲ有スル場合ニ於

テ其ノ一人タ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ之ニ對シ共ニ關スル債權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割ニ因リテ

破産者ニ歸スヘキ共有財產ノ部分ニ付別除權ヲ有ス

第九十五條 別除權ハ破産手續ニ依ラシテ之ヲ行フ

第九十六條 別除權者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債

權者トシテ其ノ權利ヲ行コトヲ得但シ別除權ヲ拋棄シタル債權額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行コトヲ妨げズ

第九十七條 破産財團ニ屬セサル破産者ノ財產ノ上ニ特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債

權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行コトヲ得華族世襲財產ヲ差押フル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權ヲ有スル者亦同シ

前項ニ掲タル權利ヲ有スル者ニハ第二編中別除權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 相殺權

第九十八條 破産債權者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラシテ相殺ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 破産債權者ノ債權カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附若ハ解除條件附ナルトキ又ハ第一二二條ニ掲タルモノナルトキ亦同シ

第一百條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ債務ヲ辨濟スル場合合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債權額ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルモノナルトキ得

第一百一條 解除條件附債權ヲ有スル者カ相殺ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 第十八條乃至第二十條、第二十二條及

第二十三條ノ規定ハ破産債權者ノ債權ニ之ヲ準用ス

第一百三條 破産債權者カ債借人ナルトキハ破産告ノ時ニ於ケル當期及次期ノ借貸ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得敷金アルトキハ其ノ後ノ借貸ニ付亦同シ

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

一 破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ

二 債務ヲ負擔シタルトキ

三 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立

アリタルコトヲ知リテ破産債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得カ法定ノ原因ニ基クトキ、債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル

時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラス

第二編 手續規定

第一章 總則

第一百五條 破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所ノ所在地外國ニ主タル營業所ヲ

有スルトキハ日本ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セサルトキハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百六條 相續財產ニ關スル破産事件ハ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百七條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百八條 前二項ノ規定ニ依リテ之ニ代フルコトヲ得ス

第一百九條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百十條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一百十一條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ逕擇ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ各營業所又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第一百十二條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ逕擇ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第一百三條 破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第一百四條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百六條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百七條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百八條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百九條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十一條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十三條 抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ裁判所ハ其ノ決定ヲ以テ直ニ効力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

第一百十四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百十五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第一百十六條 公告ハ最終ノ掲載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第一百十七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百十八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲ス

第一百十九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ逕擇ナク囑託スルコトヲ要ス

第一百二十條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ逕擇ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第一百二十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査

又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破產終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破產管財人カ破產ノ登記アリタル權利ヲ破產財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登記嘱託ノ申立アリタルトキ亦同シ

第一百二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ嘱託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第一百二十三條 登記ノ原因タル行為カ否認セラレタルトキハ破產管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第一百二十四條 前四條ノ規定ハ破產財團ニ屬スル權利ニシテ登錄シタルモノニ之ヲ準用ス

第一百二十五條 法人ニ對シテ破產ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破產ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス

第一百二十六條 債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ヲ推定ス

第一百二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テモ亦破產ノ宣告アリタルモノトキハ裁判所ハ破產ノ宣告ス

第一百二十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖残餘財產ノ引渡又ハ分配カ終了セサル間ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百二十九條 相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破產ヲ宣告ス

第一百三十條 破產ノ申立又ハ破產ノ宣告アリタル後相續カ開始シタルトキハ破產手續ハ相續財產ニ對

第一百三十一條 相續財產ニ對シテハ民法第千四十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限り破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對スル辨濟カ未終了セサル間亦同シ

第一百三十二條 債權者又ハ債務者ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

債權者カ破產ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組合ニ對シテハ理事、合名會社、合資會社又ハ株式會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百三十四條 前項ノ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百三十五條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破產ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十六條 相續財產ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財產管理人及遺言執行者モ亦破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百三十七條 相續財產管理人、遺言執行者又ハ限定期間内承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三十八條 相續人、相續財產管理人又ハ遺言執行者カ破產ノ申立ヲ爲ストキハ破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十九條 債權者カ破產ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破產手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ

第一百三十一條 相續財產ニ對シテハ民法第千四十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限リ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受

第一百三十二條 債權者又ハ債務者ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

債權者カ破產ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組合ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百三十四條 前項ノ規定スル法人ニ對シテハ清算人ノ全員カ破產ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十五條 前二條ノ規定ハ第一百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス

第一百三十六條 相續財產ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財產管理人及遺言執行者モ亦破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一百三十七條 相續財產管理人、遺言執行者又ハ限定期間内承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三十八條 相續人、相續財產管理人又ハ遺言執行者カ破產ノ申立ヲ爲ストキハ破產ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第一百三十九條 債權者カ破產ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破產手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ

申立ヲ棄却スルコトヲ得費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一百四十條 破產申立人カ債權者ニ非サルトキハ破產手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破產申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一百四十一條 破產決定書ニハ破產宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百四十二條 裁判所ハ破產ノ宣告ト同時ニ破產管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第一百四十三條 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破產管財人ノ選任ノ期日ト同日

第一百四十四條 債權者ノ債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ破產管財人ノ選任ノ期日ト同日

第一百四十五條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百四十六條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百四十七條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百四十八條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百四十九條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十一條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十二條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十三條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十四條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十五條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十六條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十七條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十八條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百五十九條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百六十條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

第一百六十一條 債權者ノ債權届出ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ要ス

時三破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産決定ノ主文並破産廢止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ破産廢止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス  
第一百四十六條 前條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保険會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納用セス  
アリタル場合亦同シ

第一百四十七條 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルコトヲ得ス

第一百四十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

引致ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス  
引致ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百四十九條 破産者カ逃走シ又ハ財產ヲ隱匿若ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス

第一百五十條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

第一百五十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ

第一百五十二條 前五條ノ規定ハ破産者ノ法定代理人及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付之ヲ準用ス相続財產ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戸主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第一百五十三條 破産者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付之ヲ準用ス相続財產ニ對スル破産ニ於テ相續人、前戸主並其ノ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産を關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財產ニ對スル破産ニ於テ相續人、前戸主並其ノ代理人、遺言執行者並相續人及前戸主ノ代理人亦同シ

第一百五十四條 前項ノ規定ハ前ニ前項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ准用ス  
アリタル場合亦同シ

第一百五十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産ノ申立アリタルトキハ自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得

產宣告前ト雖債務者及第百五十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得

第一百五十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ被産財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得  
裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス  
第一百五十六條 破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス  
第一百四十三條第二項、第百四十四條、第百五十一條第二項、第百五十二條及第三百五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

### 第三章 破産管財人

第一百五十七條 破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス  
第一百五十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得

第一百五十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ交付スルコトヲ要ス  
破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アルトキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス  
第一百六十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス  
破産管財人カ其ノ任務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ二申立ヲ爲スコトヲ要ス  
第一百六十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス  
第一百六十二條 破産財團ニ關スル訴ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被告トス

第一百六十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得

第一百六十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス  
破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責

前項ノ規定ハ前ニ前項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ准用ス  
アリタル場合亦同シ

第一百六十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人ハ自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得

第一百六十六條 破産管財人若ハ監査委員ニ之ヲ準用ス  
第五章 債權者集會

第一百六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム  
第一百六十八條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム  
第一百六十九條 破産管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滞ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス  
破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス  
破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算報告書及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス  
第一百七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

### 第四章 監査委員

第一百七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス  
監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス  
要ス  
第一百七十二條 監査委員ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス  
第一百七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得  
第一百七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得  
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得  
第一百七十五條 第百六十四條及第百六十六條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第一百七十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査

委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ招集ス  
届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ  
五分ノ一以上ニ當ル破産債權者ノ申立アリタルトキ  
亦同シ

第一百七十七條 債權者集會ノ期日及會議ノ目的タル  
事項ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス

債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ  
送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第一百七十八條 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス

第一百七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フ  
コトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債  
權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アル  
コトヲ要ス

債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ  
其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第一百八十條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハ  
サルトキト雖識決スベキ事項ニ付同意シタル者ノ債  
權額カ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ  
總債權ノ半額ヲ超ユルキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決  
議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス其ノ決  
定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一百八十一條 破産債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決  
權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權  
ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一百八十二條 破産債權者ハ確定債權額ニ應シテ其  
ノ議決權ヲ行フコトヲ得

未確定債權停止條件附債權将来ノ請求權又ハ別  
除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債  
權額ニ付破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アルト  
キハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカヲ定ム

金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項  
ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ  
申立ツルコトヲ得ス

第一百八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監査委  
員ノ同意ニ代フルコトヲ得

債權者集會ノ決議カ監査委員ノ意見ト異ナルトキハ  
其ノ決議ニ從フ

第一百八十四條 債權者集會ノ決議カ破産債權者ノ一  
般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破産管財人、監査

委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ  
裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セ  
ラル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續ス  
ルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル禁止決定ハ其ノ言渡アリタルト  
キハ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第六章 破産財團ノ管理及換價

第一百八十五條 破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團  
ニ屬スル財產ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

第一百八十六條 破産管財人必要ト認ムルトキハ裁判  
所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破産財團ニ屬スル  
財產ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ封  
印ヲ爲シタル者ハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百八十七條 裁判所書記ハ破産宣告ノ後直ニ破  
產者ノ財產ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之三署名捺印シ  
且調書ヲ作り之ニ帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百八十八條 破産管財人ハ遲滯ナク裁判所書記、  
執達吏又ハ公證人ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル  
一切ノ財產ノ價額ヲ評定スルコトヲ要ス此ノ場合ニ  
於テハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ立會ヲ  
求ムルコトヲ要ス

第一百八十九條 破産管財人ハ財產目錄及貸借對照  
表ヲ作ルコトヲ要ス

破産管財人ハ財產目錄及貸借對照表ノ體本ニ署  
名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス封印ニ關  
トヲ得

第一百九十条 破産管財人ハ財產目錄及貸借對照  
表ヲ作ルコトヲ得

破産管財人ハ財產目錄及貸借對照表ノ體本ニ署  
名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第一百九十一條 裁判所ハ通信官署又ハ公眾通信取扱  
所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破産  
管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託フルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ受取りタル前項ノ郵便物又ハ電  
報ノ開披ヲ爲スコトヲ得

破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閱覽ヲ求メ且破  
產財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第一百九十二条 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管  
財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ  
之ヲ制限スルコトヲ得

破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ  
破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項  
ノ囑託ヲ取消スコトヲ要ス

第一百九十三条 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破  
產

管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セ  
ラル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續ス  
ルコトヲ得

第一百九十三条 破産宣告ニ至リタル事  
情並破產者及破產財團ニ關スル經過及現狀ニ付第  
一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九十四条 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料  
ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ  
付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九十五条 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權  
利ノ目的タル財產ヲ示スベキコトヲ求ムルコトヲ得

破產管財人カ前項ノ財產ヲ評價セムトスルトキハ別  
除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第一百九十六条 一般ノ債權調查ノ終了前ニ於テハ破  
產管財人ハ破產財團ニ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ  
債權調查ノ終了前強制和議ノ提供アリタル場合ニ  
於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ

破產財團ニ關スル財產ニシテ遲滯ナク之ヲ換價スルニ非  
セレハ破產財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ  
拘ラス監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破產管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第一百九十七条 破產管財人左ニ掲タル行爲ヲ爲スニ  
ハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至  
第十四號ニ掲タル行爲ニ付千圓以上ノ價額ヲ有ス  
ルモノニ關セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百九十八条 不動產ニ關スル物權、登記スベキ日本船舶及外  
國船舶ノ任意賣却

第一百九十九条 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、  
第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十  
一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ拋棄

二 鐵業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權  
及著作權ノ任意賣却

三 営業ノ讓渡

四 商品ノ一括賣却

五 借財

六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、

第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十  
一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ拋棄

七 動產ノ任意賣却

八 債權及有價證券ノ讓渡

九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求

十 訴ノ提起

十一 和解及仲裁契約

十二 權利ノ抛弃

第一百九十二条 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破  
產

一百一十一條 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求

十三 財團債權取戻権及別除権ノ承認

十四 別除権ノ目的ノ受戻  
第一回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ

規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要ス行爲ヲ爲スノ必  
要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權  
者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百九十九條 第二回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ

規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要ス行爲ヲ爲スノ必  
要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

滞ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第一百條 破産管財人カ第百九十七條ニ掲クル行爲ヲ爲ス付監査委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行爲ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第二百一條 破産管財人カ第百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百二條 第百九十七條第一號及第二號ニ掲クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除権ノ目的タル財產ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別除権者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百四條 別除権者カ前項ノ法律ニ定メタル方法ニ依ラヌ前項ノ場合ニ於テ別除権者ノ受クヘキ金額カ未タ確定セサルトキハ破産管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ別除権ハ代金ノ上ニ存ス

第二百五條 破産管財人ハ債權者集會又ハ監査委員ニ依リ債權者集會ノ状況ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ニ依ル

破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ辨済ハ其ノ效力ヲ有ス

第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相互保険會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂ニ付亦同

第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保険會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應シ會社ノ債務ヲ辨済スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコトヲ要ス

第二百九條 前條ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ負擔ス

第二百九十九條 第二項ノ規定ニ依リ財產目錄及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表ヲ作りニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ破産裁判所タル區裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記所カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第二百十二條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ付異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百十三條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ付異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百十四條 第二百十一條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百十五條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百十六條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百十七條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百十八條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ一部ト看做ス

第二百二十二條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十三條 裁判所ハ社員ノ異議ノ理由アリタルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後計算表認可

第二百二十四條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十五條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十六條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十七條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十八條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百二十九條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十一條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十二條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十三條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十四條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十五條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十六條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

第二百三十七條 第二百一十九條第一項ノ規定ニ依リタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地位ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備へ置クコトヲ要ス

第二百三十八條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百三十九條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十一條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十二條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十三條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十四條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十五條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十六條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十七條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十八條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百四十九條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百五十條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百五十一條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百五十二條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

第二百五十三條 第二百一十九條第一項及前條第一項

第二項ノ規定ハ破産管財人ハ遅滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ準用ス

產管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス  
第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ  
爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管

財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ  
ハ脱退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ  
於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保  
證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人ハ破産ノ宣告ヲ受  
ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因  
リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負  
擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコト  
ヲ得

第二百二十六條 相續人力破産ノ宣告ヲ受ケタル後  
限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ  
相續財產ノ處分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限  
定承認又ハ財產分離アリタル後相續人力破産ノ宣告  
ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二百二十七條 相續人力破産ノ宣告ヲ受ケタル後  
限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財產分離アリタルトキハ  
相續財產ノ處分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限  
定承認又ハ財產分離アリタル後相續人力破産ノ宣告  
ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二百二十八條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第  
一項ノ規定ニ依リ限定期定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之  
コトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル  
場合ニ之ヲ準用ス

第七章 破産債權ノ届出及調查  
第二百二十九條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第  
一項ノ規定ニ依リ限定期定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之  
コトヲ要ス

第二百三十條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第  
一項ノ規定ニ依リ限定期定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之  
コトヲ要ス

第二百三十一條 債權調査ノ期日ニ於テハ届出アリ  
タル各債權ニ付第一百二十九條第一項ニ掲タル事  
項ヲ調査ス

第二百三十二條 破産者ハ債權調査ノ期日ニ出頭シ  
テ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ  
代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

第二百三十三條 債權ノ調査ハ破産管財人出頭スル  
ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債權ニ付テハ  
破産管財人及破産債權者ノ異議アル場合ヲ除クノ  
外債權調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ  
得  
第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債權者カ届出テ  
裁判所ハ前項ノ債權ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ム  
コトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ  
爲シタル破産債權者ノ負擔トス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ  
破産債權者カ債權調査ノ一般期日後ニ債權ノ届出  
ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條 債權調査ノ特別期日ヲ定ムル決定  
ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタ  
ル破産債權者ニ之ヲ達スルコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債權調査ノ期日ノ變  
更並債權調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡  
ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテ  
ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百四十條 債權調査ノ期日ニ於テ破産管財人  
ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十一條 裁判所書記ハ債權表ヲ作リ之ニ左  
一 債權者ノ氏名及住所  
二 優先權アルトキハ其ノ權利  
三 優先權アルトキハ其ノ權利

四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出テ  
タル債權額  
裁判所書記ハ債權表ノ副本ヲ破産管財人ニ交付ス  
ルコトヲ要ス

第二百四十二條 債權調査ノ期日ニ於テハ届出アリ  
タル各債權ニ付第一百二十九條第一項ニ掲タル事  
項ヲ調査ス

第二百四十三條 破産債權者カ債權調査ノ期日ニ  
出頭セサル場合ニ於テ其ノ債權ニ付異議アリタルト  
ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百四十四條 異議アル債權ニ付テハ其ノ債權者  
ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債權ノ確定ヲ求ムルコ  
トヲ得

第二百四十五條 債權確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管  
轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキ  
ハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管  
轄ニ專屬ス

第二百四十六條 異議アル債權ニ付破産宣告ノ當時  
訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債權者カ其ノ債權ノ確定  
ヲ求ムトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受  
繼クコトヲ要ス

第二百四十七條 破産債權者ハ第二百四十一條第  
一項ノ規定ニ依リ債權表ニ記載シタル事項ニ付テノ  
ミ債權確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十條第二項  
若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十八條 執行力アル債務名義又ハ終局判決  
アル債權ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ  
訴訟手續ニ依リテミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十九條 第二百四十九條第二項、第三項、第二百四十六條  
及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債  
權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付破産宣告ノ當時  
訴訟カ繫屬スルトキハ債權者ハ破産者ヲ相手方トシ  
テ之ヲ受繼クコトヲ得

第二百五十二条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百五十三条 裁判所ハ債權調査ノ結果ヲ債權表ハ  
記載ハルコトヲ要ス

第二百五十四条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百五十五条 裁判所ハ債權調査ノ結果ヲ債權表ハ  
記載ハルコトヲ要ス

第二百五十六条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百五十七条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百五十八条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百五十九条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六一条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十二条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十三条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十四条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十五条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十六条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十七条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十八条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百六十九条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百七十条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百七一条 裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記  
載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ  
ル判決ハ破産債權者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス  
第二百五十一條 破産財團カ債權ノ確定ニ關スル訴  
訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破  
產債權者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシ  
テ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ト目的ノ  
價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定  
ム

第二百五十三條 公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四  
十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受  
繼キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス  
公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議  
者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコト  
ヲ得ス

第二百五十四條 第三十八條第四號ニ掲タル請求權

ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滯ナク其ノ額及原因ヲ  
裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百四十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ  
届出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリ  
タル請求權ノ原因カ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ  
得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ請求權  
ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス  
管財人が異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 配當

第二百五十六條 一般ノ債權調査終了後ニ於テハ破  
產管財人配當スルニ適當ナル金錢アリト認ムル毎ニ  
遲滯ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委  
員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ル  
トヲ要ス

第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作リ之ニ左  
ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當ニ加フヘキ債權ノ額  
二 配當ニ加フヘキ債權ノ額  
三 配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區  
別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記  
載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ  
供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權  
ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコト  
ヲ要ス  
當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管  
財人ニ對シ其ノ債權ノ付テハ債權者カ配當  
訴ノ受繼ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續  
ヨリ除斥セラル

第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間  
内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著  
手シタルトキハ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受ク  
ルコト能ハサルヘキ債權額ヲ疏明セサルトキハ配當ヨ  
リ除斥セラル

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直  
ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス  
一 債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタ  
ルトキ

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直  
ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス  
一 債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタ  
ルトキ

第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經  
過ノ後一週間にニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコト  
ヲ得ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日  
ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ム  
ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ  
要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日  
ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十六條 債權者カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書  
ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ  
要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日  
ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十七條 解除條件附債權及將來ノ請求權  
ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス  
各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百六十八條 配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキ  
トキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十九條 前條第一項ニ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申  
立ツルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人  
ハ配當表ニ對スル異議落著ノ後遲滯ナク各債權者ニ  
ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申  
立ツルコトヲ要ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配  
當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ一週間以上一月内  
ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申  
立ツルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權  
ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス  
所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合  
ニ限リ提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要  
ス

第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命  
シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不  
認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ  
強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續  
行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告ス  
ルコトヲ要ス

第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當  
受クルコトヲ要ス  
破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ  
證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコ  
トヲ要ス  
第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十一  
二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ疏明セサルニ因リテ配當  
ヨリ除斥セラレタル債權者カ後ノ配當ニ關スル除斥  
期間内ニ其ノ證明又ハ疏明ヲ爲シタルトキハ前ノ配  
當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ  
先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條 左ニ掲タル債權ニ對スル配當額ハ破  
產管財人之ヲ寄託スルコトヲ要ス

一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百  
四十八條ノ規定ニ依リ異議アル債權ニ付訴ノ提  
起又ハ訴訟ノ受繼アリタルモノ

二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ  
落著セサル債權

三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明  
シタル債權額

四 停止條件附債權及將來ノ請求權

五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル  
場合ニ於ケル解除條件附債權

六 第二百七十二條 破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ  
監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得  
ルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人  
ハ配當表ニ對スル異議落著ノ後遲滯ナク各債權者ニ  
ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申  
立ツルコトヲ要ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配  
當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ一週間以上一月内  
ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申  
立ツルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權  
ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス  
所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合  
ニ限リ提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スル

トヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債権者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債権者ニ支拂フコトヲ要ス第一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債権者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ遲滯ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

第二百八十條 左ニ掲タル配當額ハ債權者ノ爲破產管財人之ヲ供託スルコトヲ要ス

第二百八十一條 第一百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額

第二百八十二條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ナキ爲換價セサリシ二配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權ニ對スル配當額

第三 債權者カ受取ラサル配當額

第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ナキ爲換價セサリシ所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破産終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ

破産管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滯ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債権者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條 追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタ

ル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十五條 破産管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク計算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破産管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以チ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破産者カ債權調查期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り債權表ノ記載ハ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

債權者ハ破産終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百五十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十八條 破産者カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ破産裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破産者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

民事訴訟法第一百七十五條及第一百七十六條第二項ノ規定ハ第一項ニ定ム原狀回復ニ付之ヲ準用ス

第二百八十九條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財產ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供セシムルコトヲ要ス

第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供セシムルコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債權者ト看做サス

ハ辨濟ノ方法擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタル

第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監查委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得

第二百九十七條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監查委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコト亦同シ

第二百九十八條 強制和議ヲ爲シタルコトアルトキニ依リテ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

第二百九十九條 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキニ依リテ強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二百九十九條 強制和議ノ提供ヲ棄却セサル場合ニ於テ監查委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供セシムルコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議タルコトヲ得ス

第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラズシテ或破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無效トス

第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ居出ヲ爲シタル破産債權者ノ總債權ノ四分ノ三分以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス

第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超エル者カ期日ノ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メスコトヲ要ス

第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百九條 第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メスコトヲ要ス

第三百一十条 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ財團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得ス

第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スベキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メスコトヲ要ス

第三百十三條 相續財產ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百十四條 相續財產ニ對シテ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ノ債權者ニ限り強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條 相續財產及相續人又ハ前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前戸主ノ強制和議ニ付テハ相續人ノ債權者又ハ前戸主ノ相續人アリタルトキハ之ヲ定ムル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債權者ノ債權ハ

第三百十七條 強制和議ニ付テハ相續人ノ債權者又ハ前戸主ノ正當開始後ノ債權者三限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且

第三百十九條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百二十條 強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

第三百二十條 強制和議ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ至リタルトキ

第三百二十條 強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得ス

得サル破産債權者ハ強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百二十一條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百二十二條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百二十三條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權者及一般ノ先取特權法人事又ハ之ニ準スベキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メスコトヲ要ス

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者ハ強制和議ニ定ムタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條 強制和議ハ破産債權者ノ全員ノ爲アル債權ニ付亦同シ

第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債權者ニ對シ強制和議ニ別段ノ定ムルトキハ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ付責任ヲ負フ社員ハ

第三百二十八條 確定債權ヲ有スル破産債權者ハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘセリシ場合ニ限り破産終結ノ後破産者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債權者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基ギテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス

第三百二十九條 強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成

第三百三十條 第三百項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十條 第三百項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十條 第三百項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十條 第三百項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

強制和議不認可ノ申立ヲ爲ササリシ破產債權者ハ此ノ限ニ在ラス

讓歩ノ取消權ハ破產債權者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百三十條 破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破產債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得

第三百三十一條 讓歩ノ取消ハ破產債權者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破產債權者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十二條 破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル破產債權者ハ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

強制和議ノ定ム所ニ從ヒ全部ノ履行ヲ受ケタル破產債權者ハ前項ノ申立ニ必要ナル員數ニハ之ヲ算入セス全部又ハ一部ノ履行ヲ受ケタル者ニ付テハ從前ノ破產債權ノ額ヨリ其ノ受ケタル額ヲ控除シタルモノ以テ其ノ債權額トス

第一項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第三百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條 詐欺破產ニ付有罪ノ判決カ確定シタルトキハ裁判所ハ破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ裁判所ハ有罪ノ判決確定前ト雖第百五十四條及第一百五十五條ニ定ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破產手續ヲ續行ス

第三百三十六條 第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做シ第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ト看做ス

第三百三十七條 第百四十一條乃至第百四十六條及第百五十四條乃至第百五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第三百三十八條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破產ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十九條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百四十條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ執行完了前ニ破產ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十一條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百四十二條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破產終結ノ後破產者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ヲ受クル迄ハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第三百四十三條 強制和議取消ノ申立及破產ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一二付強制和議取消ノ決定又ハ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百四十四條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ執行完了前ニ破產ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十五條 強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破產手續ヲ續行ス

第三百四十六條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做シ第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ト看做ス

第三百四十七條 破產者ハ債權届出ノ期間内ニ届出二付テハ從前ノ破產債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ム所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノ以テ破產債權ノ額トス

第三百四十八條 法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立て必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破產廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立て闘スル書類ヲ備へ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破產債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間にニ破產廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破產廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破產者、破產管財人及異議ヲ申立テタル破產債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破產宣告ノ後裁判所カ破產財團ヲ以テ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破產管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十四條 裁判所カ破產廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破產廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破產管財人ハ財團債權ノ辨済ヲ爲シ異議アルモノニ

第十一章 破產廢止  
第三百四十七條 破產者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破產債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ得テ破產財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破產廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカラ否ハ裁判所之ヲ定ム破產債權者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條 法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立て必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破產廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立て闘スル書類ヲ備へ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破產債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間にニ破產廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破產廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破產者、破產管財人及異議ヲ申立テタル破產債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破產宣告ノ後裁判所カ破產財團ヲ以テ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破產管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十四條 裁判所カ破產廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破產廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破產管財人ハ財團債權ノ辨済ヲ爲シ異議アルモノニ

付テハ債権者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第一百九十一條及第二百九十二  
條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢  
止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

## 第十一章 小破産

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬  
圓ニ満タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同  
時ニ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

## 第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ 屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ満タサルコトヲ發見シタル トキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於  
テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監  
査委員並知レタル債権者及債務者ニ之ヲ記載シタル  
書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬  
スル財產ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキ  
ハ小破産取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ  
ハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

## 第三百六十一條 小破産ノ決定及小破産取消ノ決 定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條 第一回ノ債権者集會ノ期日及債  
權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除  
クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條 第一回ノ債権者集會強制和議取  
消後ノ第一回ノ債権者集會並債權調査、計算報告  
及強制和議ノ爲ニスル債権者集會ヲ除クノ外裁判  
所ノ決定ヲ以テ債権者集會ノ決議ニ代フ前項ノ決  
定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關ス  
ル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第百十  
六條ノ規定ニ依ル掲示ヲ爲スヲ以テ足ル

## 第三編 復權

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ  
破産債権者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキ  
ハ破産裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ復權ノ決定ヲ  
爲スコトヲ要ス

申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス  
第三百六十八條 復權ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ  
其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條 裁判所ハ復權ノ申立アリタル旨ヲ  
公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ  
關スル書類ヲ備へ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債権者ハ前條ノ公告アリタル  
日ヨリ起算シテ三月内ニ復權ノ申立ニ付裁判所ニ異  
議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ノ申立テタル破産債権者ノ意見ヲ聽  
破産者及異議ヲ申立テタル破産債権者ノ意見ヲ聽  
クコトヲ要ス

第三百七十二條 復權ノ決定カ確定シタルトキハ裁判  
所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條 第百八條乃至第一百十二條及第一百  
四條乃至第一百十七條ノ規定ハ復權ノ手續ニ之ヲ  
準用ス

## 第四編 虐則

第三百七十四條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自  
己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債権者ヲ害スル目的ヲ  
以テ左ニ掲タル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキ  
ハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ屬スル財產ヲ隱匿、毀棄又ハ債権者  
ノ不利益ニ處分スルコト

二 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之  
ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ  
不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト

四 第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記ヲ閉鎖  
シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄ス  
ルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左  
ニ掲タル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年  
以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射幸行爲ヲ爲シ因テ著  
ク財產ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二 破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利  
益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ

商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分ス

第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條  
及前條ノ規定ニ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ  
破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職  
務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタル  
トキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産債権者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ  
者債権者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ  
要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ  
全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額  
ヲ追徴ス

第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債権  
者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ  
交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ  
三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕

務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務  
者ノ義務ニ屬セサルモノトキ商業帳簿ヲ作ラス、  
之ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又  
ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコ  
ト

四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、  
之ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又  
ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコ  
ト

五 第三百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖  
シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄ス  
ルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ  
準スヘキ者並支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債  
務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例  
ニ依ル相續財產ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶  
主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者  
走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通  
信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金  
ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルト  
キ罰前項ニ同シ

第三百七十八條 債務者及第三百七十六條ニ規定  
スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行爲ヲ  
爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破  
産債権者トシテ虛偽ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ  
對スル破産宣告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ  
處ス

第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條  
及前條ノ規定ニ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ  
破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職  
務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタル  
トキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産債権者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ  
者債権者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ  
要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ  
全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額  
ヲ追徴ス

第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債権  
者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ  
交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ  
三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕

又ハ免除スルコトヲ得  
第三百八十二條 第百五十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則  
第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第一百一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條 民法施行法第一條第三條及非訟事件手續法第一百五十二條第一百五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削除ス

第三百八十六條 他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復權ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十一號商法第十五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十八條 舊法ニ依リテ破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リテ審裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十九條 他ノ法律ニ依リ法人ノ理事又ハ之ヲ要スル場合ニ於テモ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百九十條 商法第四百五條ヲ左ノ如ク改ム保険者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保険契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノ妨ケス

第三百九十一條 第百四十七條ヲ削リ「第一百四十六條ヲ「第一百三十八條」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一条ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八 和議法案(政府提出、貴族院送付)		第一讀會	
和議法案		和議法	
第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニス	第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニス	第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニス	第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニス
第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生	第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生	第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生	第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生
ル強制和議ヲ謂フ	ル強制和議ヲ謂フ	ル強制和議ヲ謂フ	ル強制和議ヲ謂フ
第三條 破産法第一百五條及第一百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス	第三條 破産法第一百五條及第一百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス	第三條 破産法第一百五條及第一百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス	第三條 破産法第一百五條及第一百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス
第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス	第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス	第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス	第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第五條 破産法第九十八條乃至第一百四條ノ規定ハ和議債権者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス	第五條 破産法第九十八條乃至第一百四條ノ規定ハ和議債権者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス	第五條 破産法第九十八條乃至第一百四條ノ規定ハ和議債権者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス	第五條 破産法第九十八條乃至第一百四條ノ規定ハ和議債権者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス
第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス	第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス	第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス	第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス
第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス	第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス	第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス	第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス
第八條 破産法第一百十九條、第一百二十條、第一百二條及第一百二十四條ノ規定ハ和議開始ノ決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第八條 破産法第一百十九條、第一百二十條、第一百二條及第一百二十四條ノ規定ハ和議開始ノ決定取消又ハ和議取消ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第八條 破産法第一百十九條、第一百二十條、第一百二條及第一百二十四條ノ規定ハ和議開始ノ決定取消又ハ和議取消ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第八條 破産法第一百十九條、第一百二十條、第一百二條及第一百二十四條ノ規定ハ和議開始ノ決定取消又ハ和議取消ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第十九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定アリタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ申立ヲキ	第十九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定アリタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ申立ヲキ	第十九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定アリタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ申立ヲキ	第十九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定アリタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ申立ヲキ
第三十條 和議廢止ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十條 和議廢止ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十條 和議廢止ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十條 和議廢止ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ
第三十一條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十一條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十一條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十一條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ
第三十二條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十二條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十二條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十二條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ
第三十三條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十三條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十三條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十三條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ
第三十四條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十四條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十四條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ	第三十四條 証書ハ其ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ヲ爲シタルトキ
第三十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第三十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス	第三十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第三十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス	第三十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス	第三十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス	第三十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス
第三十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス	第三十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス	第三十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス	第三十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス
第三十九條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ	第三十九條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ	第三十九條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ	第三十九條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲サル保険契約ハ破産ハ前條ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲サル保険契約ハ破産宣告ノ後三箇月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ記又ハ登録ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債権及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債権トス

第十一條 破産法第二條、第三條、第一百九條乃至第一百十一條第百十三條乃至第百十八條及第百二十條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

第五條ノ規定ハ和議ノ開始ノ申立ヲ爲スコトヲ准用ス

和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

相續財產ニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

和議申立人ハ申立ト同時ニ財產ノ状況ヲ示スベキ明細書並債権者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス

要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所ヲ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

第十九條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキハ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ

第二十二條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ

第二十三條 和議ノ條件ヲ法律ノ規定ニ反スルトキ

五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反ス

ルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ

キ

二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルト

トアルトキ

四 和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

ト

五 和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條 裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財產ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財產、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條 和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ得

第二十五條 破産法第百五十九條乃至第百六十一條、第百六十四條乃至第百六十六條、第百六十九條及第百七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條 和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス

二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期

間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下の期間

ヲ有スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

ハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキ

一 和議開始決定ノ主文

二 管財人ノ氏名及住所

三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人管財人及整理委員ニハ前項ニ掲タル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十

一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財產ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ボサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人ノ異議アルトキハ債務者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條 管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スルコトヲ得

第三十五條 管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 管財人ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財產ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

整理委員ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債務者ノ財產

二關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ

準用ス

第三十八條 管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滯ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ

第三十九條 第二十四條及破産法第百五十八條乃

至第百六十一條第百六十三條乃至第百六十六條

第一百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條 和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前ハ和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對ン爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ和議手續中之ヲ

第四十一條 債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財產上ノ請求権ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ア

ル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條 破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコト得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條 左ニ掲タル請求権ハ之ヲ和議債權トセス

一 和議開始後ノ利息

二 和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 和議手續參加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

三 和議手續參加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
第四十七條 管財人整理委員ハ届出アリタル各債權

ニ付債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及  
如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ調査スルコト

ヲ要ス

第四十八條 管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ  
和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財產ニ關  
スル經過及現狀並前條ノ規定ニ依ル調査ノ結果ニ  
付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述

フルコトヲ要ス

破産法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ屆  
出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ニ規定スル  
者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用

ス

第四十九條 破産法第百七十八條、第百八十一條、  
第二百三十八條但書、第三百一條、第三百二條、第  
三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之  
ヲ準用ス

第五章 和議ノ認否

第五十條 債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキ  
ハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ  
和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委  
員ハ和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

破産法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期  
日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 裁判所ハ左ノ場合ニ限リ和議債權者ノ  
申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議不認可ノ決定ヲ爲  
スコトヲ得

一 和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場  
合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ  
二 第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由ア  
ルトキ

三 和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至  
ノ命令ニ違反シタルトキ

二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項  
第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタル  
ニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

四 和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反ス  
文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲  
ルトキ

第五十二條 和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主  
文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲  
スコトヲ要セス

第五十三條 和議認否ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

爲スコトヲ得  
破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準  
用ス

第五十四條 和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效  
力ヲ生ス

第五十五條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判  
所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務  
者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一  
般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟  
ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債  
權者ハ供託ヲ爲スコトヲ要ス

第五十七條 破産法第三百二十五條乃至第三百二  
十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付  
之ヲ準用ス

第五十八條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十  
七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル強制執行、假  
差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章 和議ノ廢止

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ  
和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

一 和議ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤  
回シタルトキ

二 債權者集會ノ第一期日ヨリ二月内ニ和議ヲ可  
決セサルトキ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ  
整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ  
決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者ヲ審訊  
スルコトヲ要ス

一 第二十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル裁判所  
ノ命令ニ違反シタルトキ

二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項  
第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタル  
ニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

四 和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由  
ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲ス

第五十一條 裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキ  
ハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第六十二條 破産法第三百二十九條乃至第三百三  
十一条ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之  
ヲ準用ス

第六十三條 債權者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲ア  
ルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權  
ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 破産法第三百三十二條第一項及第二  
項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十五條 和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リ  
得タル權利ニ影響ヲ及ホサズ

第六十六條 裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議  
ニ依ル

第六十七條 破産法第三百三十八條、第三百四十條  
及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ  
前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ准用ス

第六十八條 裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議  
ニ依ル

第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ  
代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供  
又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ  
全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價  
額ヲ追徴ス

第七十条 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依  
リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虛偽ノ  
説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕  
又ハ免除スルコトヲ得

第七十一条 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依  
リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虛偽ノ  
説明ヲ爲シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出  
テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出  
ス

和議手續參加ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請  
求ト見做ス

○政府委員(山内確三郎君) 只今議題ニナリマシタル破  
産法案及和議法案ニ付キマシテ、提案理由ヲ簡單ニ申上  
ゲマス、御承知ノ通り現行破産法ハ明治二十三年ノ法律  
デアリマス、明治二十三年法律第三十二號、商法、其一編  
リマス、ソレカラ明治二十六年ニ至リマシテ、之ヲ一部修正  
ヲシテ實施セラレテ以テ今日ニ至ルテ居リマスガ、固ヨリ其規  
定ハ不備ノ點ガ頗ル多イノアルミナラズ、爾後制定セラ  
レマシタル民法、商法、其他ノ法律が完備致シマシタ結果、  
此破産法ガ——現行破産法が商法、民法ノ規定トノ調和  
ヲ得ヌコトガ澤山アリマスサウニフ次第アリマスカラ、當  
局ハ爾來二十有餘年此破産法案ノ調査ニ掛リマシテ、漸  
ク茲ニ案ヲ立テ帝國議會ニ提出スルコトガ出來タノテアリ  
マス、本案ノ内容ハ多岐ニ瓦リマシテ、此處テ詳細ニ申上ダ  
ルコトハ固ヨリ出來ナインテアリマス、大體ヲ申シマスレバ——

○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議アリマセヌ  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議  
ノ如ク決シマシタ、日程第十、第十一ハ同種ノ議案アリマ  
スカラ、一括シテ議題ニ付シマス、御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」〔異議ナシ下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、一括シテ  
議案付シマス、日程第十、明治四十年法律第二十一號  
中改正法律案、日程第十一、大正九年法律第十二號中  
改正法律案ヲ一括シテ議題ニ付シマス其第一讀會ヲ開キ  
マス川村政府委員

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、一括シテ  
議案付シマス、日程第十、明治四十年法律第二十一號  
中改正法律案、日程第十一、大正九年法律第十二號中  
改正法律案ヲ一括シテ議題ニ付シマス其第一讀會ヲ開キ  
マス川村政府委員

#### 第十 明治四十年法律第二十一號中改正法

律案(政府提出) 第一讀會

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
明治四十年法律第二十一號中改正法律案

樺太ニ於テハ左ニ掲タル租稅ヲ賦課徵收ス

一 市街地稅

二 所得稅

三 營業稅

四 酒造稅

五 醬油稅

附 則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前賦課シタル戶數割及雜種稅ニ付テハ仍從  
前例ニ依ル

第十一 大正九年法律第十二號中改正法律  
案(政府提出) 第一讀會

○鈴木錠藏君 日程第十、及第十一ノ兩案ヲ一括シテ  
委員ノ數ヲ九名トシテ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマ  
ス、御異議アリマセヌカ  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前賦課シタル戶數割及雜種稅ニ付テハ仍從  
前例ニ依ル

第十二 大正九年法律第十二號中改正法律  
案(政府提出) 第一讀會

○鈴木錠藏君 日程第十、及第十一ノ兩案ヲ一括シテ  
委員ノ數ヲ九名トシテ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマ  
ス、御異議アリマセヌカ  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ第三  
種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス  
附 則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ第三  
種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス  
所得稅法中改正法律案

第三條ノ二 信託財產ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ  
所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財  
產ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス

ノ數ハ特ニ十八名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマ  
ス  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議アリマセヌ  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 神野大藏次官  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 樺太ニ町村制ヲ實施スル結果、其町村經費ノ財源ニ充  
ガ爲ニ、從來樺太ニ於ケル租稅ノ中、戶數割及雜種稅ヲ地  
方稅ニ移サントスルノ改正案デアリマス、何卒御協賛アラン

コトヲ望ミマス  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○議長(奥繁三郎君) 神野大藏次官  
〔「賛成」〔贊成下呼フ者アリ〕〕

○政府委員(神野勝之助君) 大正九年法律第十二號  
中改正法律案、日程第十一、大正九年法律第十二號中  
改正法律案ヲ一括シテ議題ニ付シマス、其第一讀會ヲ開キ  
マス川村政府委員

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、一括シテ  
議案付シマス、日程第十、明治四十年法律第二十一號  
中改正法律案、日程第十一、大正九年法律第十二號中  
改正法律案ヲ一括シテ議題ニ付シマス其第一讀會ヲ開キ  
マス川村政府委員

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セラレナル者ナルトキト雖尚所得税ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得税ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

第十六條ノ一 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得税ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得税ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

第十五條第二項、第十六條、第二十一條第一項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス

第十五條中「前項ノ支拂調書」ヲ「第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左一項ヲ加フ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第五十七條中「前條第一項ノ支拂調書」ヲ「前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改ム

第七十五條中「第五十六條第一項」ヲ「第五十六條第一項又ハ第二項」ニ「支拂調書」ヲ「支拂調書又ハ計算書」ニ、「第五十六條第二項」ヲ「第五十六條第三項」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第十四 相續稅法中改正法律案(政府提出)

##### 第一讀會

相續稅法中改正法律案

第五條中「存續期間ノ不確定ナル權利」ノ下ニ「信託ノ利益ヲ受クヘキ權利」ヲ加フ

第二十三條ノ一 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

#### 第十五 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

##### 第一讀會

第十九條ノ左ノ各號ヲ加フ  
登記又ハ登錄スヘキ信託財產ニシテ委託者カ信託行為ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノノ登記稅法中改正法律案

第二條第一項第四號中「第三號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同條第三號ノ次ニ左一號ヲ加フ

三ノ二 信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得

不動產價格 千分ノ六十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人力歸屬權利者ナルトキハ不動產價格ノ千分ノ三十

同條第一項第十三號ノ次ニ左一號ヲ加フ

十三ノ二 信託ノ登記 不動產價格 千分ノ五

第三條第一項第四號中「第三號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同項第三號ノ次ニ左一號ヲ加フ

三ノ二 信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ五十

同條第一項第七號ノ次ニ左一號ヲ加フ

七ノ二 信託ノ登記 船舶價格 千分ノ三

第三條ノ二第一號ノ次ニ左一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一

第三條ノ三第一號ノ次ニ左一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一

第三條ノ四第一號ノ次ニ左一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一

第十條第一項第四號ノ次ニ左一號ヲ加フ

四ノ二 信託ノ登錄 每一件 金一圓

第十一條第一項第四號ノ次ニ左一號ヲ加フ

四ノ二 信託ノ登錄 每一件 金一圓

第十二條第一項第四號ノ次ニ左一號ヲ加フ

四ノ二 信託ノ登錄 每一件 金一圓

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第十六 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

##### 第一讀會

印紙稅法中改正法律案

第四條中「一使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書」印紙稅 三錢ノ次ニ左ノ如ク加フ

一信託行爲ニ關スル證書 印紙稅 三錢

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第十七 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出)

##### 第一讀會

日本興業銀行法中改正法律案

第九條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同條第一項ニ左一號ヲ加フ

第十國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集集其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

第十五條第一項第六號ノ次ニ左一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登錄 每一件 金二圓

第十四條第一項第九號ノ次ニ左一號ヲ加フ

四ノ二 信託ノ登錄 每一件 金一圓

九ノ二 信託ノ登錄 每一件 金十圓

第十五條第一項第六號ノ次ニ左一號ヲ加フ

六ノ二 信託ノ登錄 每一件 金五圓

第十五條ノ二第一項第九號ノ次ニ左一號ヲ加フ

臺灣銀行法中改正法律案

出

#### 第十八 臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

##### 第一讀會

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

臺灣銀行法中改正法律案

(三〇)

第五條中「信託ノ業務ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ、「有價證券ヲ買入ルコトヲ得」ヲ「有價證券ノ應募引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

第十 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第十九 北海道拓殖銀行法中改正法律案

(政府提出)

#### 第一讀會

北海道拓殖銀行法中改正法律案

第七條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

九 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

第九條中「有價證券ヲ買入ルコトヲ得」ヲ「有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員神野勝之助君登壇)

○政府委員(神野勝之助君) 所得稅法中改正法律案、外六案ハ總テ信託法ノ制定ニ伴ヒマシテ改正ヲ要スルノデアリマス、今回信託法ノ制定ヲ致シマスルニ付キマシテ、信託ト云フ法律行爲が認メラル、コトニナリマシタノデアリマスルガ、然ルニ現行ノ所得稅法ニ於キマシテ、信託ト云フ行爲ヲ豫想シ居ヌノアリマス、ソレガ故ニ愈々信託行為ガ行ハレマスルト云フト、或ハ現行稅法ニ依テ二重課稅トナリ、或ハ課稅漏トナリ或ハ課稅ノ權衡ヲ得ナイト云フ不都合ヲ生ズルノアリマス、ソレ故ニ此稅法中ニ改正ヲ致シマシテ、此不都合ノ無イヤウニ致シタクト云フノアリマス、所得稅法ニ付キマシテ其要點ヲ申上ダマスレバ、信託財產カラ生ズル所ノ所得ハ、之ヲ何人ノ所得トシテ課稅シテ宜シイカト云フ問題ヲ生ズルノアリマス、是ハ受益者か信託財產ヲ所有スルモノト看做シテ、課稅スルコトニ致シ、其他之ニ關聯シテ二三ノ改正ヲ致スコト、致シマシタ、次ニ相續稅法ニ付キマシテハ、受託者ガ信託ニ依テ他人ヲ託ニ依テ他人ニ利益ヲ享受セシムル時ハ、之ヲ贈與ト看

做シテ規定スルコトニ致シマシタ、次ニ登錄稅法ニ付キマシテハ信託ニ關スル登記又ハ登錄中信託其モノ、登記又ハ登錄ト信託財產ノ移轉ノ登記、又ハ登錄トノ二様アル、アリマス、信託其モノ、登記、又ハ登錄ニ付キマシテハ、比較的ニ輕微ナル課稅ヲ爲スコトニ致シ、又信託財產移轉ノ登記、又ハ登錄ニ付キマシテハ、委託者カラ受託者ニ財產ヲ移ス場合ニ於テ課稅致シマシテ、受託者カラ受益者ニ移

付テハ財產ノ種類ニ依テノレ、適當ノ課稅ヲ致スコトニスカラ、一通ニ付テ三錢ノ定額稅ヲ課スルコトニ致シマシタ、次ニ日本興業銀行法ノ改正案、臺灣銀行法ノ改正案

北海道拓殖銀行法改正案ハ同一ノ改正デアリマシテ、此五ノ稅率ニ依テ課スルト云フコトハ酷ニ失スル嫌ガアリマス

スカラ、一通ニ付テ三錢ノ定額稅ヲ課スルコトニ致シマシタ、次ニ日本興業銀行法ノ改正案、臺灣銀行法ノ改正案

北海道拓殖銀行法改正案ハ同一ノ改正デアリマシテ、此五ノ稅率ニ依テ課スルト云フコトハ酷ニ失スル嫌ガアリマス

四 五十錢銀貨幣 一匁三分二厘  
五 二十錢銀貨幣 五分二厘八毛

第十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一千枚毎ニ一千枚毎ニ五分三厘三毛三トス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通用スヘシ

〔政府委員神野勝之助君登壇〕

○政府委員(神野勝之助君) 現行ノ貨幣法ニ依リマスト

云フト、銀貨ノ鑄潰點ガ銀相場六十五片半ニナルト云フ

ト、之ヲ鑄潰シテ利益アル點ニナシテ居リマス、六十五片半

十九片半ニモ上タト云フ位デアリマスカラ、今日デハ低

イノデアリマスガ、將來又騰貴スルト云フ虞ガアルノデアリマス、ソレ故ニ其鑄潰點ヲ高メテ鑄潰ノ虞ノナイ程度ニ銀貨

ノ銀相場ト云フノハ、餘リ低過ギルノデアリマス、一時ハ八

十九片半ニモ上タト云フ位デアリマスカラ、今日デハ低

イノデアリマスガ、將來又騰貴スルト云フ虞ガアルノデアリマス

ス、ソレ故ニ其鑄潰點ヲ高メテ鑄潰ノ虞ノナイ程度ニ銀貨

ヲ改鑄致シマシテ、大正十一年度カラハ多ク銀貨ヲ鑄造シ

テ、之ヲ發行致シタクト云フ積リデアリマス、御審議ノ上御

協賛ヲ望ム(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 日程第二十二、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

〔贊成ノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 右七案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

〔贊成ノ聲起ル〕

○鈴木錠藏君 日程第十三ヨリ第十九ニ至ル七案ヲ括シテ、政府提出信託法案外四件ノ委員ニ併セ付託セラレントコトヲ望ム(拍手)

福岡縣鞍手郡ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ直方區裁判所ト

四三三

福岡縣鞍手郡ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ直方區裁判所ト

福岡縣田川郡三區裁判所ヲ置キ之ヲ田川區裁判所ト  
稱ス

## 附 則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

## 第二十四 大正二年法律第九號中改正法律案 第一讀會

(政府提出)

第一讀會

(前川虎造君登壇)

大正二年法律第九號中改正法律案

大正二年法律第九號中左ノ通改正ス

別表裁判所管轄區域表中飯塚區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

飯塚 福岡縣ノ内  
直方 福岡縣ノ内  
鞍手郡 福岡縣ノ内  
遠賀郡ノ内 嘉穂郡

同表中小倉區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

小倉	福岡縣ノ内
小倉市	若松市 八幡市 門司市
金ヶ郡	遠賀郡ノ内
折尾町	黒崎町 戸畠町 蓼原町
岡垣村	島門村 浅木村 水巻村
上津役村	

同表中行橋區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

行橋	福岡縣ノ内
田川	京都郡 筑上郡
	福岡縣ノ内
	田川郡

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

(政府委員山内確三郎君登壇)

○政府委員(山内確三郎君) 福岡縣ノ田川郡、同鞍手郡、此兩郡、近來經濟上非常ノ發展ヲ致シマシテ、訴訟件數モ餘程多イノデアリマス、度ニノ請願ガアリマシテ、是ハ貴衆兩院共通過シテ居ル事柄デアリマスガ、此兩所ニ區裁判所ヲ設置スルノ必要ヲ認メマシテ、本案ヲ提出致シタ次第ニアリマス、ソレガ裁判所設立ニ關スル法律案ノ提出ノ理

由デアリマス、其結果ト致シマシテ、裁判所ノ管轄區域ヲ改ム

メルノ必要ガアルノハ當然アリマス、ソコデ大正二年法律第九號中改正法律案ヲ提出スルト云フ事ニナルノデアリマス、兩案共御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 日程第二十三ニ對シテ質疑ノ通

告ガアリマス、前川虎造君

〔前川虎造君登壇〕

○前川虎造君 司法當局ニ此際一寸伺テ置キマスガ、世ノ中ダ進歩致シテ段々事件ガ殖エテ參りマスレバ、裁判所ヲ増設シナケレバナラヌ必要ハ今後モ起シテ來ヤウト私ハ考ヘマス、ソコデズベト昔シ松田君ガ司法大臣ヲサレタ時分ニ行政整理ト云フ事デ多數ノ裁判所ヲ廢止サレタノデアリマス、是ガ寺内内閣ノ時代ニ瓦ツテ復活サレタノデアリマス、其復活サレル當時ニ於テ今復活スル裁判所ハ在來アダ所ノ家屋及總テノ設備ヲ利用スル必要ガアルカラ、此處ヘ置クノデアル、併ナガラ交通總テノ上ニ於テ大變化ヲ來シテ居ルカラ、行クノハ之ヲ整理スルノデアルト云フ事ヲ此處デ當時ノ司法次官ガ明言サレテ居ルノデアリマス、司法次官ハ只今直グト私共ハ最モ此交通機關ヲ無視シタ甚ダ不便ナル箇所ヲ四五箇所モ列舉シテ當時司法次官ニ之ヲ如何ニ爲サルカト云フコトヲ質問致シタノデアリマス、司法次官ハ只今直グト云フ譯ニハ行カヌガ、一兩年ノ間ニ此區裁判所ノ所在地ヲ整理シテ、サウシテ一般ノ人間ノ便利ニ、交通ト相伴フヤウニ整理ヲ致スト云フコトヲ當時明ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、然ルニ斯様ナ整理ヲ御拾置ニナッテ、更ニ必要ガアルカラト云ウテ、茲ニ福岡縣ニ直方ト田川ト二箇所ヘ新ニ區裁判所ヲ設置ナサルト云フ事ハ如何ナル事デアルカ、一體今日ハ區裁判所ノ所在地及其管轄町村ヲ見マスノニ、電車交通機關、或ハ工業關係カラ今日ハ非常ニ寂レテ、却テノレヨリヨリ以上ニ必要ナ場所ガ出來テ居ルト云フヤウナ處ハ澤山日本國中ニアルノデアリマス、然ルニ其舊イ處ヘ持テ行シテ、何故復活スルカト云フコトヲ當時ノ問題デアル、所ガ其處ニハ是迄ノ設備ガアルカラ、今俄ニ之ヲ變ヘルト云コトハ困ルカラ、先づ此場所ヲ復活シテ置イテ、サウシテ直ニ之ヲ整理シテ、都合ノ好イ場所ニ置キ更ヘルノデアルト云フコトヲ當時ノ司法次官ガ言明サレタガ爲ニ、吾々ハ之ニ同意致シタノデアリマス、然ルニ今日マテ最早三四四年ニモコトハ、之ヲ御拾置キニナシテ、サウシテ之ヲ整理ナサラヌデ、新ニ此二箇所ニ區裁判所ヲ增設スルト云フコトハスデ、其意ヲ得ヌノデアリマス、故ニ此事ノ贊否ハ別問題トシテ、御整理ナサル御考デアルカドウデアルカ、茲ニ私ハ再ビ司

○政府委員(山内確三郎君) 区裁判所ノ管轄及所在地ニ付テ、交通其他ノ事情ヲ見テ適當ノ時期ニ之ヲ整理スルト云フコトハ、前司法次官が議會ニ於テ言明致シタコトハ承知シテ居リマス、私モ當時民事局長トシテ其議ニ與

〔政府委員山内確三郎君登壇〕

○議長(奥繁三郎君) 司法次官

○政府委員(山内確三郎君) 区裁判所ノ管轄及所在

地ニ付テ、交通其他ノ事情ヲ見テ適當ノ時期ニ之ヲ整理

スルト云フコトハ、是ハ調査ヲシテ居ル事ハ一日モ怠シテハ居ナイ、例ヘバ一ツノ區裁判所ノ所在地ヲ他ニ移スルト云

フコトニ致シマシタ所ガ、餘程ノ調査ヲシナイトニコトト、單

モ重大ナル關係ガアル、唯理屈一遍アリマス

純ニ汽車或ハ事件數等ニ依シテ、交通等ノミヲ以テ變更

シ難イ事情ガ中アル、此區裁判所ノ設立ヲスルトガ、或ハ

カタニ居タ、併ナガラ此整理問題ハ、サウ容易ク出來ルモノ

デハナイ、例ヘバ一ツノ區裁判所ノ所在地ヲ他ニ移スルト云

フコトニ致シマシタ所ガ、餘程ノ調査ヲシナイトニコトト、單

モ重大ナル關係ガアル、唯理屈一遍アリマス

云フコトハ甚ダ困難デアル、サウシテ事情デアリマスカラ、諸

雲フコトハ甚ダ困難デアル、サウシテ事情デアリマスカラ、諸

○鈴木錠藏君 日程第二十三、及第二十四ノ兩案ヲ望

括シテ委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望

ミマス

(「異議ナシ」下呼者アリ)

○鈴木錠藏君 日程第二十三、及第二十四ノ兩案ヲ望

付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニシマス

ミマス

(「異議ナシ」下呼者アリ)

○鈴木錠藏君 日程第二十三、及第二十四ノ兩案ヲ望

付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニシマス

ミマス

(「異議ナシ」下呼者アリ)

○鈴木錠藏君 日程第二十三、及第二十四ノ兩案ヲ望

付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニシマス

ミマス

七、大正十年勅令第三百七十六號此兩案ノ事後承諾ヲ求ムル件ヲ一括シテ議題致シマス

## 第二十六 大正十年勅令第三百七十五號

(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

大正十年勅令第三百七十五號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ帝國ト洪牙利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正十年八月八日

内閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

外務大臣 伯爵内田 康哉

大藏大臣 伯爵山本 達雄

農商務大臣 伯爵高橋 是清

内務大臣 伯爵山本 達雄

鐵道大臣 野田卯太郎

文部大臣 伯爵大木 遠吉

司法大臣 元田 肇

陸軍大臣 山梨 半造

農商務大臣 男爵山本 達雄  
内務大臣 床次竹二郎  
文部大臣 中橋徳五郎  
鐵道大臣 伯爵大木 遠吉  
司法大臣 野田卯太郎  
陸軍大臣 山梨 半造

大正九年勅令第三百七十六號

大正九年勅令第三百七十一號ハ洪牙利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財產ヲ以テ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約第二百三十二條ニ規定スル

支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員山川端夫君登壇)

○政府委員(山川端夫君)日程第二十六ニ付テ 説明ヲ申上げマス、本案ハ日獨混合仲裁裁判所ニ關スル大正九年勅令第八十七號ノ規定ヲ、日本ト洪牙利國トノ間ニ設

ケラレマシタ混合仲裁裁判所ニ付テ準用シタイト云フノデアリマス、本件勅令ノ規定スル事項ハ立法事項アリマスカラ、本來ハ法律ヲ以テ之ヲ規定スペキノデアリマス、併ナガラ此日本ト洪牙利トノ混合仲裁裁判所ハ、洪牙利トノ平和條約ノ第二百三十九條ニ依リマシテ、其條約ノ

實施ノ日タル、大正十年七月二十六日カラ起算致シマシテ、三箇月以内ニ之ヲ設置スルト云コトニナッテ居ルノデアリマス、ソレデ其期日内ニ之ヲ設クルコトハ、日本ノ條約上ノ義務トナッテ居ルノデアリマス、ソレデ昨年ノ八月八日ニ本件ヲ緊急勅令トシテ公布セラレタノデアリマス、而シテ此勅令ハ將來モ尙ホ其效力ヲ有セシムル必要ガアリマスカラ、帝國憲法第八條第二項ニ依リマシテ、議會ノ承諾ヲ求ムル爲ニ茲ニ呈出セラレタノデゴザイマス、何卒御審議ノ上ニ御承諾アランコトヲ希望致シマス

(政府委員山内確三郎君登壇)

○政府委員(山内確三郎君)勅令第三百七十六號、承諾ヲ求ムル件ノ提案理由ヲ申上げマス、是モ洪牙利ニ對スル平和條約ニ依ル財產處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ

措置等ニ依リマシテ受ケタル損害賠償、其請求權、是ハ共ニ帝國政府ニ以テ管理致シテ居リマス洪牙利國人ノ財產ヲ以テ、其支拂ニ充テルト云フコトニナッテ居ル、之ガ條約ノ趣旨ニナッテ居リマス、而シテ其損害賠償ノ請求權ニ付テハテ居ル所ノ金錢債權、ソレカラ日本人ガ洪牙利政府ノ非常特殊權利審査會ト云フ一ツノ委員會ニ以テ一應ノ調査ヲ

スル、ソレカラ金錢債權ノ分ハ、是ハ本來ハ裁判所ノ裁判スベキ事アリマスカ、併ナカラ是モ手續ノ簡易ヲ圖シテ、特殊權利審査會ニ於テ審査スル、斯ウ云フ事ニナルノデアリマス、是ハ換地ニ對スル關係ガサウ云フ

同様ニ處理シタイト云フノガ此緊急勅令ノ趣旨アリマス而シテ其勅令ハ尙ホ將來ニ向シテ其効力ヲ有セシムルノ必要ガアリマスカラ、其承諾ヲ求ムル爲ニ茲ニ提出致シタ次第アリマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君)日程第二十八、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第廿八 右答案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

(和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○鈴木錠藏君 日程第二十六及第二十七ノ兩案ヲ一括シテ委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君)鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二十九和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、第一讀會ノ續ノ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、中山佐市君

第二十九 和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○中山佐市君 本案ハ極テ簡單ナル案アリマシテ、委員

會ニ於キマシテ全會一致ヲ以テ可決致シマシタカラ、此段御報告致シマス(拍手)

大正十年八月八日

内閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

外務大臣 伯爵内田 康哉

大藏大臣 子爵高橋 是清

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ  
御諮り致シマス

〔二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナイト認メマス依テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勲君 直ニ本案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定アラソコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止  
ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律

### 第二讀會(確定議)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告通り可決確定致シマシタ——日程第三十決議案ヲ議題ニ致シマス、提出者安達謙藏君外五名、決議案ノ趣旨ハ關和知君ヨリ辯明ガアリマス、關君

第三十 決議案(安達謙藏君外五名提出)  
決議案

〔賛成々々ノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ本案

ハ委員長報告通り可決確定致シマシタ——日程第三十決議案ヲ議題ニ致シマス、提出者安達謙藏君外五名、決議案ノ趣旨ハ關和知君ヨリ辯明ガアリマス、關君

○關和知君 總理大臣、内務大臣ニ出席要求ガアリマス  
○議長(奥繁三郎君) 今事務局カラ總理大臣、内務大臣ノ出席ヲ促シ逃リマシタ、内務大臣ハ議員席ニ居ラレマスカラ、大臣席ニ若カレルデセウ、總理大臣ノ所ヘハ人ヲ遣リマシタ

○關和知君(關和知君登壇) 諸君、本決議案ニ付キマシテハ、去ル二十四日ノ議場ニ於テ議事日程變更ノ動議ノ下ニ、同志ノ森田茂君ヨリ大體趣旨ノ説明ヲ致サレテ居リマス、其際森田君ノ動議ノ成立ヲ得シテ、自然日程ノ繰越サレマシタ結果ト致シマシテ、今日此場合ニ聊カ森田君ノ説明ヲ補足致シ改メテ私ヨリ本案提出ノ理由ヲ説明致シタイト思ヒマス、リマシタ

○議長(奥繁三郎君) 昨日ニ及ブ數日間、本議場ノ討議ニ上

テアド、我黨及國民黨、庚申俱樂部、無所屬ノ同志ニ依シ

テ一致聯合ノ提案ニナル所ノ所謂普通選舉ノ議案デアリマスアリマス、即チ此案ハ實質ニ於テハ憲法附屬ノ大法ノデアリマス、其内容ニ於テハ時代ノ要求ト國民ノ希望トヲ之ヲ今日内外ノ情勢ニ察シマスレバ、如何ナル問題ヲ差措イテモ當面最モ喫緊要ナル所ノ大問題デアリマス(拍手)隨テ此議案ノ上程サル、場合ニ、全國同胞國民ガ、此案ノ通過ヲ希望シ普通選舉ノ實現ヲ期スル爲ニ、四方言合ハセズシテ、或ハ北海道ノ果ヨリ、或ハ九州ノ片隅ヨリ、議會ヲ中心トシテ集り来テ、或ハ請願書ノ提出ト云ヒ、或ハ其議員ニ對スル訪問ト云ヒ、熱心ニ其民意ノ在ル所ヲ明カニシテ、此案ノ成立ノ爲ニ内外力ヲ協セルト云フコトハ、洵ニ現代ノ多數國民ガ等シク聖明ノ恩澤ヲ仰ギ、等シク參政ノ權利ヲ得テ、之ニ依テ以テ國ニ報ジ之ニ依テ自己生存ノ意義ヲ全ウシ、之ニ依テ文化ノ進展ニ資セントスル所ノ誠意ノ餘リ、吏情ノ逆ルトコロ此所ニ至ラ、所謂民衆ノ政治上ニ於ケル一大運動ニアリマス(拍手)故ニ斯ノ如キ問題ニ對シテスノ如キ民衆ノ運動ヲ見ルト云フコトハ、苟モ立憲治下ニ於ケル所ノ國民トシテハ、又政府トシテハ、寧口喜ブベキ所ノ現象ニアリテ、何者ト雖モ此希望、此運動ヲ妨害シ、阻止ス可キ所ノ理由ハ一點も尙此間ニ存スルモノアリマセヌ(拍手)然ルニ……

〔此時「ノウ」ト呼ヒ發言スル者多シ〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肃ニ……  
○關和知君(續) 然ルニ何ノ故ニアリマシタカ、現内閣ニ於ケル一大運動ニアリマス(拍手)故ニ斯ノ如キ問題ニ對シテスノ如キ民衆ノ運動ヲ見ルト云フコトハ、苟モ立憲治下ニ於ケル所ノ國民トシテハ、又政府トシテハ、寧口喜ブベキ所ノ現象ニアリテ、何者ト雖モ此希望、此運動ヲ妨害シ、阻止ス可キ所ノ理由ハ一點も尙此間ニ存スルモノアリマセヌ(拍手)然ルニ……

忌シキ實情ヲ元シタノニアリマス(拍手)殊ニ其甚シキニ至テハ、同僚ノ議員田中善立氏が當局ト妥協ノ結果、集リタ代表スル所ノモノアッテ、之ヲ立憲政治ノ精神ニ鑑ミニ、又之ヲ今日内外ノ情勢ニ察シマスレバ、如何ナル問題ヲ差措イテモ當面最モ喫緊要ナル所ノ大問題デアリマス(拍手)隨テ此議案ノ上程サル、場合ニ、全國同胞國民ガ、此案ノ通過ヲ希望シ普通選舉ノ實現ヲ期スル爲ニ、四方言合ハセズシテ、或ハ北海道ノ果ヨリ、或ハ九州ノ片隅ヨリ、議會ヲ中心トシテ集り来テ、或ハ請願書ノ提出ト云ヒ、或ハ其議員ニ對スル訪問ト云ヒ、熱心ニ其民意ノ在ル所ヲ明カニシテ、此案ノ成立ノ爲ニ内外力ヲ協セルト云フコトハ、憲法五十二條ノ保障ヲ亂ル所ノ歎マシタ際、不法ナル所ノ警官ガ之ヲ道ニ擁シテ、遂ニ田中民衆ヲ之ヲ解散セシムルガ爲ニ、導イテ内幸町ノ畔ニ参

行為ニアリテ、洵ニ由々シキ所ノ政府ノ一大失態ト言ハベナリマセヌ(拍手)何故ニ現内閣ハ此普通選舉ノ問題ニ對ニ神聖ナル所ノ議員ノ身邊ニ向テ言フベカラザル所ノ凌

君ヲ殴打致シ、警視廳ニ之ヲ拘禁致シト云フガ如キ、實力ヲ得テ、之ニ依テ以テ國ニ報ジ之ニ依テ自己生存ノ意義ヲ全ウシ、之ニ依テ文化ノ進展ニ資セントスル所ノ誠意ノ餘リ、吏情ノ逆ルトコロ此所ニ至ラ、所謂民衆ノ政治上ニ於ケル一大運動ニアリマス(拍手)故ニ斯ノ如キ問題ニ對シテスノ如キ民衆ノ運動ヲ見ルト云フコトハ、苟モ立憲治下ニ於ケル所ノ國民トシテハ、又政府トシテハ、寧口喜ブベキ所ノ現象ニアリテ、何者ト雖モ此希望、此運動ヲ妨害シ、阻止ス可キ所ノ理由ハ一點も尙此間ニ存スルモノアリマセヌ(拍手)然ルニ……

〔此時「ノウ」ト呼ヒ發言スル者多シ〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肃ニ……  
○關和知君(續) 然ルニ何ノ故ニアリマシタカ、現内閣ニ於ケル一大運動ニアリマス(拍手)故ニ斯ノ如キ問題ニ對シテスノ如キ民衆ノ運動ヲ見ルト云フコトハ、苟モ立憲治下ニ於ケル所ノ國民トシテハ、又政府トシテハ、寧口喜ブベキ所ノ現象ニアリテ、何者ト雖モ此希望、此運動ヲ妨害シ、阻止ス可キ所ノ理由ハ一點も尙此間ニ存スルモノアリマセヌ(拍手)然ルニ……

〔此時「ノウ」ト呼ヒ發言スル者多シ〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肃ニ……  
○關和知君(續) 然ルニ何ノ故ニアリマシタカ、現内閣ニ於ケル一大運動ニアリマス(拍手)故ニ斯ノ如キ問題ニ對シテスノ如キ民衆ノ運動ヲ見ルト云フコトハ、苟モ立憲治下ニ於ケル所ノ國民トシテハ、又政府トシテハ、寧口喜ブベキ所ノ現象ニアリテ、何者ト雖モ此希望、此運動ヲ妨害シ、阻止ス可キ所ノ理由ハ一點も尙此間ニ存スルモノアリマセヌ(拍手)然ルニ……

〔此時「ノウ」ト呼ヒ發言スル者多シ〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肃ニ……  
○關和知君(續) 我ガ帝都ハ殆ド戒嚴令下ニ在ルガ如キ

與黨ノ諸君ニ取リマシテハ(議場騒然)此普通選舉ノ問題ハ……

〔「不名譽トハ何ダ」ト呼ヒ發言スル者多シ〕

○議長(奥繁三郎君) 諸君靜肅ニ——關君ノ發言ニ付テ咎ムルナラバ、ドナタカ議長ノ許シヲ得テ發言ナサイ——

萩君何デスカ

○萩亮君 不名譽ナル議員トハ、議員ニ對シ侮辱ヲ加ヘタモノト思ヒマス、私ハ關君ガ此言ヲ取消サレルコトヲ希望シマス

○議長(奥繁三郎君) 何ト云フ言葉ヲ取消セト云フノデスカ

○萩亮君 只今關君ハ演壇上ニ於テ、不名譽ナル二百八十餘人ヲ選出シタト云フ言葉ハ、正シク侮辱シタモノニアリマスカラ、取消スコトヲ希望シマス

○關和知君(續) 斯ノ如クニシテ政友會ノ内閣及與黨諸君ニ取テハ、此普通選舉ト云フモノニ對シテ非常ナル恐怖ヲ感ジテ居ルノデアル……

○議長(奥繁三郎君) 今萩君ノ希望ニ對シテ關君ハ如何ニセラレマスカ

○關和知君(續) 議長ニ御答致シマス、私ハ發言權ヲ得テ自分ノ意見ヲ説明スル爲ニ、此壇上ニ立テ居リマス、演說ノ最中萩君アラウガ、誰テアラウガ、私ニ交渉談判ヲスル所ノ必要ヲ認メテ居リマセ、私詰ヲ禁ジマス

○議長(奥繁三郎君) 宣告致シマス、不名譽ナル二百八十人ヲ選バレタト云フ言葉ハ、不穩當ト思ヒマスカラ取消ヲ命ジマス

○關和知君(續) 取消スト云フコトハ、議長ガ曩ニ春日君ニ向テ申セラタト同ジ意味ニ於テ、速記ノ上ニ或ハ效力ヲ持ツコトニナルカモ知レマセヌ、併シ私ノ辯ペタ所ノ不名譽名譽ナル當選ト信ジテ居リマセヌ……

○議長(奥繁三郎君) 諸君ニ宣言シマス、議長ガ取消ヲ命ジマシタニ付テ、關君ハ反抗ノ意思ヲ表サレマシタ、之ニ付テ適當ノ處置ヲ執ル積リテアリマス

○關和知君(續) 斯クシテ政府及政友會ノ諸君ガ普通選舉ニ對スル態度ハ、恰モ一種ノ惡夢ニ襲ハレテ(ノウノウ)惡シキ夢ニ襲ハレテ、己ノ疑惑カラシテ自ラ魯カサレテ、

而シテ轉轍反側シテ居ルト同ジヤウナ狀態デアリマス……

〔「ノウ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(奥繁三郎君) 靜肅ニ

○關和知君(續) 諸君及内閣ノ諸公ハ、少クトモ政黨内閣ヲ以テ立ツ者ニアリマス、政黨内閣トハ抑々何デアルカ、政

黨内閣ノ生命ハ何處ニ在リマスカ、言フ迄モナク民衆ノ勢力ヲ基調トシテ、其上ニ組立テラレタ所ノ内閣組織ガ即チ

政黨内閣デアルノデアル(拍手)民衆ノ勢力ヲ度外視シテ、何處ニ政黨内閣ノ生命ガアリマスカ(拍手)何處ニ内閣存立ノ理由ガアリマスカ、諸君ハ嘗テハ憲政擁護ヲ唱ヘ、民衆

勢力ヲ鼓吹シ、民衆勢力ヲ發揚ノ爲ニ、殆ド血ヲ見ルモ厭ハザルマデノ意氣ヲ現シタ所ノ諸君ニアリ、又斯ノ如キ歴史ヲ有シテ居ル所ノ諸君デアル、然ルニ何事デアルカ、今日ニ於テ普通選舉ノ大問題ニ對スル民衆ノ此勢ノ勃興ニ對シテ妨碍ヲ致シ、之ヲ阻止スルガ爲ニ、遂ニハ警吏憲兵ノ……

〔「取シクナイカ」「何ダ煽動シテ」「ヤカマシイ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○議長(奥繁三郎君) 靜肅ニ

○關和知君(續) 之ニ對抗シナケレバナラヌト云フ狀態ニ至ダト云フコトハ……(此時發言スル者多シ)

○議長(奥繁三郎君) 諸君ニ宣言シマス、三善清之君ト吉良君ニ發言ヲ停止シマス(拍手)「議長公平」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 宣告致シマス、不名譽ナル二百八十人ヲ選バレタト云フ言葉ハ、不穩當ト思ヒマスカラ取消ヲ命ジマス

○關和知君(續) 取消スト云フコトハ、議長ガ曩ニ春日君ニ向テ申セラタト同ジ意味ニ於テ、速記ノ上ニ或ハ效力ヲ持ツコトニナルカモ知レマセヌ、併シ私ノ辯ペタ所ノ不名譽名譽ナル當選ト信ジテ居リマセヌ……

○議長(奥繁三郎君) 諸君ニ宣言シマス、議長ガ取消ヲ命ジマシタニ付テ、關君ハ反抗ノ意思ヲ表サレマシタ、之ニ付テ適當ノ處置ヲ執ル積リテアリマス

○議長(奥繁三郎君) 斯クシテ政府及政友會ノ諸君ガ普通選舉ニ對スル態度ハ、恰モ一種ノ惡夢ニ襲ハレテ(ノウノウ)惡シキ夢ニ襲ハレテ、己ノ疑惑カラシテ自ラ魯カサレテ、

其臣民ニ向テ陛下ハ異クモ此臣民ノ協力ニ倚藉スルトマニニ仰セラレテ居ル所ノ愛撫深キ所ノ陛下ノ御心ニ適シテ居ル此臣民、極テ忠良ナル所ノ此臣民ヲ、現内閣ノ諸公若クハ政友會ノ諸君ノ眼中ヨリ見レバ(發言スル者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 靜肅ニ

○關和知君(續) 恰モ危險視セラレ、殆ド仇敵セラル、ト云フが如キニ至テハ陛下ノ御勅語ニ對シテ、諸君ノ今

ト云フが如キニ至テハ陛下ノ御勅語ニ對シテ、諸君ノ今

如キ姑息ナル口實ニ藉テ其實現ヲ妨ダテ居ルガ、諸君ハ何レノ時ヲ以テ時期ナリト認メテ居ルノアリマスカ、或ハ

佛國ノ二月革命ノ如キ事件、或ハ白耳義ニ於ケル所ノ千九百十三年ノ労働者四十餘万ノ總「ストライキ」ヲ見ルカ

如キ時期ガ到來ヲ致シタラバ、茲ニ初テ時期ナリト認メル

ノアリマスカ(拍手)凡ソ政治ノ要道ハ其極端ニ至ラシメザルト云フ事ガ大切デアリマス、物極ニ至レバ必ズ變ズル、動

アレバ此ニ反動アリ、諸君ハ此動、反動ノ原則ニ付政治上ニ於テ當然責任ナルコトヲ自覺シナケレバナラヌ、内閣ノ諸公ハ大命ヲ拜シテ補弼ノ責ニ任ジテ居ル、其内閣ノ下ニ

於テ、此昭代ニ於テ、畏クモ 摄政宮第一年ノ最初ノ議會

ガ、戒嚴令下ニ開カル、ト云フガ如キ不祥事ヲ惹出シテ、尙

ホ輔弼ノ責任ヲ全ウスルト言ハル、カ、而シテ之ヲ援クル所

ノ多數ガ、果シテ民意ヲ代表スル所ノ多數ト言ハレマスカ、

私ガ不名譽ナル多數ト云フコトハ、民意ヲ代表セズ 陛下

ノ聖旨ニ副ヒ奉ルコトニ怠ル所ガアルコトヲ以テ、之ヲ不名

譽ノ多數ト言フナデアル(拍手)是等ノ事實ニ基イテ、單リ

此問題ハ其取締ノ局ニ當ラタ内務大臣ノ責任ノミナラズ、

内閣全體ノ負擔スベキ 陛下ニ對シ、國民ニ對スル政治上

ノ一大責任デアルト信ジマシテ、茲ニ此決議案ヲ提出シタ

ル所以デアリマス(拍手)決議案ノ本文ヲ朗讀致シマス「決

議案、昨二十三日普通選舉法案上程ニ當リ政府ハ警吏

憲兵ヲ以テ議院ヲ包圍シ國民請願ノ自由ヲ壓迫シ溫良ノ

人民ヲ檢束スルノミナラズ議員ヲ殴打拘禁シタルハ憲政ヲ

破壞スルモノト認ム政府ハ須ラク其責ニ任スヘシ」(拍手)責

任ヲ重ンズルト云フコトガ、政黨内閣ノ常道デアリマス、多

クノ點ニ付テ總テ責任自覺ナキ所ノ内閣ト雖モ、此一事ニ

對シテハ、少クトモ一片ノ良心ハ内閣自體ノ責任ヲ自覺ス

ルノ餘地アルモノト信ズルガ故ニ、茲ニ所決ヲ促シテ此說明

ヲ爲シタ所以デアリマス(拍手起立)

〔松田源治君登壇〕

○松田源治君 諸君、本員ハ今關君ヨリ説明ノアリマシタル内閣不信任ノ決議案ニ絶対ニ反対ヲ表スルノアリマス、關君ハ此決議案以外ニ、普通選舉ノ事ニ付テ論ジマシタガ、私ハ多ク此點ニ付テ論ズル必要ハナイト思ヒマス、即チ普通選舉ノ國論ハ、昨日ノ議場ニ依テ明ニ發表サレテ居ルノアリマス、總テ立憲國ニ於テ、公ナル輿論ト云フモハ、衆議院以外ニ無イノアリマス、國民ノ代表機関ガ、即チ普通選舉ノ即時實行ト云フコトニ反対シタル以上バ、

是レ輿論ナリト斷定セザルヲ得ナイノアリマス、唯一言茲

ニ辯明スベキ事ハ、原前首相ガ普通選舉ハ危險思想ナリト

申シタト言ヒマスガ、是ハ間違テ居ルノアアル、普通選舉ハ

選舉權ノ擴張デアルカラ、危險思想デハナイ、唯説明者ガ

色々々ナル説明ヲナシテ、階級打破ヲ叫ンダカラ、其聲ガ社會

組織ヲ脅威スル嫌ヒガアルト言タニ過ギナイノアリマス、

即チ原總理大臣ハ普通選舉ハ危險思想ニ非ザルノミナラ

ズ、婦人ニマデ選舉權ヲ與ヘナケレバナラスト云フコトヲ申

シテ居ルノアリマス、唯其説明者ノ説明中ニ社會組織ヲ

脅威スル説明ノ趣旨ガアツカラ、是ハ即チ危險思想ヲ帶ビ

テ居ルト云フコトヲ申シタノアリマス、唯一言此點ニ付テ

辯明ヲ致シテ置キマス、決議案ノ趣意ハ三段ニ分レテ居リ

マス、政府ハ警吏憲兵ヲ以テ議院ヲ包圍シ、國民請願ノ自

由ヲ壓迫シ、是ガ一ツデアリマス、ソレカラ溫良ノ人民ヲ拘

束シト云フ事ガ一ツデアリマス、一ツハ議員ヲ殴打拘禁シタ

ト云フ事デアリマス此三ツハ何等ノ事實ノ根據ガナイト云

フコトハ私ハ申シテ置キタインデアリマス、去ル二十三日ニ

普通選舉法ガ上程ノ日ニ於キマシテ、政府當局ノ爲シタル

事ハ、帝都ノ治安ヲ維持シ、東京市民ノ安寧ヲ維持スル爲

ニハ、其當時ノ狀況ニ徴シテ、實ニ已ムヲ得ザル處置ニ出デ

タノアリマス、此二十三日以前ニ、政府ノ反對黨ハ、屋内

及屋外ノ集會ヲ開催シテ、輿論ヲ喚起スルト稱ヘテ、如何

ナル事ヲ爲シマシタ、其中ニハ往ニ過激ノ言動ヲ敢テ致シマ

シテ、或ハ中岡民一ノ行動ヲ稱揚シタル者モアリ、直接行

動ヲ慾憇シタル者モアル、現ニ本月ノ十一日芝公園ニ於キ

マシテ、憲政會ノ代議士中野寅吉君ハ、ドウ云フ演說ヲ致

シタ、其演說ノ中ニ、見ヨ中岡民一、彼ハ僅々一二分間ニ

シテ大演說ニ優ル大仕事ヲ爲遂ゲタ云々、又同月十七日ニ神田青年會館ニ開催サレマシタ普選ノ促進演說會ニ於

テ、函館ノ立憲青年黨員ノ濱口一藏上云フ人ハ、斯ウ云フ演說ヲシテ居ルノアアル、中岡民一ヲ激稱致シテ、同人ノ行

為ニ對シテハ、動一等ヲ授ケル資格ガアルト云フ意味ヲ述

私語スル者多シ

○議長(奥繁三郎君) 静ニ……

○松田源治君(續) 「水戸ノ新人十七士櫻田門外ニ叫

ブ、吾等ニ參政權ヲ與ヘヨ、吾ハ死ヲ賭シテ此請願ヲ致テ

ス」ト云フヤウナ宣傳ビラヲ撒布致シマシタ、斯ウ云フ事例

組織ヲ脅威スル嫌ヒガアルト言タニ過ギナイノアリマス、

ハ枚舉ニ追アラザルノアリマス、而シテ新聞紙ノ全部トハ

申サレマセヌガ、其一部ニ於キマシテモ、煽動的ノ言論、或ハ

誇大不穩ノ記事ヲ連載致シマシテ、明白ニ又ハ暗々裡ニ、

直接行動ヲ慾憇スル者ガアルノアリマス、斯ウ云フ情報ヲ

國等ニ於キマシテモ、煽動的集會取締法ト云フモノガアリマシテ、議院ノ開會ノ當日ハ、政治ノ目的ノ爲ニ議院カラ一哩以内ノ街路デアルトカ、廣場デアルトカ、空地デアルトカ云フ所ニ、五十名以上ノ集會ハ禁ジテアリマス、即チ煽動的集會取締法ノ二十三條ニ斯ウ云フコトガアル、能ク御聽キ下サイ、「議院ノ兩院若クハ一院ノ開會召集延期若クハ閉會ノ當日ニ於テ教會若クハ國家ニ關スル事項ノ變改ノ爲メ兩院若クハ一院ニ請願哀訴疏明建議ヲ爲シ準備ノ目的若クハ其口實ニテ「ウエストミンスターホールゲート」ヨリ一哩以内ニ在ル地内ノ街路廣場空地若クハ「ウエストミニスター」特許地若クハ「ミトルセックス」等ニ五十人以上集合スルハ適法ニ非ラズ不法ノ集會ト認定セラル」とアルノアリマス、斯ノ如ク自由ヲ尊ブ國デモ、煽動的集會取締法ト云フモノガアルノデアリマス、自由ト云フ言葉ハ絶対ノ自由デハアリマセヌ、放縱勝手トハ違フノデアリマス、即チ自由ハ制限デアリマス、責任觀念デアル、賢明ナル諸君ノ前ニ外國語等ヲ引イテ相濟ミセヌガ、英語ノ「リバーチー」ト云フ言葉ハ「リミット」ト「ハウンドリー」カラ成テ居ル、即チ限界、範圍ト云フモノカラ成、テ居ルノデアル、吾々ノ行動スル限界、吾々ノ言論スル範圍ト云フコトヲ極メタノガ「リバーチー」デアルト云ハナケレバナラヌノデアル、即チ自由ト云フモノハ制限デアル、責任感念デアル、立憲政治ナルモノハ秩序ト制限デアル、責任デアッテ、制度ヲ尊ビ秩序ヲ尊ビ平和ノ裡ニ行動スルノガは「デモクラシー」ト云フテ、是ノ發達ト云フコトヲ期スルコトハ出來ナイノデアル、即チ自由ナリト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、又溫良ナル人民ヲ檢束シタ、斯ウ云フコトハ政府ハ絕對ニアリマセヌ、即チ諸君等ノ協賛シマシタ法律ノ行政執行法ニ依リマシテモ、暴行逃走其他公安ヲ害スル虞アル者ニ對シ、之ヲ豫防スル為メ必要ナル時ハ、檢束ヲ加フルコトヲ得ト云フコトガアル、即チ暴行逃走其他公安ヲ害スル虞アル時分ニハ、公安ヲ維持スル爲ニ檢束ヲ爲スト云フコトハ、遺憾ナガラ已ムヲ得ザ爾處置デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、是ハ皆議會ニ於テ協賛シタル法律ニ依ッテ、ア、云フ騒擾ノアル場合ニ於テ、或ハ煽動的ノ言語ヲ使ヒ、或ハ公安ヲ害スルト云フヤウナコトガアッタナラバ、諸君等ノ協賛シタル法律ニ依ッテ、之ヲ檢束シテ治安ヲ維持スルト云フコトハ、政府絶對ノ任務ナリト私ハ斷ズルノデアリマス、又議員ヲ殴打拘禁シタ、議員

田中君ガ警視廳ニ勾引サレタノハ、是ハ治安警察法及公務執行妨害罪ニ該ジテ檢束シタノデアル、假令代議士アルト雖モ、憲法ノ保障ハアリマスケレドモ、即チ憲法第五十三条ニ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ヲ除ク外トアル、即チ現行犯ノ時分ニハ、議員デアラウガ誰デアラウガ、即チコトハ當然デアリマス、今ヤ此事件ハ治安警察法職務執行妨害トシテ、檢事局ニ一件書類ヲ送リマシテ、審査中テアリマスカラ、數日ヲ出デズシテ田中君ガ犯罪ヲシタカ否ヤト云フコトハ明ニ分ル事デアルト思フ、即チ田中君ハ憲政會本部ニアリタル群集ヲ率イテ、之ヲ日比谷門ニ連じテ來テ、日比谷門ノ中ニハ多數ノ群集ガアル、ソレニ一致セシメントステ、警戒線ヲ突破セント致シタノデアル、其時分ニ其處ヲ守ツテ居ル所ノ警察官ハ、此方ニ來ラレテハ、日比谷公園ニ群集が居ルカラ、ソレト一致スル場合ニ於テハ、不穩ナル行動ヲ起スカラ、櫻田町方面ニ解散スルガ宜トイト言ウテ解散ヲ命ジタノデアル（嘘ヲ言フナ「ト呼フ者アリ）然ルニ解散ノ命ニ從ハズ制止ノ聲ニモ從ハヌ、警戒線ヲ突破致シマシテ、遂ニ警察官ヲ殴打シテサウシテ職務ノ妨害ヲ致シタカラ、公務執行妨害及治安警察法違反トシテ勾引シタノデアル、代議士ト致シマシテハ、私ハ慎重ナル態度ヲ執ツテ而シテ秩序ヲ維持シナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ群衆ヲ率イテ、其場合ニ屋外集會ノ禁ゼラレテ居ルト云フコトモ知ツテ居ル、屋外ニ群集ガ集ルコトヲ禁シテ居ルト云フコトモ明ニ知ツテ居ル、然ルニ當該警官ノ制止解散ニ應ゼシテ、警戒線ヲ突破シテ進ムト云フコトハ、是レ犯罪ニアラズシテ何ゾヤト私ハ申スノデアリマス、斯ノ如キ狀態ニシテ政府ガ治安維持ノ爲ニ……（嘘ヲ言フナ）ト呼ヒ其他發言者多シ

○議長（奥繁三郎君） 静ニ：

○松田源治君（續） 治安維持ノ爲ニ安寧秩序ヲ維持スル爲ニ、アレダケノ取締ヲシタカラ、帝都ハ安全ニ擁護サレタノデアリマセヌカ立憲政治ハ完全ニ進行シタノデアリマセヌテ居ルノデアリマス、吾々ハ益、此日本國民ノ思想ヲ善導シテ、憲法政治ノ爲ニ秩序アル進歩ヲシテ、穩健實著ナル行動ヲ取ツテ以テ、國民ニ報ズルト云フコトガ、當然ノ處置ナリ唯騒ぐ決議案ヲ以テ、政府ヲ退ケヤウト云フコトハ、立憲ノ常道ニ於テ吾々ハ断ジテ反對ヲスルノデアリマス、多ク論ズテラバ、日本ハ拉丁民族ノ行ウシテ居ル憲法政治ノヤウナル民族流ノ憲法政治ニスルカト云フ分歧點ニ際會致シテ居ルノデアリマス、吾々ハ益、此日本國民ノ思想ヲ善導シテ、憲法政治ノ爲ニ秩序アル進歩ヲシテ、穩健實著ナル行動ヲ取ツテ以テ、國民ニ報ズルト云フコトガ、當然ノ處置ナリ必要ハアリマセヌ、斯ノ如キ決議案ハ憲政ノ常道ヲ破壊シテ、自ラ憲政ヲ破壊スルモノデアリマスカラ、之ニ向ツテ絶對的反対セラレントコトヲ望ムノデアリマス、且此案ハ不信任案デアリマスケレドモ、裏面ニハ信任案デアル此少數ノ不信任案ヲ否決シタナラバ、内閣ニ絶對信任ヲ與ヘルト云フコトニ

ナルノデアリマス、不信任ハ表面デアテ、裏面ハ信任案デアル、諸君ハ宜シク此案ヲ否決シテ、政府ニ向テ絶対ノ信任ヲ與ヘラレントヲ望ンデ私ハ此壇ヲ下リマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 田中善立君ヨリ、一身上ノ辯明ニ付テ發言ヲ求メラレシタカラ之ヲ許シマス  
〔田中善立君登壇〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……

○田中善立君 只今松田源治君ノ本員身上ニ關スルコトハ、全ク頗倒シ、全ク事實無根ナルコトヲ、私ハ辯明ヲ致シマス、去ル二十三日本會議ガ了ヘマシテ、憲政會本部ニ引上ゲマスルト云フト、本部ノ門ノ内外ハ、多數ノ警官ト構内ニ居リマスル熱誠ナル普選同志ガ互ニ押合ヒシテ居ル光景デアタノデアリマス、之ヲ聞キマスルト云フト、吾々ガ歸ル少シ前ニ、亂暴ニモ警官ハ我が本部ノ構内ヘ闖入シテ、其三名ハ拔劍シテ此民衆ヲ解散セシメントシタ、中ニ泉田保雄ナル仙臺ヨリ態、上京セル青年ハ、左腕ニ三箇所ノ斬創ヲ受ケタク云フコトデアル、其他警官ノ土足ニ掛ケラレ、打チ打擲ヲサレタ者モ少カラズアル、其餘波ノ騒ギデアルト云

○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君(續) 是ハ默シテ置クコトガ出來ヌト云フ所カラ、警官ニ對シテ何故ニ我ガ構内ヘ溢リニ闖入シテ、サウ云フ暴行ヲ加ヘルノデアルカト叱咤致シマシテ、警官ヲ皆構外ヘ押出シマシタ、是ニ於テ先づ其喧騒ハ鎮マリマシタガ故ニ、私ハ本部ノ樓上ニ引上げマシタ、暫クスルト云フト、賴母木幹事長が樓上ヘ上ダテ參りマシテ、今佐々木方面觀察ト田邊町署長ガ吾輩ニ向テ、ドウゾ此構内ノ民衆ヲ一刻モ早ク解散サシテ吳レト云フコトデアタ故ニ、吾輩ハ彼等ニ向テ解散ハセルガ、今横山勝太郎君ガ院内ノ模様ヲ報告セシメントシテ居ルカラ、此報告ヲ了ヘタナラバ解散ヲサセヤウ、斯ウ答ヘタ、ソコデ方面觀察ハ宜シク賴ムト言、テ歸テ行テ、暫クスルト云フト田邊署長ガ再ビ賴母木君ヲ呼出シニ來タノデアリマス、賴母木君ガ行テ交渉ノ結果、又歸テ報告セシマス所ニ依ルト、今田邊署長カ言フノニハ既ニ報告モ濟ンダカラ、ドウゾ早ク解散セシメテ貰ヒタ

イト云フコトデアタ、ソコデ古賀三千人君、清水留三郎君  
ナルノデアリマス、不信任ハ表面デアテ、裏面ハ信任案デアル、諸君ハ宜シク此案ヲ否決シテ、政府ニ向テ絶対ノ信任ヲ與ヘラレントヲ望ンデ私ハ此壇ヲ下リマス(拍手)  
○議長(奥繁三郎君) 田中善立君ヨリ、一身上ノ辯明ニ付テ發言ヲ求メラレシタカラ之ヲ許シマス  
〔田中善立君登壇〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君 只今松田源治君ノ本員身上ニ關スルコトハ、全ク頗倒シ、全ク事實無根ナルコトヲ、私ハ辯明ヲ致シマス、去ル二十三日本會議ガ了ヘマシテ、憲政會本部ニ引上ゲマスルト云フト、本部ノ門ノ内外ハ、多數ノ警官ト構内ニ居リマスル熱誠ナル普選同志ガ互ニ押合ヒシテ居ル光景デアタノデアリマス、之ヲ聞キマスルト云フト、吾々ガ歸ル少シ前ニ、亂暴ニモ警官ハ我が本部ノ構内ヘ闖入シテ、其三名ハ拔劍シテ此民衆ヲ解散セシメントシタ、中ニ泉田保雄ナル仙臺ヨリ態、上京セル青年ハ、左腕ニ三箇所ノ斬創ヲ受ケタク云フコトデアル、其他警官ノ土足ニ掛ケラレ、打チ打擲ヲサレタ者モ少カラズアル、其餘波ノ騒ギデアルト云

○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君(續) 是ハ默シテ置クコトガ出來ヌト云フ所カラ、警官ニ對シテ何故ニ我ガ構内ヘ溢リニ闖入シテ、サウ云フ暴行ヲ加ヘルノデアルカト叱咤致シマシテ、警官ヲ皆構外ヘ押出シマシタ、是ニ於テ先づ其喧騒ハ鎮マリマシタガ故ニ、私ハ本部ノ樓上ニ引上げマシタ、暫クスルト云フト、賴母木幹事長が樓上ヘ上ダテ參りマシテ、今佐々木方面觀察ト田邊町署長ガ吾輩ニ向テ、ドウゾ此構内ノ民衆ヲ一刻モ早ク解散サシテ吳レト云フコトデアタ故ニ、吾輩ハ彼等ニ向テ解散ハセルガ、今横山勝太郎君ガ院内ノ模様ヲ報告セシメントシテ居ルカラ、此報告ヲ了ヘタナラバ解散ヲサセヤウ、斯ウ答ヘタ、ソコデ方面觀察ハ宜シク賴ムト言、テ歸テ行テ、暫クスルト云フト田邊署長ガ再ビ賴母木君ヲ呼出シニ來タノデアリマス、賴母木君ガ行テ交渉ノ結果、又歸テ報告セシマス所ニ依ルト、今田邊署長カ言フノニハ既ニ報告モ濟ンダカラ、ドウゾ早ク解散セシメテ貰ヒタ

イト云フコトデアタ、ソコデ古賀三千人君、清水留三郎君  
ナルノデアリマス、不信任ハ表面デアテ、裏面ハ信任案デアル、諸君ハ宜シク此案ヲ否決シテ、政府ニ向テ絶対ノ信任ヲ與ヘラレントヲ望ンデ私ハ此壇ヲ下リマス(拍手)  
○議長(奥繁三郎君) 田中善立君ヨリ、一身上ノ辯明ニ付テ發言ヲ求メラレシタカラ之ヲ許シマス  
〔田中善立君登壇〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君 只今松田源治君ノ本員身上ニ關スルコトハ、全ク頗倒シ、全ク事實無根ナルコトヲ、私ハ辯明ヲ致シマス、去ル二十三日本會議ガ了ヘマシテ、憲政會本部ニ引上ゲマスルト云フト、本部ノ門ノ内外ハ、多數ノ警官ト構内ニ居リマスル熱誠ナル普選同志ガ互ニ押合ヒシテ居ル光景デアタノデアリマス、之ヲ聞キマスルト云フト、吾々ガ歸ル少シ前ニ、亂暴ニモ警官ハ我が本部ノ構内ヘ闖入シテ、其三名ハ拔劍シテ此民衆ヲ解散セシメントシタ、中ニ泉田保雄ナル仙臺ヨリ態、上京セル青年ハ、左腕ニ三箇所ノ斬創ヲ受ケタク云フコトデアル、其他警官ノ土足ニ掛ケラレ、打チ打擲ヲサレタ者モ少カラズアル、其餘波ノ騒ギデアルト云

○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君(續) 是ハ默シテ置クコトガ出來ヌト云フ所カラ、警官ニ對シテ何故ニ我ガ構内ヘ溢リニ闖入シテ、サウ云フ暴行ヲ加ヘルノデアルカト叱咤致シマシテ、警官ヲ皆構外ヘ押出シマシタ、是ニ於テ先づ其喧騒ハ鎮マリマシタガ故ニ、私ハ本部ノ樓上ニ引上げマシタ、暫クスルト云フト、賴母木幹事長が樓上ヘ上ダテ參りマシテ、今佐々木方面觀察ト田邊町署長ガ吾輩ニ向テ、ドウゾ此構内ノ民衆ヲ一刻モ早ク解散サシテ吳レト云フコトデアタ故ニ、吾輩ハ彼等ニ向テ解散ハセルガ、今横山勝太郎君ガ院内ノ模様ヲ報告セシメントシテ居ルカラ、此報告ヲ了ヘタナラバ解散ヲサセヤウ、斯ウ答ヘタ、ソコデ方面觀察ハ宜シク賴ムト言、テ歸テ行テ、暫クスルト云フト田邊署長ガ再ビ賴母木君ヲ呼出シニ來タノデアリマス、賴母木君ガ行テ交渉ノ結果、又歸テ報告セシマス所ニ依ルト、今田邊署長カ言フノニハ既ニ報告モ濟ンダカラ、ドウゾ早ク解散セシメテ貰ヒタ

イト云フコトデアタ、ソコデ古賀三千人君、清水留三郎君  
ナルノデアリマス、不信任ハ表面デアテ、裏面ハ信任案デアル、諸君ハ宜シク此案ヲ否決シテ、政府ニ向テ絶対ノ信任ヲ與ヘラレントヲ望ンデ私ハ此壇ヲ下リマス(拍手)  
○議長(奥繁三郎君) 田中善立君ヨリ、一身上ノ辯明ニ付テ發言ヲ求メラレシタカラ之ヲ許シマス  
〔田中善立君登壇〕  
○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ……  
○田中善立君 只今松田源治君ノ本員身上ニ關スルコトハ、全ク頗倒シ、全ク事實無根ナルコトヲ、私ハ辯明ヲ致シマス、去ル二十三日本會議ガ了ヘマシテ、憲政會本部ニ引上ゲマスルト云フト、本部ノ門ノ内外ハ、多數ノ警官ト構内ニ居リマスル熱誠ナル普選同志ガ互ニ押合ヒシテ居ル光景デアタノデアリマス、之ヲ聞キマスルト云フト、吾々ガ歸ル少シ前ニ、亂暴ニモ警官ハ我が本部ノ構内ヘ闖入シテ、其三名ハ拔劍シテ此民衆ヲ解散セシメントシタ、中ニ泉田保雄ナル仙臺ヨリ態、上京セル青年ハ、左腕ニ三箇所ノ斬創ヲ受ケタク云フコトデアル、其他警官ノ土足ニ掛ケラレ、打チ打擲ヲサレタ者モ少カラズアル、其餘波ノ騒ギデアルト云

テ、捜査課長ヲ連レ出シテ行キマシタ、捜査課長ハ稍々暫クスルト歸テ來テ、能ク分リマシタ、蓋シ幹事長ト田邊署長トノ交渉ガ、アノ内幸町ノ電車通ヲ警戒シテ居タ警官ニ其旨カ達セザリシ爲ニ、其誤解ヨリスノ如ク君ヲ檢束シタモノト思フ、洵ニ御氣ノ毒デアタ、ドウゾ御歸リ下サイト云フコトデアタカラ、私ハ約一時間ヲ經過シテ九時頃歸タノデアリマス、是ガ事實デアリマス、少しモ偽ラザル所ノ是ガ事實デアリマス、斯ノ如ク明カナル事柄ヲ、全ク虛偽ノ部下ノ報告ニ依テ、我輩ヲ罪セントスルニ至リテハ、其良心ノ有無ヲ疑ハザルヲ得ヌノアル、事實ノ報告ハ右ノ如クデアリマス、尙ホ之ヲ目撃セル所ノ第三者タル權威アル十數名ノ新聞記者ガ、生キタ證人ニ立チ得ルノデアリマス、尙其他ニ目撃者ガ幾ラモアルノデアリマスカラ、如何ニ良心ナキ當局者ガ詭辯ヲ弄スルト雖モ、公正ナル司法官ノ手ニ依テ、天下ニ明カニナルデアラウト、私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス。

○議長（奥繁三郎君） 横山勝太郎君……  
○議長（奥繁三郎君） 横山勝太郎君宣シ  
○紫安新九郎君 議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メマス  
○議長（奥繁三郎君） 宜シイ  
○紫安新九郎君 簡單デスカラ此席ア——政府ヲ彈劾スル場合トカ、或ハ政府ニ對スル不信任案ノ討議ヲナス場合ニ於テ稍々穩當ヲ缺クノ言辭ヲ發スルト云フコトハ、殆ド從來ノ慣習ニナシテ居タノアル、發ルニ先刻我黨ノ代表者關和知君不名譽ノ二百八十名ノ議員ヲ選出云々ト云フ言ヲ發スルヤ、政友會ヨリシテ議長ニ對シテ此言葉ノ取消ヲ要求セラレタ、而シテ議長ガ關君ニ對シテ其取消ヲ命ズルニ當リマシテ、關君ガ其言葉ノ意義ヲ釋明致シマシタ、其際ニ議長ハ關君ハ議長ノ命令ニ抗スルモノト認メルカラ云云ト云フコトヲ仰セニナリマシタ、ソレハ議長御見込ノ通りアリマス、松田君ハ何ト申シマシタ、諸君ハ憲政ノ常道ニ依テ、陰謀騷擾ニ依テ（其通りト呼フ者アリ）

○議長（奥繁三郎君） 静ニ  
○紫安新九郎君（續） 驅擾ニ依テ我黨ガ政權ヲ取ラントシテ居ルト云フコトハ、是ハ實ニ我黨ヲ誣エルノ甚シイモノト謂ハナケレバナラヌ、其言辭ハ不穩當ヲ超越シタル言辭ニアリマス、議長ハ速カニ松田君ニ對シテ其言ノ取消ヲ命スラレシコトヲ提議致シマス（其通りト呼フ者アリ）  
〔發言スル者多シ〕

○議長（奥繁三郎君） 静ニ——静ニ、先刻ノ一言ハ萩君ノ注意ガアリマシテ取消ヲ命ジタコトハ、確ニ此處デ言ッテ居リマス、今松田君ノハ、其言葉ノミヲ摘發サレルガ、前後ノ關係ナドヤ、其言葉ガドウ云フ場合ニ使ハレテヤラ記憶シテ居リマセスカラ、早速速記録ヲ調ベタ上デ致シマス（公平公平ト呼フ者アリ）

〔此時發言スル者アリ〕

○議長（奥繁三郎君） 金澤安之助君ノ發言ヲ禁ジマス

〔「議長ノ不公平ヲ信ジマス」ト呼ヒ金澤安之助君ノ私ハ發言シテ居リマセヌト呼フ〕

〔横山勝太郎君登壇〕

〔皆讀シテ居ルカラ新聞ハ止シ給ヘ「ト呼フ者アリ」〕

○議長（奥繁三郎君） 静ニ

○横山勝太郎君 諸君、私ハ只今關和知君ニ依テ説明ヲセラレマシタ決議案ニ對シテ、聊カ贊成ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス、此賛成ノ理由ヲ述ベマス順序ト致シテ、此頃現

政府並ニ與黨タル政友會ノ諸君ノ態度ニ關シテ一言スル

ノ必要ヲ認メマス、今回上程セラレテ數日間ニ亘テ議論ス

セラレタル所ノ普通選舉ナルモノハ、其價値果シテ如何ナルモノデアルカ上云フコトニ付テ、私ハ別ニ此際意見ヲ申上

ゲル必要ハアリマセヌ、唯此普通選舉ノ議案が上程ヲセラ

レマシタル前日、即チ本月ノ二十二日、朝以來、政府ハ如何ナル態度ヲ執ツタカト申シマスレバ、政府ハ諸君モ御承知ノ通り、議會ノ裏門ニ當テ居ル所ノ議員俱樂部ノ附近ニ

於テ、其他ノ場所ニ木柵ヲ建テ、又大ナル繩ヲ以テ之ヲ連

結ヲ致シテ、而シテ民衆ガ議會ニ來ルコトヲ妨害ヲセントス

ルガ如キ態度ヲ示シタノデアリマス（「ノウ」ト呼フ者ア

リ）只今松田源治君ノ説明ニ依レバ、二十万モ請願ヲ爲ス

者ガ來シテハ甚ダ迷惑デアルカラ、交通ノ整理上斯ノ如キ事

ヲ致シタノデアルト言ハレマシタケレドモガ、ソレハ只今松田

君ノ辯明ニ依テ吾々ガ之ヲ聞クコトガ出來タノデアリマス、

當時ノ狀態ハ、吾々ノ察知スル所ニ依レバ、請願書ヲ携ヘタ

ル者モ請願書ヲ携ヘザル者モ盡ク混同セラレテ、サウシテ

警察官ハ請願書ヲ持テ居ル者モ、持テ居ラナイ者モ、一

様ニ之ヲ妨害ヲ致シテ、議院ニ來ルコトヲ阻止シタ云フ

事實ハ、動カスベカラザル事實デアルノデアリマス（拍手）議

院ノ内部ニ於テ普通選舉ノ議案ガ上程セラルルニ當テ

警察官ガ木柵ト繩ヲ以テ議院ヲ包圍シ、又約八千ノ警察官ト幾何カノ憲兵ヲ以テ之ヲ擁護セントシト云フ事實、

斯ノ如キコトヲ提議致シマス（拍手起ル）

ヲ見ル者ガアリマシタナラバ、必ズヤ此警察官ノ取締ノ方法ニ對シテハ、非難攻撃ヲスルノハ當然ノコトデアリマス、幾何ノ民衆ガ來ルカ、幾何ノ請願者ガ來ルカト云フコトモ分ラナ

イノニ、早ク既ニ警察官ガ恰モ多數ノ暴民デモ來ルカノ如キ考ヲ以テ（「間違テ居ルヨ」ト呼フ者アリ）暴民ヲ防グガ如

致シタル所ノ在野黨ノ側ニ於テハ、河野廣中氏、或ハ島田三郎氏、或ハ尾崎行雄氏ノ如キ、數十年一日ノ如ク憲政

ノ爲ニ努力致シテ居ラル、所ノ諸先輩ヲ始メトシテ、各派

ノ名士諸君ガ極力普選案ノ通過ニ努力致シテ居ラル、際

ニ、政友會カラモ相當ノ名士ガオイデニナックヤウニ思ヒマス

キ態度ヲ以テスルト云フコトハ、一般民衆ニ對シテ大ナル侮

辱ヲ與ヘタモノト謂ハネバナラヌノデアリマス（拍手）而シテ

院ノ内部ニ於テハ如何デアリマス、吾々普通選舉ノ提案ヲ

致シタル所ノ在野黨ノ側ニ於テハ、河野廣中氏、或ハ島田

三郎氏、或ハ尾崎行雄氏ノ如キ、數十年一日ノ如ク憲政

ノ爲ニ努力致シテ居ラル、所ノ諸先輩ヲ始メトシテ、各派

ノ名士諸君ガ極力普選案ノ通過ニ努力致シテ居ラル、際

ニ、政友會カラモ相當ノ名士ガオイデニナックヤウニ思ヒマス

キ態度ヲ以テスルト云フコトハ、一般民衆ニ對シテ大ナル侮

辱ヲ與ヘタモノト謂ハネバナラヌノデアリマス（拍手）而シテ

院ノ内部ニ於テハ如何デアリマス、吾々普通選舉ノ提案ヲ

致シタル所ノ在野黨ノ側ニ於テハ、河野廣中氏、或ハ島田

三郎氏、或ハ尾崎行雄氏ノ如キ、數十年一日ノ如ク憲政

ノ爲ニ努力致シテ居ラル、所ノ諸先輩ヲ始メトシテ、各派

ノ名士諸君ガ極力普選案ノ通過ニ努力致シテ居ラル、際

ニ、政友會カラモ相當ノ名士ガオイデニナックヤウニ思ヒマス

キ態度ヲ以テスルト云フコトハ、一般民衆ニ對シテ大ナル侮

辱ヲ與ヘタモノト謂ハネバナラヌノデアリマス（拍手）而シテ

院ノ内部ニ於テハ如何デアリマス、吾々普通選舉ノ提案ヲ

致シタル所ノ在野黨ノ側ニ於テハ、河野廣中氏、或ハ島田

三郎氏、或ハ尾崎行雄氏ノ如キ、數十年一日ノ如ク憲政

ノ爲ニ努力致シテ居ラル、所ノ諸先輩ヲ始メトシテ、各派

ノ名士諸君ガ極力普選案ノ通過ニ努力致シテ居ラル、際

ニ、政友會カラモ相當ノ名士ガオイデニナックヤウニ思ヒマス

キ態度ヲ以テスルト云フコトハ、一般民衆ニ對シテ大ナル侮

辱ヲ與ヘタモノト謂ハネバナラヌノデアリマス（拍手）而シテ

院ノ内部ニ於テハ如何デアリマス、吾々普通選舉ノ提案ヲ

致シタル所ノ在野黨ノ側ニ於テハ、河野廣中氏、或ハ島田

ハ一トシテ聽クベキモノガアリマセヌ偶、聽クベキモノアリト  
スレバ、或ル議員ノ御演説ニナリシタル如ク、無產階級ノ  
者ハ比較的利慾ニ感ハサレ易イ人物ガ多イノデアル、斯ノ  
如キ者ハ多く買收ニ應ズルノ虞アルモノデアル、斯ノ如キ者  
ニ多數ノ選舉權ヲ與ヘルト云フコトニナレバ、之ニ依シテ選  
出セラルベキ候補者ノ素質ト云フモノガ大ニ低下スルモノ  
デアル、斯様ナ議論ヲ爲サル方ガアリマシタ、私ハ他ノ議論  
ニ付テハ、既ニ辯駁モアツコトデアリマスカラ、多ク申シマセ  
ヌガ、此衆議院ノ議政壇上ニ於テ、何等ノ必要ナキニ拘ラ  
ズ…

○議長(奥繁三郎君) 横山君注意致シマス、今ハ普通選案  
ノ討議デハアリマセヌ、本論ニ入ルヤウニ注意致シマス  
〔ヒヤー〕ト呼フ者アリ)

○横山勝太郎君(續) 民衆ヲ挑發シテ、民衆ノ反感ヲ買  
フガ如キ言論ヲ爲スノ必要ハ無イト私ハ認メテ居ルノデア  
ル、民衆ニ媚ビルノ必要モ無イケレドモガ、何ノ必要アテ此  
民衆ニ對シテ侮辱ヲ與ヘ、罵詈謔謗ヲスルノデアルカト云フ  
(拍手)斯ノ私ハ聽カネバナラヌ、斯ノ如キ議論ト云フモノハ、宛モ  
コトヲ私ハ聽カネバナラヌ、又或人ノ議論ニ依レバ、今  
回ノ普通選舉ノ民衆運動ト云フモノハ、或ル一派ノ者ガ之  
ノ人ニ挑戰ヲ爲シタモノデアルト私ハ斷言シテ憚カラヌ  
(拍手)斯ノ如キ思想ニ依シテ政府並ニ政府與黨が普通選  
舉案ニ對シマシタノデアリマス、又或人ノ議論ニ依レバ、今  
回ノ普通選舉ノ民衆運動ト云フモノハ、或ル一派ノ者ガ之  
ヲ挑發シ、之ヲ煽動シタニ過ギヌノデアッテ、民衆ハ決シテ普  
通選舉其モノヲ了解致シテ居ラヌノデアルト、斯ノ如キ論ヲ  
シテ居ル、斯ノ如キ論據カラ政府並ニ政府與黨が民衆ヲ觀  
察致シマスカラ、總テノ民衆ガ暴民デアルカノ如ク見エルノ  
デアル是ハ政府並ニ政府與黨ノ鑑識ヲ誤マラレタ點ニア  
ル、政府並ニ政府與黨ノ諸君、殊ニ遞信省デアルトカ、内務  
省デアルトカ云フ役所ノ秘書官ノ諸君、或ハ神奈川縣知  
事即チ地方長官ノ如キ人々、役所ノ小サナ窓カラ民衆ヲ  
眞理デアルトスルナラバ、政友會ノ二百八十ノ諸君ハ、此議  
院ト云フ小サイ建物ノ内ニ於テ、サウシテ田舎カラ御上京  
ト等シイ議論デアルト考ヘル此意味ニ於テ私ハ今申上げ  
タ、井底ノ痴蛙ガ天ヲ眺メテ天ハ小サナ窓カラ御上京  
眞理デアルトスルナラバ、此議院ノ二百八十ノ諸君ハ、此議  
院ト云フ小サイ建物ノ内ニ於テ、サウシテ田舎カラ御上京  
ニナフテ、宿屋カラ自動車ニ乘テ來テ、サウシテ民衆ヲ眺メ  
テ、此民衆ハ普通選舉ヲ要求シテ居ラヌト叫  
決シテ普通選舉ヲ自覺シタルモノデハナイト仰ヤルナラバ、

恰モ二百八十ノ蛙ガ、井戸ノ底カラ天ヲ眺メテ、天ハ小サイ  
ト言フノト同様デアルト私ハ考ヘル極(口伊之助君)横山君  
ソチヤ向イテヤレ何故私ノ顔ヲ見ナハルカソ、チャ向イテヤ  
リナハレ」ト呼フ)

○議長(奥繁三郎君) 静ニ  
○横山勝太郎君(續) 而シテ本問題ニ付テ只今内務省  
ノ參事官松田源治君ノ反對ノ御演説ヲ拜聴致シマシタガ  
松田源治君ハ代議士トシテ發言ヲ爲サレタノデアルカ、或  
ハ内務省ノ參事官トシテ御發言ヲ爲サタノデアルカ、其資  
格ニ付テモ私ハ疑フ持ツモノデアリマス、若シ松田源治君ガ  
代議士トシテノ資格ニ於テ御發言ニ相成ツタモノトスレバ、  
私ハ松田源治君ノ其豹變ノ甚シキニ驚カザルヲ得ナイ(拍  
手)松田源治君ハ多年在野法曹トシテ聲望隆々タルモノト  
マデハ申シマセヌケレドモ(笑聲起)免ニ角一廉ノ名聲ヲ  
有セラル〔君ヨリハエライヨ〕ト呼フ者アリ)在野法曹デア  
テ、多年人權擁護ノ爲ニ御盡力ニ相成リ、民衆運動ノ何物  
タルカフ能ク御了解ニナシテ居ル、又普通選舉ノ何物タルカ  
ヲモ能ク御了解ニナシテ居ル御方デアル、此松田源治君ガ  
此議政壇上ニ立テ、幾多ノ新聞紙ニ書イテアル火ヲ賭ル  
ヨリモ明ナル事實ニ對シテ、之ヲ御否認ニ相成ルト云フ事  
柄ハ、少クトモ在野法曹トシテ多年辯護士ノ職務ニ居ラ  
レタル松田源治君ノ發言トシテハ、私ハ之ヲ受取ル譯ニイ  
カヌノデアリマス、併ナガラ内務省ノ參事官トシテ、内務省  
省參事官トシテ御話ニナシタ事ハ、其御演説ノ根據タル材  
料ハ何處カラ御持チニナシタノデアルカト云フコトヲ聽カネバ  
ナラヌ、只今吾々が申上ゲテ居ルコトハ、之ヲ公平ニ觀察ヲ  
致シマスレハ、在野ノ代議士若クハ民衆ト警察官トノ喧嘩ヲ  
此所ニ持シテ來テ、公平ナル諸君ノ批判ヲ仰ガント致シテ居  
ルノデアル、其喧嘩ノ相手方ノ一方ノ言葉ヲ聽イテ、即チ下級  
ノ警察官ノ御報告ヲ御信用ニナシテ、ソレ金科玉條トシテ  
四代議士巡査ニ殴打レテ負傷、引捉ヘテハ貨物自動車  
ニ投リ込ム、檢束者五十名ニ上ル(其記事ノ内容ニ於テ、警  
官拔劍シテ憲政會ニ亂入、中野代議士危ク逃ル、百五十  
人檢束ノ大混亂、次城普通選舉聯盟團ノ決死隊五百餘名ヲ  
初メ、全國各地ヨリ普通選舉斷行ヲ要求スル民衆ハ、續々トシ  
テ憲政會本部ヘ押寄セ、請願者ヲ手ニシテ議院ニ向ヘルガ  
ヘ、普選ノ主將河野廣中翁ハ、午後四時半議會ヲ去テ本部ニ入ルヲ  
同本部附近ハ警官憲兵ヲ取囲ミ、民衆ノ同本部ニ入ルヲ  
拒ム、本部内及ビ附近ノ民衆ハ、午後三時既ニ數千ニ達シ  
或ハ屋上ニ上リ、屏ヲ攀テテ議會ノ經過ヲ待チツ、アル所  
時以外トシテハ、五十餘年間稀ニ見ルトコロデアル、此諸君

事官松田源治君ノ發言トシテ暫ク——松田源治君ハ其  
下僚ノ持シテ來タ、下級警察官ノ作シタ、全く信用ノ無イ文  
書ヲ机ノ上デ御朗讀ニナシテ、此席デ御報告ニナシタニ過ギ  
アリマスカラ、私ハ證據ヲ提供致シタイト思フ、其證據ヲ提  
供スルコトハ、多少ノ時間ヲ要スルコトアリテ、洵ニ諸君ニ  
對シテ御氣ノ毒ニ感ジマスケレドモガ、此著明ナル天下公  
衆ノ認メテ争フコトノ出來ナイ事實ヲ御否認ニナリマスカラ、  
其否認ノ態度ニ對シテ、私ハ多少ノ時間ヲ要スルカ、之ヲ  
證明セネバナラヌ態度ニ出ヅルコトハ、諸君自ラ招イタ罪デ  
アルト断言致シマス、吾々ハ責任上此新聞ヲ讀ンデ置キマ  
ス(ヨセヨセ)ト呼フ者アリ)然ラバ諸君ノ御反対モアリマス  
カラシテ、私ガ其反対ヲ排シテマデ之ヲ朗讀セネバナラヌ必  
要ヲ一言述ベテ置キマス、諸君ノ既ニ新聞ヲ讀ンデ御承知  
デアルト云フナラバ、何故新聞ヲ御否認ニナルカ、吾々ハ此  
議政壇上ニ於テ、如何ニ正義ヲ主張シ、如何ニ眞理ヲ主張  
シテモ、横暴ナル二百八十ノ多數ノ前ニ、到底打勝ツコト  
ガ出来マセヌカラ、結論ニ於テハ吾々ハ何時デモ敗ケルノデ  
アル、ソレ故ニ吾々ハ今日二百八十ノ多數ト云フ者ヲ相手  
ニシテ見テハ居ラヌノデアリマス、二百八十ノ面前ニ於テ之  
ヲ朗讀スルコトニ依シテ、速記錄ヲ通ジテ六千万ノ國民ニ此  
事實ヲ報道スルノ必要ガアル(拍手)去ル二月二十四日發  
行ノ國民新聞ニハスノ如ク掲載セラレテアリマス、表題ニ  
ハ「突貫、拔劍、宛ラ夜戰、田中代議士署長ニブン殴打レ、  
四代議士巡査ニ殴打レテ負傷、引捉ヘテハ貨物自動車  
ニ投リ込ム、檢束者五十名ニ上ル(其記事ノ内容ニ於テ、警  
官拔劍シテ憲政會ニ亂入、中野代議士危ク逃ル、百五十  
人檢束ノ大混亂、次城普通選舉聯盟團ノ決死隊五百餘名ヲ  
初メ、全國各地ヨリ普通選舉斷行ヲ要求スル民衆ハ、續々トシ  
テ憲政會本部ヘ押寄セ、請願者ヲ手ニシテ議院ニ向ヘルガ  
ヘ、普選ノ主將河野廣中翁ハ、午後四時半議會ヲ去テ本部ニ入ルヲ  
同本部附近ハ警官憲兵ヲ取囲ミ、民衆ノ同本部ニ入ルヲ  
拒ム、本部内及ビ附近ノ民衆ハ、午後三時既ニ數千ニ達シ  
或ハ屋上ニ上リ、屏ヲ攀テテ議會ノ經過ヲ待チツ、アル所  
時以外トシテハ、五十餘年間稀ニ見ルトコロデアル、此諸君

ノ熱望セル要求モ、政友會ノ頑冥ト横暴トニ依テ、既ニ運命ヲ決セラレントシテ居ル、議場ノ内外遍ハ張ラレ、警官ノ人垣ハ作ラレ、民衆ノ運動ヲ阻止シテ居ル、吾人ハ輿論ヲ喚起シテ、死ヲ賠シテモ權利ノ要求ニ邁進シナケレバナラヌ「憲政會ヲ中心シテ、其附近ニ於ケル民衆ハ刻々トシテ增加シテ行クノア、此方面ノ指揮官縣警察務部長ハ、午後七時三十分ニ至リ、斷然民衆ノ解散ヲ命ジ、警官ハ頻リニ活動ヲ始メタノア、憲政會本部ニテハ、此形勢ヲ看取スルト同時ニ、正門ヲハタト縫切ダノア、多數ノ警官ハ、決死ノ勢ヲ以テ鐵扉ヲ押破テ闖入シテ解散ヲシ、中ニハ三名ノ警官ハ、理不盡ニモ拔劍シテ民衆ヲ威嚇シ、茲ニ大衝突ヲ演ジ、東サレンシタノデ、憲政會本部ニテハ、此形勢ヲ看取スルト同时ニ、正門ヲハタト縫切ダノア、多數ノ警官ハ、決死ノ勢ヲ以テ鐵扉ヲ押破テ闖入シテ解散ヲシ、中ニハ三名ノ警官ハ、理不盡ニモ拔劍シテ民衆ヲ威嚇シ、茲ニ大衝突ヲ演ジ、一時ニ民衆百餘名ハ檢束サレ、中ニハ追ハレテ溝中ニ墜落スルナド、大修羅場ガ現出サレ、報告演説中デアツタ代議士中野寅吉氏モ、血迷シ警官ノ爲メニ押シ取巻カヒ、將ニ檢束サレンシタノデ中野氏ハ云々「其次ニ全ク其警官隊ノ上逆セ加減ハ、御詰シニナラナカッタ、所ヘ森田憲政會總務人權蹂躪モ甚シ」トテ議會問題ト爲スベク大ニ敷闊テ居ル」

其次ニ斯ノ如キ記事ガアリマス「拔劍ノ實見者中村雪山氏談、憲政會本部内デ横暴ノ警官ガ拔劍ヲ目擊シタ憲政會院外園ノ中村雪山氏ハ語ル、恰度南代議士ハ議會ノ經過ヲ報告中、民衆ハ普選歌ヲ頗ル靜肅ニ歌シテ居タル所、突然表門ヨリ多數ノ警官ガ闖入シ、一同ノ解散ヲ命ジタノア何レモ躊躇シテ居ルト、理不盡ニモ拔劍シテ大混雜ニ陥ラシメタノアル」之ガ拔劍ニ關係アル前後ノ記事デアリマシテ、國民新聞ニ掲載セラレテアル記事ノ一端デアリマス、其二月二十四日付ノ萬朝報ノ記事ニ依リマスルト、是亦殆ド同様ノ記事ダアリマス、其内容ハ長クナリマスカラシテ、成ベク簡単ニ致シマス、其標題ニハ「警官隊突然トシテ闖入、拔劍シテ猛リ狂フ、立籠レル民衆ヲ追拂ハントシテ、野黨本部前ノ大混亂」斯ノ如ク記載ヲセラレテ居リマシテ、其記事ノ中ニ「警官隊百餘名ハ表門ト裏門トヨリ矢庭ニ闖入、場内ノ民衆ヲ追拂ハントシタルニ依リ、同本部ヨリ院外園ノ人々ガ飛出シ來テ抗議ヲ申込ミタレド、警官隊ハ耳ニモ入レズ、無理無體ニ追出サントシタノア、此處ニ民衆ト警官隊トノ大格闘トナリ、雙方入亂レテ大ニ争ヒ、警官隊ハ遂ニ敵セズト見タカ、其中ニ三名ガ突然拔劍、白刃ヲ

振翳シテ民衆ニ迫シタノア、民衆ノ憤怒一時ニ發激、殆ド收命ヲ決セラレントシテ居ル、議場ノ内外遍ハ張ラレ、警官ノ人垣ハ作ラレ、民衆ノ運動ヲ阻止シテ居ル、吾人ハ輿論ヲ喚起シテ、死ヲ賠シテモ權利ノ要求ニ邁進シナケレバナラヌ「憲政會ヲ中心シテ、其附近ニ於ケル民衆ハ刻々トシテ增加シテ行クノア、此方面ノ指揮官縣警察務部長ハ、午後七時三十分ニ至リ、斷然民衆ノ解散ヲ命ジ、警官ハ頻リニ活動ヲ始メタノア、憲政會本部ニテハ、此形勢ヲ看取スルト同时ニ、正門ヲハタト縫切ダノア、多數ノ警官ハ、決死ノ勢ヲ以テ鐵扉ヲ押破テ闖入シテ解散ヲシ、中ニハ三名ノ警官ハ、理不盡ニモ拔劍シテ民衆ヲ威嚇シ、茲ニ大衝突ヲ演ジ、一時ニ民衆百餘名ハ檢束サレ、中ニハ追ハレテ溝中ニ墜落スルナド、大修羅場ガ現出サレ、報告演説中デアツタ代議士中野寅吉氏モ、血迷シ警官ノ爲メニ押シ取巻カヒ、將ニ檢束サレンシタノデ中野氏ハ云々「其次ニ全ク其警官隊ノ上逆セ加減ハ、御詰シニナラナカッタ、所ヘ森田憲政會總務人權蹂躪モ甚シ」トテ議會問題ト爲スベク大ニ敷闊テ居ル」

次際朗讀ヲシテ置キマス、其標題ニハ「無抵抗ノ民衆ヲ蹴動ヲ始メタノア、憲政會本部ニテハ、此形勢ヲ看取スルト同时ニ、正門ヲハタト縫切ダノア、多數ノ警官ハ、決死ノ勢ヲ以テ鐵扉ヲ押破テ闖入シテ解散ヲシ、中ニハ三名ノ警官ハ、理不盡ニモ拔劍シテ民衆ヲ威嚇シ、茲ニ大衝突ヲ演ジ、東サレンシタノデ、憲政會本部ニテハ、此形勢ヲ看取スルト同时ニ、正門ヲハタト縫切ダノア、多數ノ警官ハ、決死ノ勢ヲ以テ鐵扉ヲ押破テ闖入シテ解散ヲシ、中ニハ三名ノ警官ハ、理不盡ニモ拔劍シテ民衆ヲ威嚇シ、茲ニ大衝突ヲ演ジ、一時ニ民衆百餘名ハ檢束サレ、中ニハ追ハレテ溝中ニ墜落スルナド、大修羅場ガ現出サレ、報告演説中デアツタ代議士中野寅吉氏モ、血迷シ警官ノ爲メニ押シ取巻カヒ、將ニ檢束サレンシタノデ中野氏ハ云々「其次ニ全ク其警官隊ノ上逆セ加減ハ、御詰シニナラナカッタ、所ヘ森田憲政會總務人權蹂躪モ甚シ」トテ議會問題ト爲スベク大ニ敷闊テ居ル」

先頭ニ民衆ヲ散々ニ蹴散ラス、憲政會本部へ突如警官隊突進」而シテ拔劍ヲシタル顛末ハ、前ニ朗讀ヲ致シマシタル二新聞ト大同小異デアリマスルコトヲ申上げテ置キマス(モウヨシテ吳レ「謹聽」ト呼フ者アリ)同様ニ月二十四日ノ報知新聞ノ記事ノ一部ヲ朗讀致シテ置キマス(皆讀ミ給ヘ「中央新聞モ」ト呼フ者アリ)何タル暴狀ゾ、弘田象潟署長代議士ヲ殴打、檢束サレタ田中善立氏ノシテ此内容ハ申上げナシモ御分リデアリマセウカラ、之ヲ省略シテ置キマス、其次ニ警官門ヲ破テ闖入、拔劍シテ立騒グ憲政本部内ノ亂闘」斯ノ如クシテ謂レナク數名ノ警察官ガ、我憲政會本部ニ不法ニ闖入致シテ、拔劍ヲ致シタルト云フ顛末ガ、之ニ掲載致シテアリマス、其次ニ同ジクニ月二十四日ノ讀賣新聞ノ記事デアリマス、其標題ニ曰ク「憲政會本部前デ警察官ガ拔劍シテ民衆ヲ追拂ハウトシ數名ノ民衆負傷ス」斯クノ如クニシテ、其内容ハ前ニ朗讀致シマシタル新聞紙ト、略ボ同様ノ記事カ掲載ヲセラレテアリマス、此五ツノ新聞、即チ國民新聞、萬朝報、やまと新聞、報知新聞、讀賣新聞、此等ノ新聞ハ極メテ明瞭ニ警察官ガ拔劍ヲシタ顛末ヲ掲載致シテ居ルノデアリマス、而シテ拔劍ヲスルニ付テ、如何ナル必要アツカト申シマスレバ、全ク法律上ノ根拠ハ無イノデアリマス、憲政會本部ノ廣庭ニアリマシタル所ノ民衆ハ、極メテ靜肅デアリマシテ、其一方ニハ演壇ガ設ケテ、静肅ナル民衆ヲ追拂ハント云フコトノ、顛末モ、此新聞ニト云フ状態デアル、ソレニモ拘ラズ、警察官ハ無理ニ屏ヲ破シテ闖入ヲ致シテ、而シテ謂レナク數名ノ警察官ガ拔劍ヲシテ、鴻警察署長ガ、先刻田中善立君ガ此壇上ニ立テ辯明シテ、日日新聞、東京朝日新聞、此三ツノ新聞紙ニ依リマシテハ、拔劍ノ事柄ハ掲載シテゴザイマセヌケレドモガ、弘田象潟警察署長ガ、若クハ拘禁ヲ抹殺セラレタト云フ事柄ハ、實ニ大膽不敵、無責任極マル言証言ノ位置ニ立ツト云フコトヲ聲明セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ松田君ガ極メテ無責任ナル下級ノ警察官ノ報告書ノミ信用シテ、此責任アル數多ノ大新聞ノ記事ヲ全然抹殺セラレタト云フ事柄ハ、實ニ大膽不敵、無責任極マル言証言ノ位置ニ立ツト云フコトヲ聲明セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ松田君ガ極メテ無責任ナル下級ノ警察官ノ報告書ノミ信用シテ、此責任アル數多ノ大新聞ノ記事ヲ全然抹殺セラレタト云フ事柄ハ、實ニ大膽不敵、無責任極マル言証言ノ位置ニ立ツト云フコトヲ聲明セラレテ居ルノデアリマス、而シテ「其通リ」ト呼フ者アリ)裁判所デ分ルヨ「下呼フ者アリ」裁判所デ分ルト云フ御議論モ時々政友會ノ席カラ承リマスルガ、裁判所ハ御承知ノ通り、此頃ハオル意味ノ政策ガ行ハレルト云フ事柄ハ、諸君モヨモヤ御爭ヒテ此頃ハオル意味ノ政策ガ行ハレルト云フ事柄ハ、諸君モヨモヤ御争ヒテ此政策ガ行ハレルト云フ事柄ハ、諸君モヨモヤ御争ヒテハアリマスマス、而シテ多クノ信用スベキ検事ハ最モ公平誠實ニ此主義ニ依テ犯罪ノ取調ヲ致シテ居ル事ト考ヘマスガ、時アツテカ、或ル方面カラ偉大ナル隠レタル力ノ干渉ニ依テ

(ノウ)現ニ天下公知ノ事實アル所ノ犯罪事件デアッテモ、之ヲ起訴シナイト云フ事實ニ現レテ居ルト云フコトヲ、私ハ斷言シテ憚ラナイ、斯ノ如キ次第アリマスカラシシ、田中君ノ事案ガ今日裁判所ニ連バレマシテモ、裁判所ノ決定其他モノハ直ニ此事實ヲ抹殺スルニハ足ラナイト云フコトヲ、私ハ國民ノ前ニ断言スルノ根據ヲ持ツノデアリマス(拍手)此故ニ吾々ハ政友會ノ諸君ノ裁判所ニ行ケバ分ルト仰セニナリマシテモ、吾々ハ其言ニ服従スル譯ニハ參リマセヌ、吾々立法部ノ者ハ、司法部ノ者ガ罪有リト断定致シマセウガ、罪無シト断定致シマセウガ、司法部ニ獨立シタル立法部ハ、立法部ノ眼識ニ依シテ此事實ノ有無ヲ判断スレバソレデ宜シイノデアル(拍手)徒ニ諸君ノ如ク立法部ニ列シテ居リナガラ、立法部ガ當然ノ權能ヲ發揮スルコト能ハズ、若クハ權能ヲ發揮スルコトヲ故ラニ避ケテ、一二モ裁判所ニモ裁判所、何事モ裁判所ヘ持テ行ケバ、眞否が解決セラル、ト考ヘテ居ル人々、自ラ此獨立ニシテ神聖ナル我が立法部ノ權威ヲ自ラ卑下スルモノテアルト、私ハ断言ヲ致シマス(拍手)吾々ハ今申上ダタ數個ノ事實ニ依シテ斯ノ如キ結論ニ到着スルコトヲ得ルト考ヘマス、圓頭ニ於申上ダマシタ如ク、何ノ必要アリカ、我が内務省ノ監督ノ下ニ居ル所ノ警視廳ハ、此神聖ナル立法部ノ周圍ニ木柵ヲ立て、繩ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實デアル(拍手)反對黨ノ門前ニ警察官ガ無数ノ群衆人ノ憲兵ト、約八千人乃至一万人人ノ力ヲ提ダテ居ル警察官ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於一格闘ヲ致シ、其結果我ガ憲政會本部ニ闖入ヲ致シテ、必要ナキニ拘ラズ數名ノ警察官ガ拔劍ラシテ、民衆ヲ追拂ダト云フ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於二當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)

云フ事實ハ、歴史ノ上ニ御承知ニナラニ居ル事ト思フ、吾々ハカハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマスガ、吾々議會政治ヲ理想ト致シテ居ル所ノ此現實ノ政治ニ佛蘭西國民ノ立場カラ見テ、果シテ幸デアタカ不幸デアタバハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマス(拍手)此故ニ吾々ハ政友會ノ諸君ノ裁判所ニ行ケバ、吾々ハ其言ニ服従スル譯ニハ參リマセヌ、吾々立法部ノ者ハ、司法部ノ者ガ罪有リト断定致シマセウガ、罪無シト断定致シマセウガ、司法部ニ獨立シタル立法部ハ、立法部ノ眼識ニ依シテ此事實ノ有無ヲ判断スレバソレデ宜シイノデアル(拍手)徒ニ諸君ノ如ク立法部ニ列シテ居リナガラ、立法部ガ當然ノ權能ヲ發揮スルコト能ハズ、若クハ權能ヲ發揮スルコトヲ故ラニ避ケテ、一二モ裁判所ニモ裁判所、何事モ裁判所ヘ持テ行ケバ、眞否が解決セラル、ト考ヘテ居ル人々、自ラ此獨立ニシテ神聖ナル我が立法部ノ權威ヲ自ラ卑下スルモノテアルト、私ハ断言ヲ致シマス(拍手)吾々ハ今申上ダタ數個ノ事實ニ依シテ斯ノ如キ結論ニ到着スルコトヲ得ルト考ヘマス、圓頭ニ於申上ダマシタ如ク、何ノ必要アリカ、我が内務省ノ監督ノ下ニ居ル所ノ警視廳ハ、此神聖ナル立法部ノ周圍ニ木柵ヲ立て、繩ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實デアル(拍手)反對黨ノ門前ニ警察官ガ無数ノ群衆人ノ憲兵ト、約八千人乃至一万人人ノ力ヲ提ダテ居ル警察官ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於一格闘ヲ致シ、其結果我ガ憲政會本部ニ闖入ヲ致シテ、必要ナキニ拘ラズ數名ノ警察官ガ拔劍ラシテ、民衆ヲ追拂ダト云フ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於二當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)

云フ事實ハ、歴史ノ上ニ御承知ニナラニ居ル事ト思フ、吾々ハカハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマスガ、吾々議會政治ヲ理想ト致シテ居ル所ノ此現實ノ政治ニ佛蘭西國民ノ立場カラ見テ、果シテ幸デアタカ不幸デアタバハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマス(拍手)此故ニ吾々ハ政友會ノ諸君ノ裁判所ニ行ケバ、吾々ハ其言ニ服従スル譯ニハ參リマセヌ、吾々立法部ノ者ハ、司法部ノ者ガ罪有リト断定致シマセウガ、罪無シト断定致シマセウガ、司法部ニ獨立シタル立法部ハ、立法部ノ眼識ニ依シテ此事實ノ有無ヲ判断スレバソレデ宜シイノデアル(拍手)徒ニ諸君ノ如ク立法部ニ列シテ居リナガラ、立法部ガ當然ノ權能ヲ發揮スルコト能ハズ、若クハ權能ヲ發揮スルコトヲ故ラニ避ケテ、一二モ裁判所ニモ裁判所、何事モ裁判所ヘ持テ行ケバ、眞否が解決セラル、ト考ヘテ居ル人々、自ラ此獨立ニシテ神聖ナル我が立法部ノ權威ヲ自ラ卑下スルモノテアルト、私ハ断言ヲ致シマス(拍手)吾々ハ今申上ダタ數個ノ事實ニ依シテ斯ノ如キ結論ニ到着スルコトヲ得ルト考ヘマス、圓頭ニ於申上ダマシタ如ク、何ノ必要アリカ、我が内務省ノ監督ノ下ニ居ル所ノ警視廳ハ、此神聖ナル立法部ノ周圍ニ木柵ヲ立て、繩ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實デアル(拍手)反對黨ノ門前ニ警察官ガ無数ノ群衆人ノ憲兵ト、約八千人乃至一万人人ノ力ヲ提ダテ居ル警察官ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於一格闘ヲ致シ、其結果我ガ憲政會本部ニ闖入ヲ致シテ、必要ナキニ拘ラズ數名ノ警察官ガ拔劍ラシテ、民衆ヲ追拂ダト云フ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於二當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)

云フ事實ハ、歴史ノ上ニ御承知ニナラニ居ル事ト思フ、吾々ハカハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマスガ、吾々議會政治ヲ理想ト致シテ居ル所ノ此現實ノ政治ニ佛蘭西國民ノ立場カラ見テ、果シテ幸デアタカ不幸デアタバハ、是ハ歴史家ノ判断ニ一任シテ宜シイノデゴザイマス(拍手)此故ニ吾々ハ政友會ノ諸君ノ裁判所ニ行ケバ、吾々ハ其言ニ服従スル譯ニハ參リマセヌ、吾々立法部ノ者ハ、司法部ノ者ガ罪有リト断定致シマセウガ、罪無シト断定致シマセウガ、司法部ニ獨立シタル立法部ハ、立法部ノ眼識ニ依シテ此事實ノ有無ヲ判断スレバソレデ宜シイノデアル(拍手)徒ニ諸君ノ如ク立法部ニ列シテ居リナガラ、立法部ガ當然ノ權能ヲ發揮スルコト能ハズ、若クハ權能ヲ發揮スルコトヲ故ラニ避ケテ、一二モ裁判所ニモ裁判所、何事モ裁判所ヘ持テ行ケバ、眞否が解決セラル、ト考ヘテ居ル人々、自ラ此獨立ニシテ神聖ナル我が立法部ノ權威ヲ自ラ卑下スルモノテアルト、私ハ断言ヲ致シマス(拍手)吾々ハ今申上ダタ數個ノ事實ニ依シテ斯ノ如キ結論ニ到着スルコトヲ得ルト考ヘマス、圓頭ニ於申上ダマシタ如ク、何ノ必要アリカ、我が内務省ノ監督ノ下ニ居ル所ノ警視廳ハ、此神聖ナル立法部ノ周圍ニ木柵ヲ立て、繩ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實デアル(拍手)反對黨ノ門前ニ警察官ガ無数ノ群衆人ノ憲兵ト、約八千人乃至一万人人ノ力ヲ提ダテ居ル警察官ヲ以テ此立法院ヲ包圍シタ事實モ争フコトノ出來ナイ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於一格闘ヲ致シ、其結果我ガ憲政會本部ニ闖入ヲ致シテ、必要ナキニ拘ラズ數名ノ警察官ガ拔剣ラシテ、民衆ヲ追拂ダト云フ事實モ、是モ極テ明瞭デアル(拍手)斯ノ如ク議院ノ周圍ニ於二當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)佛蘭西革命ノ終期ニ當ブテ有名ナル英雄奈破翁ガ刀ヲ提ダテテ、吾々民衆ニ對シテ非常ナル暴行防壁ヲ加ヘタト云フコトハ、抹殺スベカラサル事實ト言ハナケレバナラヌ(ノウ)



○議長(奥繁三郎君) 議長ハ注意スル權能ヲ持テ居リ  
〔「併計才事ヲ言フナ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕

○横山勝太郎君(續) モウ直ギ濟ミマス——極力桂内閣ノ攻撃ヲセラレテ、サウシテ桂内閣ガ遂ニ土崩瓦解スルニ至ダ際ニ海軍ノ巨額、或ル意味ニ於テハ收賄ノ親玉デアル所ノ山本權兵衛伯ヲ援ケテ、サウシテ非立憲極マル憲法政治ノ運用ヲヤラレタ云コトハ、諸君御記憶ノ通りデアリマス、其際大正三年三月十日在野黨カラ不信任ノ決議案ヲ提出セラレテ、矢張民衆運動ガ起リマシタ、其際ニ前ニモ例ナル事デアリマス通り、數千ノ群衆ガ此議會ノ附近ニ参リマスト云フト、去モ去ヌル二十三日ノ出来事ノ如ク憲兵ト警察官ヲ以テ此周囲ヲ包圍セラレ、サウシテ多數ノ民衆ニ對シテ非常ナル脅威ヲ與ヘラレタ、此當時モデス、私或ル先覺ノ士ニ聞ク所ニ依レバ、政友會ノ諸君ハ民衆ニ對シテ非常ニ恐怖ヲ感ゼラレテ、當日未明ニ、人ノ知ラザル内ニ竊ニ全部ノ人が登院ヲセラレテ、色々協議ヲセラレタト云フ事實ハ、動スベカラザル事實デアル(拍手)諸君ハ今日ニ於テ冷静ニ御考ニナリマシタナラバ、大正三年ノ「シーメンズ」事件ノ當時ニ起リシ民衆運動ト、山本内閣ノヤダ事柄ト何方が善イ、何方が惡イト御考ニナツテ居ルノデアリマスクト云フコトヲ、私ハ斷言スル(拍手)而シテ此正當ナル民衆運動ニ對スル政友會諸君ノ態度ハ如何デアリマスカ、恰モ之ヲ援助セラレタ政友會ハ責任ヲ分タネバナラヌ隨テ、此内閣ノ責任ヲ問フ所ノ民衆運動ト云フモノハ正當デアッタ現内閣ノ與黨ガ民衆ニ對シテ執ラレタト同様ナ態度ヲ執吾々ハ當時ト雖モ、山本内閣ガ非デアル、隨テト云フ事柄ハ、歴史ノ證明スル所デアリマス(拍手)ソレタト云フ事柄ハ、歴史ノ證明スル所デアリマス(拍手)ソレデ私ハ政友會ノ諸君ニ問ハネバナラヌ(答ヘマセヌ)答ラレマイ(ト呼フ者アリ)恐ラク御答ニナルコトハ出來マイト私は考ヘル、所謂民衆ナルモノガ諸君ノ味方ヲスル時分ニハ、民衆ヲ恰モ自分ノ子供デアルカノ如ク御取扱ニナリ、即チ衆議院ノ正門ヲ開いて之ヲ歓迎ヲスルト云フ態度ヲ御執リニナリ、一タビ民衆ガ政友會ノ非ヲ鳴ラシテ政友會ニ民衆ヲ利用スル際ニハ極度マニ民衆ヲ利用シテ、恰モ親戚反対スレバ、此善良ナル民衆ヲ捉ヘテ讐敵ノ如ク御取扱ニナルト云フコトハ、何タル矛盾デアルト言ハネバナラヌ(拍手)

敵人ノ如ク扱フ、此故ニ全國到ル處ニ於テ公開ノ演説ヲサル際ニ、民衆ノ反抗ヲ受ケテ、ドノ名士諸氏ノナサル演説モ悉ク民衆ノ反抗ニ遭ウテ、完全ニ演説ヲスルコトガ出來

(拍手)「何處デアルカ」ト呼フ者アリ)何處デ左様ナ例ガアリルト云フコトヲ御尋ニナルマデモナイ、各地ニ於テ演説ヲシテ居ルデハナイカ(拍手)最近ニ於テモ例ヲ市シマスナラバ、名古屋ニ於テ政友會諸君ノ御開催ニナタ演説會ハ悉ク失敗ニ終フテ居ル(拍手)又福島縣ニ於ケル補缺選舉ノ際ニ於ケル演説ノ有様ハ何アリマス、僅カ二百カ三百ノ有權者ナル者ヲ招待シ來テ、數百人ノ警察官ヲ以テ其演説會場ノ周圍ヲ保護セシメテ、サウシテ土木局長堀田君ガ此官憲ノ保護ニ依テ、官憲ノ有難味ヲ演説ヲシテ居タケレドモ、此演説會ガ又大失敗ニ終タ云フコトハ掩フベカラザル事實デハアリマセヌカ(拍手)其他全國到ル處ニ於ケル政友會御開催ノ演説會ノ光景ハ悉ク失敗ヲアル、悉ク失敗ヲ爲サルト云フ理由ハ悉ク民衆ガ反抗スルカラズアル、全國到ル處ノ青年ガ政友會ノ如何ナルモノデアルカト云フコトヲ諒解致シテ居ルカラシテ、政友會ニハ反對スルノデアルト云フコトヲ私ハ目前目撃致シテ居ルナアリマス(此時發言スル者多シ)

○議長(奥繁三郎君) 静肅ニ

○横山勝太郎君(續) ソレ故ニ私ノ申上ダル事が間違テ居ルト御考ニナリマスナラバ……

○議長(奥繁三郎君) 一寸横山君、宣言ガアリマス、時問ハ定刻ニ近ヅキマシタガ、本案ノ決定スルマデ延長スル考デアリマス

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、延長ヲ致シマス

○横山勝太郎君(續) 私ノ申上ダル事が間違ガアルト思召ニナルナラバ、先づ遠隔ナル地方ニ御出ニシテ御演説會ヲ爲サルマデモナク、東京ノ眞中ニ於テ第一聲ヲ御揚ゲニテ幹旋ヲセラレタナラバ、演説會場ノ一箇所ヤ二箇所ハ極テ容易ニ借入レルコトガ出來ルデアラウト考ヘル、吾々ノ方

ガ演説會場ノ必要ヲ感ズル場合ニハ何者カ裏面ニ介在す致シテ、之ヲ妨害スル者ガアリマスガ、現内閣ノ與黨ノ政友會ノ諸君ガ演説會ヲスルト云フコトデアレバ、内務大臣

威力ニ依テ何時デモ演説會場ハ出來ル筈デアル、然ラバ衆議院ノ壇上ニ於テ在野黨ノ者ガ斯ノ如キ演説ヲ爲スカラ、公開演説ヲヤンテ見ヤウト云フ御希望デアルナラバ、明日デモ明後日デモ一ツオヤリニシタラドウデアルカ、併シ演説會ヲ御開催ニナシテモ其結果ハ知ルベキノミデアル、其結果ハ立ツ辯士モ立ツ辯士モ立往生デアルト云フコトヲ豫メ豫メ諒解ニナシ方ガ宜カラウト思フ、要スルニ私ハ内務省參事官松田源治君ガ此公知ノ事實ヲ御否認ニ相成リマスキタルモ、其根據ハ警察官ノ信用スペカラザル報告書ニ基クモノデアルガ故ニ、是ハ何等ノ價値ナキモノデアルト斷定ヲル、吾々ハ責任アル多數ノ活キタル證人ノ書イタ新聞ノ記事ニ筆ヲ執タ諸君ガ、責任ヲ以テ此事實ヲ證明爲サルト云フ此聲明ニ信賴致シ、又吾々ノ同僚デアル所ノ田中善立君ハ御承知ノ通り我黨内部ニ於テモ最モ溫良ニシテ、最も篤實ナ人デアリマス、決シテ群集ナドヲ煽動シテ非立憲ナル行動ヲ爲サルト云フヤウナ人格デナイト云フコトハ、私ダ申スマデモナク、全部ノ議員ガ御諒解ニナシテ居ル通リデアルト私ハ考ヘル（拍手）而シテ田中善立君ハ我が東京市ニ於テモ到ル處ニ於テ群集ノ面前ニ立テ、警察官監督ノ下ニ御演説ヲ爲サテ歩イテ居ルノデアリマスカラ、苟モ我が警視廳下ノ警察官吏ニシテ田中善立君ノ顔ヲ知ラヌ者ハ恐ラクアルマイト思フ……（此時發言スル者多シ）

○議長（奥繁三郎君） 静二

○横山勝太郎君（續） 田中善立君ノ顔ヲ承知シテ居リナガラ、象潟署長ガ名ヲ現行犯ニ藉リテ之ヲ殴打シ、之ヲ拘禁シタト云フ事柄ハ、全ク弘田署長ノ横暴無責任ノ罪デアルト云フ事柄ヲ私ハ此席ニ於テ斷言スル（拍手）而シテ田中善立君ガ民衆ヲ率キテ、アノ現場ニマヂ行進ヲセラレタト云フ事柄ハ、監察官ト妥協ヲ遂ゲテ諒解ノ上デヤラレタト云フ事デアル、然ルニ弘田署長ガ其事ヲ知ラズシテ田中君ヲ拘禁シタト云フコトハ、警察内部ノ不統一ト云フ事ヲ暴露シテ居ルモノデアルト云フ事ヲ私ハ断言スル（拍手）斯ノ如キ次第アリマシテ、賢明ナル政友會ノ諸君ハ

〔「マダ早イゾ」「セツトヤレ」其他發言スル者アリ〕

(「自分ノ良心ニ從ヘト呼フ者アリ)天下公知ノ事實ヲ否認スルト云フヤウナ非紳士的ノ行動ニ出デラル、事ナク、此事實ヲ肯定フセラレテ、サウシテ吾々ノ此決議案ニ賛成ヲセラレントヲ切ニ希望スル次第アリマス(拍手)○議長(奥繁三郎君) 横山勝太郎君ニ照會シマス、横山君ノ演説中ニ、此内務大臣ハ近キ將來ニ於テ劍ヤ鐵砲ヲ以テ此議院ヲ脅威スル、斯ウ云フ一言ハ穩カナラヌヤウニ聽取リマシタ

〔「ノウ」「サウヂヤナイ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御馴熟ナサイ——併シ尙ホ明日デモ速記ヲ見ラレタ上、如何ニモ議長ノ警告尤モト思フナラバ、御取消ナサイ(「ノウ」「事實ダ」ト呼フ者アリ)他ノ人ハ喙ヲ容レルコトハ許シマセヌ——ソレカラ尙ホ一ツ貧弱ナル議院ト云フ言葉ガアリマシタ、所ガ此建物が如何ニモ粗末ダト云フコトニハ、アナタ方一部ノ人ニハ響クカ存ジマセヌケレドモ、多數ノ人ニハサウ響キマセヌ

〔拍手「言ヒ直シタチヤナイカ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 言直シテモ先キノ貧弱ナル議院ト云フコトハ議院ノ尊嚴ヲ損スル虞ガアリマス、是亦考ヘタ上御取消ヲ警告シマス

〔拍手「ノウ」「必要ナシ」ト呼フ者アリ 横山勝太郎君登壇〕

○議長(奥繁三郎君) 床次内務大臣

〔國務大臣床次竹二郎君〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 本案ニ對シテ一言辯ジテ置キマス、去ル二十三日普選法案上程ノ日ハ、其前日來ノ狀況ニ依テ判断ヲ致シマスルニ、多クノ請願者ガ議院ニ參ルヤウニモナリ、又隨テ群衆モ極テ混雜スルコトアラウト想像致シタノテス、斯ル時ニ於テハ相當ナル手配ヲ致シ、或テハ交通ノ遮断ヲ致シテ整理ヲ圖リ、又ハ便利ヲ圖ルト云フ事ハ極テ當局トシテハ必要ナル事ト考ヘタ次第アリマス、幸ニ思ウタ程ノ多クノ請願者モアリマセヌアリマシタ、聞ケバ一万二千有餘ト云フ事アリマシタガ、併シ左様ニ致シマシテモ、中ニミハ容易ナラヌ數アリマス、相當ニ前申スヤウナ手段ヲ以テ其請願ガ靜肅ニ行ハレルヤウニ注意致シタ次第アリマス、又多衆ノ運動ノ禁止、若クハ必要ナル所ハ交通遮断ヲ致シテ、以テ院外ノ騒擾ナランコトヲ期シク次第アル、斯様ナ事アリマシテ、政府ノ處置ト致

〔「ノウ」「サウヂヤナイ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 横山勝太郎君ニ照會シマス、横山君ノ演説中ニ、此内務大臣ハ近キ將來ニ於テ劍ヤ鐵砲ヲ以テ此議院ヲ脅威スル、斯ウ云フ一言ハ穩カナラヌヤウニ聽取リマシタ

〔「ノウ」「サウヂヤナイ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御馴熟ナサイ——併シ尙ホ明日デモ速記ヲ見ラレタ上、如何ニモ議長ノ警告尤モト思フナラバ、御取消ナサイ(「ノウ」「事實ダ」ト呼フ者アリ)他ノ人ハ喙ヲ容レルコトハ許シマセヌ——ソレカラ尙ホ一ツ貧弱ナル議院ト云フ言葉ガアリマシタ、所ガ此建物が如何ニモ粗末ダト云フコトニハ、アナタ方一部ノ人ニハ響クカ存ジマセヌケレドモ、多數ノ人ニハサウ響キマセヌ

〔拍手「言ヒ直シタチヤナイカ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 言直シテモ先キノ貧弱ナル議院ト云フコトハ議院ノ尊嚴ヲ損スル虞ガアリマス、是亦考ヘタ上御取消ヲ警告シマス

〔拍手「ノウ」「必要ナシ」ト呼フ者アリ 横山勝太郎君登壇〕

○議長(奥繁三郎君) 床次内務大臣

〔國務大臣床次竹二郎君〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 本案ニ對シテ一言辯ジテ置キマス、去ル二十三日普選法案上程ノ日ハ、其前日來ノ狀況ニ依テ判断ヲ致シマスルニ、多クノ請願者ガ議院ニ參ルヤウニモナリ、又隨テ群衆モ極テ混雜スルコトアラウト想像致シタノテス、斯ル時ニ於テハ相當ナル手配ヲ致シ、或テハ交通ノ遮断ヲ致シテ整理ヲ圖リ、又ハ便利ヲ圖ルト云フ事ハ極テ當局トシテハ必要ナル事ト考ヘタ次第アリマス、幸ニ思ウタ程ノ多クノ請願者モアリマセヌアリマシタ、聞ケバ一万二千有餘ト云フ事アリマシタガ、併シ左様ニ致シマシテモ、中ニミハ容易ナラヌ數アリマス、相當ニ前申スヤウナ手段ヲ以テ其請願ガ靜肅ニ行ハレルヤウニ注意致シタ次第アリマス、又多衆ノ運動ノ禁止、若クハ必要ナル所ハ交通遮断ヲ致シテ、以テ院外ノ騒擾ナランコトヲ期シク次第アル、斯様ナ事アリマシテ、政府ノ處置ト致

### 第三十一 決議案(佐々木安五郎君提出)

○議長（奥繁三郎君）御異議アリマセヌカ  
〔賛成「賛成」下呼フ者アリ〕  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

錚木三郎兵衛君	上田彌兵衛君	若尾璋八君	難波作之君
佐々木平次郎君	守屋松之助君	納富陳平君	越山太刀三
○岩崎勤君	此際日程第三十一を追加シテ審議セ	仙波大	
コトヲ望ニマス			

廣岡	宇一郎君	廣瀬	爲久君	廣瀬	鎮之君
樋渡	次右衛門君	樋口	伊之助君	日野	辰次君
平田	民之助君	匹田	銳吉君	毛里保	太郎君
元田	肇君	森	恪君	望月	圭介君
望月	政友君	菅原	傳君	菅野傳	右衛門君

清瀬規矩郎君	吉良 元夫君	宣保 威晴君
木村清三郎君	木下成太郎君	木下甚三郎君
北井波治目君	三好 德松君	三土、忠造君
三善 清之君	水野吉太郎君	宮古啓三郎君
三輪市太郎君	白井 博之君	志賀和多利君
下出 民義君	鳥本 信二君	鳥田 鞍雄君

坂上	貞信君	坂本素魯哉君	崎山	克治君
櫻内	幸雄君	澤來太郎君	榎田清兵衛君	

本日内務大臣ノ執リタル措置ハ議院ノ獨立ヲ脅威シ人  
民ノ請願ノ自由ヲ妨害スルモノニシテ非立憲ノ甚シキモ  
ノト認ム  
右決議ス

〔佐々木安五郎君登壇〕

○小山松壽君 議長

○議長（與繁三郎君） 小山君

○小山松壽君 只今日程ハ追加サレマシタガ、先刻議長  
ノ御宣告ニ依リマレバ、本案ノ決定迄時間ヲ延長スルル  
云フコトノ御宣ガアツナデアリマス、然ルニ更ニ追加サル  
ル日程ニ對シテノ時ノ間ノ延長ノ御詰リガナケレバ極テ違法  
ナルコト、私ハ考ヘルノデアリマス、其點ニ於テ辯明ヲ求メマス

「餘計ナコトヲ云フナ」無用々々ト呼ヒ、議場騒然

然

從シテ遣シテ居ルノデス

〔其通り〕其通りト呼フ者アリ

〔無用〕無用ト呼フ者アリ

〔無用〕無用ト呼フ者アリ

〔無用〕無用ト呼フ者アリ

〔發言スル者多シ〕

〔議長〕〔奥繁三郎君〕 静肅ニ——諸君 静肅ニ

〔議長〕〔奥繁三郎君〕 静肅ニ

○議長(奥繁三郎君) 暫時休憩シマス——暫時休憩シマス

午後六時四十四分休憩

午後七時一分開議

○議長(奥繁三郎君) 休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、休憩前ニ小山松壽君ヨリ議長ニ再三御尋ニナリマシタコトデアリマスガ、議長ハ其際議場ニ於テ明白ニ答ヘタルノヲ以テ正當ト考ヘテ居リマス、ケレドモ、各派ノ意見モ伺ッテ見ヤウト思ヒマシテ、前例ニ依シテ各派ノ交渉會ヲ開キタ伊ト思ヒマシタ、所が既ニ多クノ人ノ中デ退院サレタ方モアリマスカラ、各派ノ交渉會ヲ開クニ至リマセナシダ、サリナガラ議長自ラ顧ミテ休憩前ニ宣言シタコトヲ以テ、正當トシテ其通り取扱フ考デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス——佐々木安五郎君ハ著席シテ居ラレマセヌ、故ニ是モ前例ニ依シテ後日適當ナ時期ニ日程ニ上セルコトニ致シタイ(「抛棄シタ」ト呼フ者アリ)拠棄シタトモセヌトモ分リマセヌガ、アノヤウナ場合ニ於テハ延期スルコトニ致シテ、後日適當ナ時期ニ日程ニ上セルノガ前例デアリマス、其前例通り致シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 諸問事項ガアリマス、谷津新八郎君病氣ニ付本月二十六日ヨリ三月十八日マデ、三浦權兵衛君病氣ニ付三月一日ヨリ三月十四日マデ、江崎幸太郎君事故ニ付本月二十八日ヨリ三月七日マデ孰レモ請暇ノ申出ダアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 許可スルコト、致シマス

(吉良元夫君「議事進行ニ付テ一言シタイ、黙テ居ラウト思ヒマシタガ、黙テ居ル譯ニ参リマセヌ」ト呼フ)

○議長(奥繁三郎君) 本日ハ是デ散會、明日本會ハ開キマセヌ、明後日ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス

午後七時五分散會